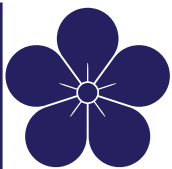


第  
11  
回



# 日本聴覚障害学生 高等教育支援 シンポジウム

2015年12月19～20日

会場：クローバープラザ

- 主催 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)  
国立大学法人筑波技術大学
- 共催 国立大学法人福岡教育大学
- 協力 社会福祉法人福岡県聴覚障害者協会  
特定非営利活動法人障がい者相互支援センター MCP
- 後援 文部科学省 / 独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) / NHK 福岡放送局 /  
FBS 福岡放送 / 九州朝日放送 / RKB 毎日放送 / TVQ 九州放送 / 朝日新聞社 /  
読売新聞社 / 毎日新聞社 / 産経新聞社西部本部 / 西日本新聞社



# もくじ

開催要項	2
挨拶	4
プログラム	6
会場案内	9
アフタヌーンセッション	
会場案内	12
聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2015	13
相談コーナー“トーク&トーク”	14
ミニセミナー・ワークショップ	16
聴覚障害学生支援に関する機器展示	18
分科会	
分科会 1「基礎講座 聴覚障害学生支援再入門 ー合理的配慮の考えにもとづいてー」	22
分科会 2「合理的配慮の時代に求められる聴覚障害学生の構えと技術」	30
分科会 3「一緒にスキルアップ Part2 ーノートテイク・パソコンノートテイク・手話通訳ー」	38
分科会 4「チバリヨー！最初で最後の九州・沖縄開催としないために ー地区の実践から学ぶー」	43
全体会	
特別企画 公開事例検討会 「どうする？どうなる？合理的配慮 ー事例から読み解く障害者差別解消法ー」	58
参考資料	
日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）活動紹介	68
日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan） 連携大学・機関活動紹介	75
九州・沖縄地区大学における聴覚障害学生支援 活動紹介	99
聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2015 発表内容紹介	111

## 開催要項

- 名 称 : 第 11 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム
- 目 的 : 筑波技術大学に事務局を置く日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）では、平成 16 年から、特に聴覚障害学生への支援体制が充実し、積極的な取り組みを行ってきている大学・機関と共同で、聴覚障害学生支援に関するノウハウを積み重ね、先駆的な事例の開拓を行ってきた。一方、我が国では平成 28 年 4 月から障害者差別解消法が施行されることとなり、障害者への不平等な差別的取扱いが禁止され、高等教育機関においても、国公立大学では合理的配慮の提供が法的義務、私立大学で努力義務となる。本シンポジウムでは、そのような情勢を鑑み、全国の大学における聴覚障害学生への支援実践に関する情報を交換するとともに、PEPNet-Japan の活動成果をより多くの大学・機関に対して発信することで、今後の高等教育機関における聴覚障害学生支援体制発展に寄与することを目的とする。
- 日 時 : 2015 年 12 月 19 日（土）14 時～17 時（受付 13 時 30 分～）  
2015 年 12 月 20 日（日）10 時～15 時（受付 9 時 30 分～）
- 会 場 : クローバープラザ（福岡県春日市原町 3-1-7）
- 対 象 : 大学、その他高等教育機関に所属する教職員  
大学等に在籍する聴覚障害学生  
大学等に在籍する聴覚障害学生を支援する情報保障者  
その他高等教育機関における障害学生支援に関心のある方々
- 主 催 : 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）  
国立大学法人筑波技術大学
- 共 催 : 国立大学法人福岡教育大学
- 協 力 : 社会福祉法人福岡県聴覚障害者協会  
特定非営利活動法人障がい者相互支援センターMCP





後 援 : 文部科学省  
独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO)  
NHK 福岡放送局  
FBS 福岡放送  
九州朝日放送  
RKB 毎日放送  
TVQ 九州放送  
朝日新聞社  
読売新聞社  
毎日新聞社  
産経新聞社西部本部  
西日本新聞社

参 加 費 : 無料

大 会 長 : 寺尾 慎一 (福岡教育大学)

実 行 委 員 長 : 石原 保志 (筑波技術大学)

事 務 局 長 : 白澤 麻弓 (筑波技術大学)

幹 事 : 萩原 彩子 (筑波技術大学)

実 行 委 員 : 須藤 正彦・佐藤 正幸・小林 正幸・大杉 豊・山田 重樹・  
三好 茂樹・河野 純大・磯田 恭子・中島亜紀子・石野麻衣子・  
五十嵐依子 (筑波技術大学)  
平田 哲史・相澤 宏充・太田 富雄・牛尾 憲一・柴田 和巳・  
松永亜矢子・内田 佳織 (福岡教育大学)



## 第11回シンポジウムの開催にあたって

国立大学法人 筑波技術大学長

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク 代表

大越 教夫

「日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」は、今年11回目となり新たな10年に向けて歩み始めました。今年は、福岡教育大学との共催により福岡県で開催されることになりました。全国からご参加いただきました皆様を心より歓迎いたします。また、今回のシンポジウムを大会長としてご尽力くださいました福岡教育大学の寺尾学長をはじめ、実行委員ならびに関係の皆様、心より御礼申し上げます。

このシンポジウムを主催する「日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)」が、一昨年、バリアフリーユニバーサルデザイン推進功労者・内閣総理大臣表彰を受賞し、このシンポジウムの役割もより大きなものへと発展しております。

今回のシンポジウムは、さらにバージョンアップされ2日間にわたり開催されます。平成28年4月より施行される「障害者差別解消法」における合理的配慮については、このシンポジウムでも特別企画や分科会で取り上げ、今年的主要テーマの一つになっています。また、全体会、特別企画、分科会、実践事例コンテストをはじめとするさまざまな企画は、どれも魅力的な内容で、参加された皆様にご満足いただけるものと確信しております。

筑波技術大学は、聴覚、視覚障害者のための我が国で唯一の高等教育機関として、国立大学機能強化3分類の中で、「強み・特色のある分野で世界的・全国的な教育・研究を目指す大学」との位置づけのもと、社会自立できる専門職業人を養成、障害・情報保障に関連する研究、障害に関する他大学支援などを主要なミッションとしています。

開学以来、「障害者高等教育研究支援センター」が中心となり、本学の教育・研究活動の成果及び経験を広く提供することにより、情報保障など障害者の教育環境の改善に関して支援を行ってきました。5年前には「教育関係共同利用拠点」としての認定を受け、障害学生に対する学修支援の一層の充実を図っています。さらに、昨年4月には障害者支援や情報保障方法・機器、コーディネート業務などについての専門家の育成を目的とした大学院修士課程「情報アクセシビリティ専攻」を開設しました。

本学の第3期中期目標計画においても、「PEPNet-Japan の活動を通して、全国の連携大学・機関とともにさまざまなモデル事例を構築していくことで、個々の大学のみでは解決しきれない問題へのアプローチを図るとともに、ここで得られたノウハウを成果物(冊子、DVD、Webコンテンツ等)の形で全国の大学に発信する。」と明確に記載し、PEPNet-Japan の活動をこれまで以上に発展させていきたいと考えております。

「第11回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」の開催にあたり、後援の文部科学省、日本学生支援機構、関係の放送・新聞各社ならびに社会福祉法人福岡県聴覚障害者協会、特定非営利活動法人障がい者相互支援センターMCP、福岡教育大学の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。





## 第11回シンポジウムの開催にあたって

第11回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム大会長  
国立大学法人 福岡教育大学長

寺尾 慎一

第11回の日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク全国シンポジウムが、筑波技術大学との共催により、九州・沖縄の地で初めて開催されますことを大変うれしく思います。全国からお集まり頂いた皆さまを心から歓迎いたします。

障害者差別解消法がいよいよ来年4月より施行されます。PEPNet-Japanは、この法律より10年も早く聴覚障害学生の差別をなくすための取り組みを開始し、すでに多くのノウハウを蓄積しバリアフリー社会の実現に大きく貢献してまいりました。

福岡教育大学においては、1976年に聴覚障害学生が入学した時から支援が始まりました。教育実習がうまく行えず、大学と父親とで文部省に掛け合い、その熱意が通じ教育職員免許法施行規則の改正につながりました。おかげで、現在は障害学生も安心して教育実習に取り組めるようになったわけです。この事例は、支援に関する熱意と法整備がいかに重要かを教えてくれました。

全国に目を向ければ、支援を受けていない聴覚障害学生がまだ3割もいることが日本学生支援機構の調査で明らかになっています。制度化や障害理解に向けて取り組んできたこの10年をひとつの節と考えるなら、次の10年で支援を受けられない聴覚障害学生をゼロにするだけではなく、支援の質も充実したものとなるように取り組んでいかなければなりません。

今回のシンポジウムにおいて、実のある議論がなされ、この会場名「クローバープラザ」にふさわしく、たくさんの「四つ葉のクローバー」を見つけて持ち帰って頂けることを祈念しております。

## プログラム

### 12月19日（土）

《アフタヌーンセッション》14:00～17:00

- \* オープニング
- \* 聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2015
- \* 相談コーナー“トーク&トーク”
- \* ミニセミナー・ワークショップ
- \* 聴覚障害学生支援に関する機器展示
- \* PEPNet-Japan 連携大学・機関活動紹介展示
- \* 九州・沖縄地区大学における聴覚障害学生支援に関するパネル展示 など

詳細は各企画の  
ページをご覧ください。

### 12月20日（日）

《分科会》10:00～12:00

#### ■ 分科会1「基礎講座 聴覚障害学生支援再入門－合理的配慮の考えにもとづいて－」

企画コーディネーター：磯田 恭子氏

（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 助手／PEPNet-Japan 事務局員）

司 会： 磯田 恭子氏（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 助手／  
PEPNet-Japan 事務局員）

講 師： 桑原 斉氏（東京大学 バリアフリー支援室 准教授）  
藤原 隆宏氏（関西大学 学生相談・支援センター コーディネーター）  
小谷 佐智子氏（大阪教育大学 学務部学生サービス課学生支援係  
障がい学生修学支援ルーム 職員）

#### ■ 分科会2「合理的配慮の時代に求められる聴覚障害学生の構えと技術」

企画コーディネーター：大杉 豊氏（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 教授）

司 会： 小林 洋子氏（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 助教）

講 師： 中村 友香氏（団体職員）  
長野 留美子氏（関東聴覚障害学生サポートセンター コーディネーター）  
土橋 恵美子氏（同志社大学 京田辺校地学生支援課  
障がい学生支援コーディネーター）  
大杉 豊氏（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 教授）



■ 分科会3「一緒にスキルアップ Part2 ノートテイク・パソコンノートテイク・手話通訳」

企画コーディネーター：萩原 彩子氏

(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 助手／PEPNet-Japan 事務局員)

司 会：萩原 彩子氏(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 助手／  
PEPNet-Japan 事務局員)

講 師：松崎 丈氏(宮城教育大学 特別支援教育講座 准教授)

吉川 あゆみ氏(関東聴覚障害学生サポートセンター コーディネーター)

田中 啓行氏(関東聴覚障害学生サポートセンター コーディネーター)

■ 分科会4「チバリヨ！最初で最後の九州・沖縄開催としないために

ー地区の実践から学ぶー」

企画コーディネーター：太田 富雄氏(福岡教育大学 障害学生支援センター 教授)

司 会：太田 富雄氏(福岡教育大学 障害学生支援センター 教授)

講 師：横山 正見氏(沖縄大学 学生支援課 障がい学生支援コーディネーター)

木村 素子氏(宮崎大学 教育文化学部特別支援教育講座 准教授)

佐々木 順二氏(九州ルーテル学院大学 人文学部心理臨床学科 准教授)

早川 就氏(福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校 主幹教諭)

《全体会》13:00～15:00

\* 式典

\* 特別企画 公開事例検討会(福岡教育大学 障害学生支援センター 共催)

「どうする？どうなる？合理的配慮ー事例から読み解く障害者差別解消法ー」

司 会：白澤 麻弓氏

(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 准教授／  
PEPNet-Japan 事務局員)

講 師：藤木 和子氏(藤木総合法律事務所 弁護士)

池谷 航介氏(大阪教育大学 教職教育研究センター 特任准教授)

松岡 克尚氏(関西学院大学 人間福祉学部 教授)

村田 淳氏(京都大学 学生総合支援センター 助教)

\* 聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2015 表彰式

\* 閉会

## 情報保障について

基本的にすべてのプログラムに手話通訳ならびにパソコンによる文字通訳がついていますが、「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2015」を含む参加者同士のコミュニケーションにつきましては各自ご配慮ください。

また、各分科会会場には磁気ループもしくは「フォナック ダイナミック・サウンドフィールドシステム」(マイクロホンで拾った音声をクリアに増幅させ、より明瞭な聞こえを届けるスピーカーシステムです。補聴器の設定は特に必要ありません)のどちらかを設置します。


全体会会場では、「フォナック ダイナミック・サウンドフィールドシステム」を設置します。



## 会場案内

12月19日（土）

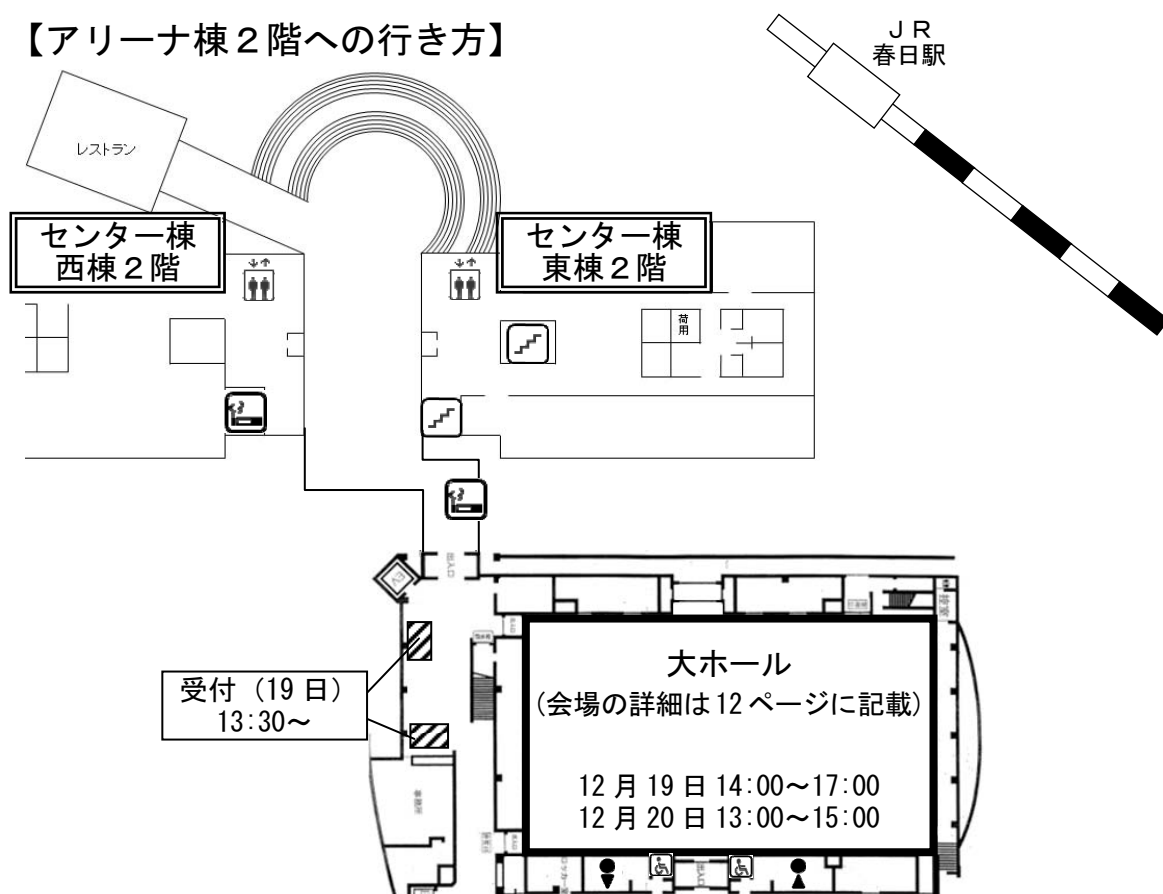
時間	内容	会場
13:30～	受付	《アリーナ棟2階》 大ホール前
14:00～17:00	アフタヌーンセッション ＊オープニング ＊聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2015 展示 ＊相談コーナー “トーク＆トーク” ＊ミニセミナー・ワークショップ ＊聴覚障害学生支援に関する機器展示 ＊PEPNet-Japan 連携大学・機関活動紹介展示 ＊九州・沖縄地区大学における聴覚障害学生支援に関するパネル展示	《アリーナ棟2階》 大ホール  ※詳しい会場図は、 12 ページに記載して います。


 会場の都合上、17時会場退出にご協力くださいますよう、お願いいたします。

12月20日（日）

時間	内容	会場
9:30～	受付 ※前日に受付を済ませた方は、直接分科会会場にお越しください。	《センター棟5階》 東棟
10:00～12:00	分科会 分科会1 「基礎講座 聴覚障害学生支援再入門 －合理的配慮の考えにもとづいて－」  分科会2 「合理的配慮の時代に求められる聴覚障害学生の構えと技術」  分科会3 「一緒にスキルアップ Part2 －ノートテイク・パソコンノートテイク・手話通訳－」  分科会4 「チバリヨー！最初で最後の九州・沖縄開催としないために －地区の実践から学ぶ－」	《センター棟5階》 セミナールーム AB （西棟）  506 研修室 AB（東棟）  508 研修室 AB（東棟）  501 研修室（西棟）
12:00～13:00	昼食休憩 ※大ホールならびに各分科会会場にてお召し上がりください。	
13:00～15:00	全体会 ＊式典 ＊特別企画 公開事例検討会 「どうする？どうなる？合理的配慮 －事例から読み解く障害者差別解消法－」 （共催：国立大学法人福岡教育大学 障害学生支援センター） ＊聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2015 表彰式 ＊閉会	《アリーナ棟2階》 大ホール

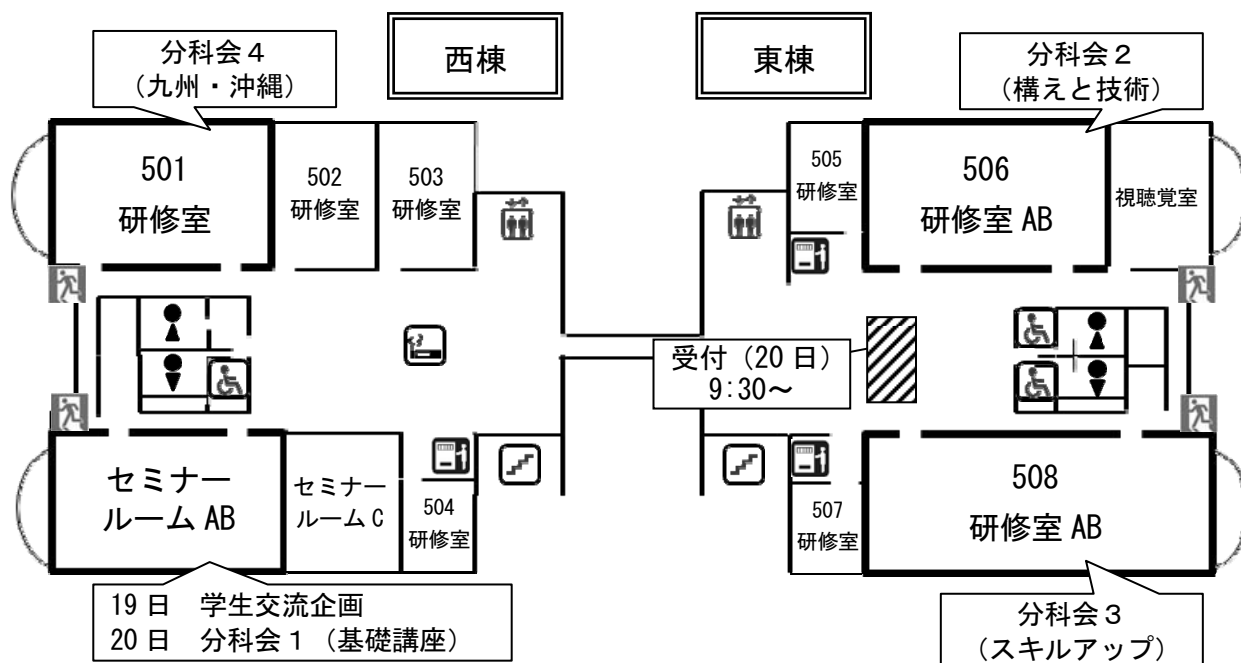
【アリーナ棟 2 階への行き方】



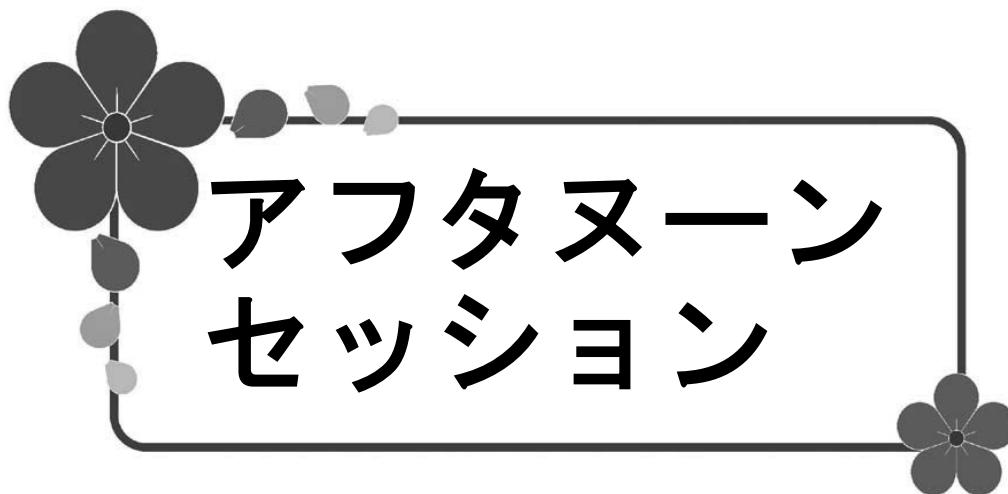
※センター棟 2 階の連絡通路がアリーナ棟 2 階の出入口につながっています。

※12 月 20 日は東棟もしくは西棟のエレベーター、階段で 5 階にお越しください。

【センター棟 5 階】 12 月 19 日 17:30~19:30 (学生交流企画)  
12 月 20 日 10:00~12:00 (分科会)



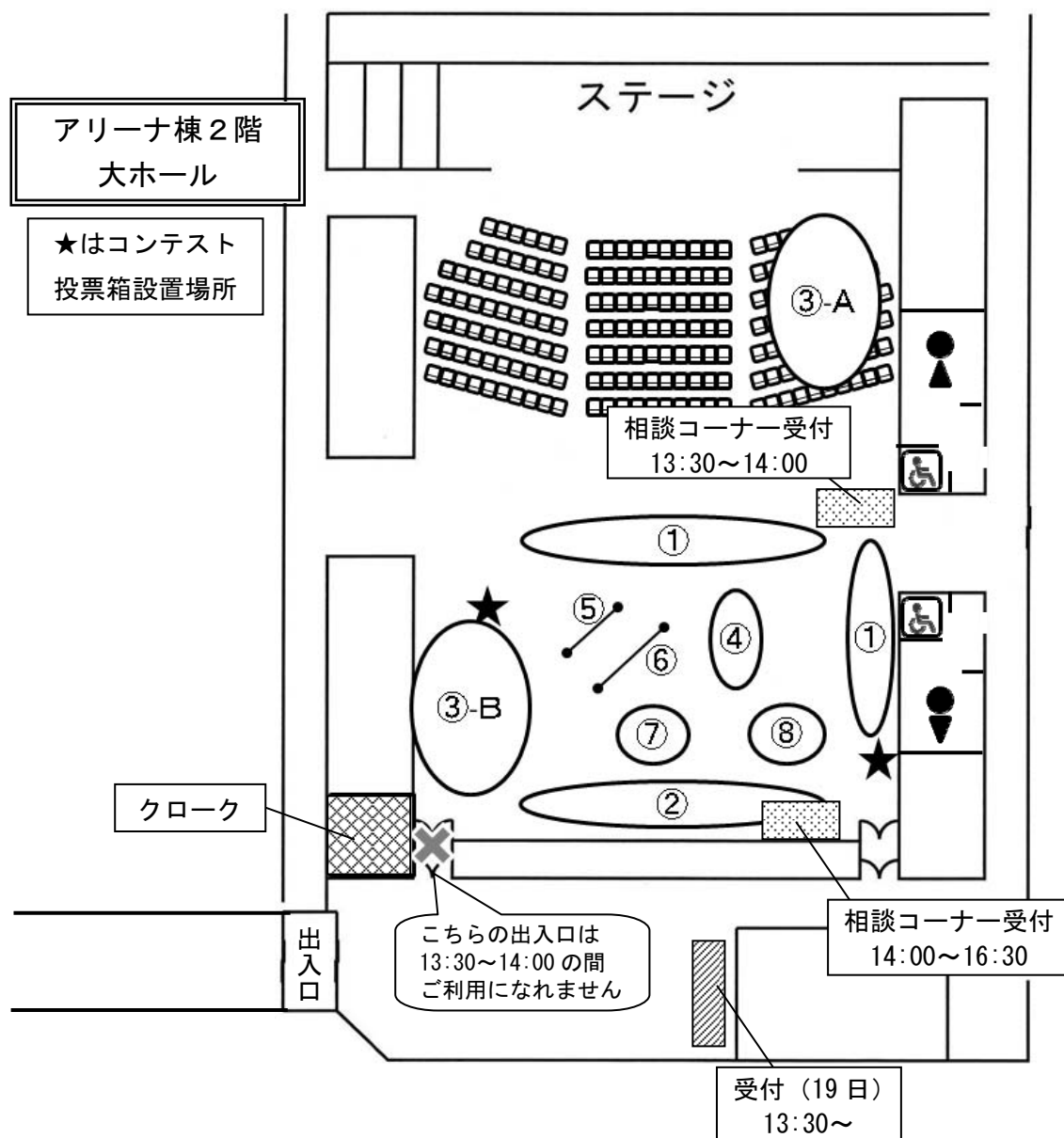




# アフタヌーン セッション

- アフタヌーンセッション 会場案内
- 聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2015
- 相談コーナー “トーク&トーク”
- ミニセミナー・ワークショップ
- 聴覚障害学生支援に関する機器展示

アフタヌーンセッション 会場案内



- ①聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2015 展示
- ②相談コーナー“トーク＆トーク”(受付場所は 14:00 以降、②の場所に移動します)
- ③ミニセミナー・ワークショップ
- ④聴覚障害学生支援に関する機器展示
- ⑤日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)  
連携大学・機関活動紹介展示
- ⑥九州・沖縄地区大学における聴覚障害学生支援に関するパネル展示
- ⑦筑波技術大学活動紹介展示
- ⑧日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) 活動紹介  
筑波技術大学教育関係共同利用拠点 活動紹介



# 聴覚障害学生支援に関する 実践事例コンテスト 2015

PEPNet-Japan Award 2015

12月19日(土) 14:00～16:50 (ポスター発表は 14:30～)

アリーナ棟2階 大ホール

本シンポジウムでは、全国の大学・団体が日頃実践している支援の取り組みを発表し、参加者の投票によって優れた取り組みを表彰するコンテスト企画を設けております。会場には、教職員・学生など17団体の応募者が力を入れて作成したポスターが並んでいます。

内容をご覧ください、「この取り組みは参考になる！」と思った発表に投票してください。

また、投票用紙の裏面にコメント欄を用意しています。投票される団体への応援コメントをご記入の上、投票していただけますよう、お願いいたします。

## 投票方法

★みなさんの名札の中に投票用紙（2枚）が入っています。

会場でポスターや発表をご覧ください、これは良い！と思った発表に投票してください。投票箱の設置場所はアフタヌーンセッションセッションの会場案内（12ページ）をご覧ください。

★本コンテストでは、次のような観点から投票をお願いします。

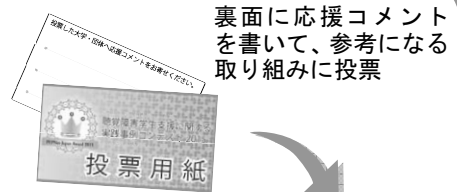
- ・こんな取り組みを自分の大学でも実現したい！
- ・ぜひ真似したいアイデアだ！
- ・今後の発展が楽しみな内容だ！
- ・日頃の努力が伝わってくる！

★発表いただいた各団体には、以下の賞を用意しています。

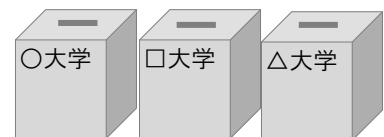
- ・ PEPNet-Japan 賞
- ・ 準 PEPNet-Japan 賞
- ・ グッドプラクティス賞
- ・ プレゼンテーション賞

(障害の有無に関わらず、すべての参加者に伝わる発表になるよう工夫していた1団体)

- ・ 新人賞 (コンテストへの参加回数が2回以下である団体のうち、今後の活動の展開に期待が寄せられ、最も得票数が多かった1団体)
- ・ 奨励賞



裏面に応援コメントを書いて、参考になる取り組みに投票



※参加者の皆様同士による積極的なコミュニケーションをお願いいたします。

## 参加団体

札幌学院大学／東海大学／特定非営利活動法人ゆに／松山大学／大阪教育大学／金沢星稜大学／東北福祉大学／関西学院大学／宮城教育大学／愛媛大学／大学間連携共同教育推進事業選定取組「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」障がい学生等支援グループ（石川県障がい学生等共同サポートセンター）／沖縄大学／亜細亜大学／千葉大学／愛知教育大学／群馬大学／東京学芸大学 (順不同)

→各団体の発表内容紹介は111ページ以降に掲載しています。

## 相談コーナー “トーク & トーク”

相談コーナー “トーク & トーク” は、日ごろの支援や修学、就労、研究等の悩みについて、参加者の皆さんが自由に相談できるスペースです。相談に対応してくださるのは、PEPNet-Japan 運営委員や聴覚障害学生支援の専門家の方々です。日頃のちょっとした悩みや具体的な助言・情報がほしいことなど、この場で気軽にトークしてみてください。

### 相談できる主なテーマ



### 相談までの流れ

- 1) 申込用紙に希望する内容を記入し、相談コーナー受付で申込みをします（受付時間 13:30～16:30）。
- 2) 受付スタッフが申込内容を確認し、対応者、対応時間を調整します。
- 3) 時間になったら予約票を持って受付にお越してください（内容により、予約なしですぐ相談できる場合もあります）。コミュニケーションには筆談器等をご活用ください。内容や状況に応じ、手話通訳を配置することも可能です。必要な際はお声かけください。



4) 最後に記録をお渡しします。

記録用紙は、相談コーナーの利用者数ならびに相談内容の概略について把握し、報告等に使用するために、事務局で写しを保管いたします。個人情報を公開することはありません。情報の扱いには十分留意いたします。

### 相談対応者一覧

- ✿ 新國 三千代氏（札幌学院大学／PEPNet-Japan 運営委員）
- ✿ 高橋 明美氏（みやぎ DSC／PEPNet-Japan 運営委員）
- ✿ 金澤 貴之氏（群馬大学／PEPNet-Japan 運営委員）
- ✿ 倉谷 慶子氏（関東聴覚障害学生サポートセンター／PEPNet-Japan 運営委員）
- ✿ 田中 啓行氏（関東聴覚障害学生サポートセンター）
- ✿ 杉森 公一氏（金沢大学／PEPNet-Japan 運営委員）
- ✿ 武田 真代子氏（同志社大学）
- ✿ 田坂 祥子氏（同志社大学）
- ✿ 平田 万貴氏（同志社大学）
- ✿ 池谷 航介氏（大阪教育大学）
- ✿ 井坂 行男氏（大阪教育大学／PEPNet-Japan 運営委員）
- ✿ 小谷 佐智子氏（大阪教育大学）
- ✿ 太田 琢磨氏（愛媛大学）
- ✿ 加藤 哲則氏（愛媛大学／PEPNet-Japan 運営委員）
- ✿ 石原 保志氏（筑波技術大学／PEPNet-Japan 運営委員長）
- ✿ 大杉 豊氏（筑波技術大学）
- ✿ 佐藤 正幸氏（筑波技術大学／PEPNet-Japan 事務局員）
- ✿ 中島 亜紀子氏（筑波技術大学／PEPNet-Japan 事務局員）

※対応者は時間により交代します。

また、対応者は変更になる場合がありますので、詳しくは当日受付にてご確認ください。

## ミニセミナー・ワークショップ

ミニセミナー・ワークショップでは、聴覚障害学生支援の基本的な知識や現状に関するミニレクチャーや体験を通して、さまざまな情報を提供します。聴覚障害学生支援を始めたばかりの方や最新のトピックについて知りたい方は、ぜひご参加ください。

4企画とも、事前申込は不要です。参加希望の方は開始時間に各会場にお集まりください。

### スケジュール

時間	テーマ	会場
14:40 ~15:00	大学における情報保障で音声認識技術を活用するには ー効果と課題、導入のポイントー	③-A
	やってみよう！連係入力ー基本的な設定と入力体験ー	③-B
15:20 ~15:40	解説！就職に向けた準備ー模擬面接を通してー	③-A
	補聴システムを使ってみよう！ ーシステムの概要・導入事例・活用ポイントー	③-B

#### 大学における情報保障で音声認識技術を活用するには ー効果と課題、導入のポイントー

近年、実用化が進んでいる音声認識の技術を活用した情報保障システムについて、基本的な知識をレクチャーします。特徴や、大学での導入事例や運用にあたっての留意点を、総合的な視点で解説します。

講師：三好茂樹氏（筑波技術大学／PEPNet-Japan 運営委員）



やってみよう！連係入力  
ー基本的な設定と入力体験ー

連係入力によるパソコンノートテイクの入力体験を行います。単独入力との違いやメリット、基本的な機能もレクチャーします。

講師：宇都野康子氏（筑波技術大学）

解説！就職に向けた準備  
ー模擬面接を通してー

聴覚障害学生の方に、就職試験模擬面接に挑戦していただき、その実践を通して就職準備の過程で直面する課題や、対策のポイントなどを解説します。

講師：石原保志氏（筑波技術大学／PEPNet-Japan 運営委員長）

補聴システムを使ってみよう！  
ーシステムの概要・導入事例・活用ポイントー

さまざまな補聴システムの概要をレクチャーしながら、大学での情報保障支援導入に向けたポイントなどもあわせて解説します。補聴システムの利用体験をしたい方もぜひご参加ください。

講師：加藤哲則氏（愛媛大学／PEPNet-Japan 運営委員）

佐藤正幸氏（筑波技術大学／PEPNet-Japan 事務局員）

## 聴覚障害学生支援に関する機器展示

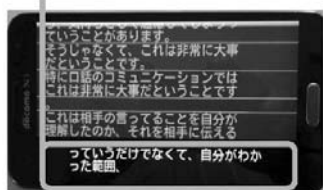
### シースルーメガネ型ディスプレイリアルタイム字幕提示システム

- シースルーメガネ型ディスプレイを使用し、見たいものに自由に視線を移動しながらリアルタイム字幕も同時に見ることができる。
- リアルタイム字幕は数十台のシースルーメガネ型ディスプレイとスマートフォン等の携帯端末に同時に提示できる。
- 講義、劇場、ライブショー、スポーツ観戦や、大学等の実験、実習場面で活用できる。

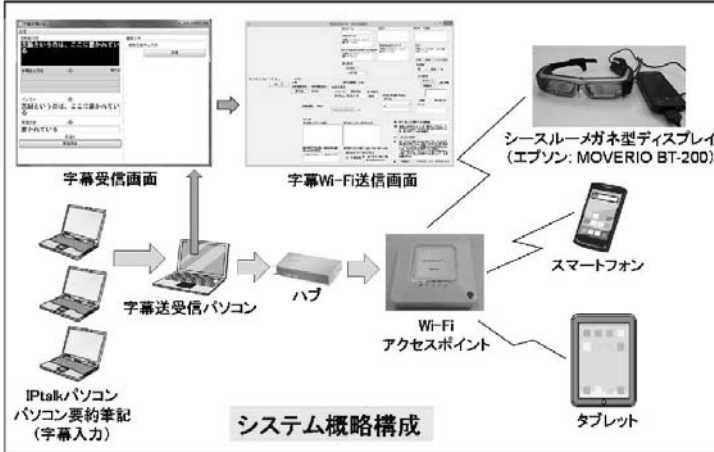
#### シースルーメガネ型ディスプレイ



画面下部の2行を表示



スマートフォン



お問い合わせ：  
小林正幸 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター  
masayuki@atsukuba-tech.ac.jp

### ウェブベース遠隔文字通訳システム『captiOnline』



図3: captiOnline文字閲覧ページ

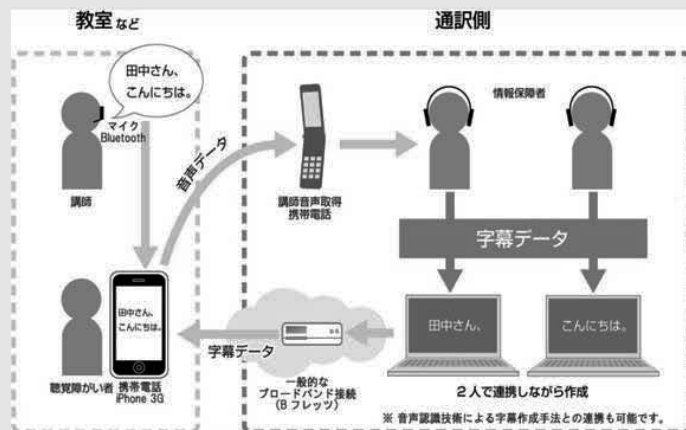
captiOnlineはウェブブラウザを用いてオンラインで要約筆記などの遠隔文字通訳をおこなうことができるシステムです(図1)。ウェブプロトコルを利用して通信しているため、セキュリティが厳しいネットワーク環境でも使用できます。専用ソフトを一切必要とせず、機器やOSを問わず様々なPCやスマートフォンのウェブブラウザ上で動作します。普段専用ソフトを使用している文字通訳者の意見をもとに必要な機能を備えており、ウェブブラウザでサーバにアクセスするだけで準備も簡単です(図2、3)。ビデオチャット機能を使って現場の映像と音声を受信できるので、家や外出先などの遠隔から文字通訳の入力や連絡、閲覧が可能です。下記アドレスよりcaptiOnlineを試用できます。ぜひお試しください。ご意見もお待ちしております。

問い合わせ先： 若月大輔 (筑波技術大学産業技術学部産業情報学科, waka@atsukuba-tech.ac.jp)  
captiOnlineの試用: <http://capti.info.atsukuba-tech.ac.jp/> (対応ウェブブラウザ: Chrome, Safari, FireFox, IE)





## スマートフォンを活用した『モバイル型遠隔情報保障システム』



『モバイル型遠隔情報保障システム』は、スマートフォンを通じて話者の音声を遠隔地にいる要約筆記者に送信し、そこで作成された字幕データをスマートフォンで受信できるシステムです。教室や体育館などLAN環境のない場所や、パソコンを持ち込むことが難しい環境下でも要約筆記を利用できるようになります。

講師音声を情報保障者に伝えること、そして作成された文字情報を表示することの2つの役割を、1台のスマートフォン (iPhoneなど) で担っていることが一つのポイントです。

また、パソコン要約筆記のみならず、音声認識技術との連携も可能です。

※筑波技術大学、群馬大学、東京大学の研究グループは、ソフトバンクモバイル株式会社およびNPO法人 長野サマライズ・センター、MOC Hubnetと共同で本取り組みの導入実験プロジェクトを進めました (2009年度)。

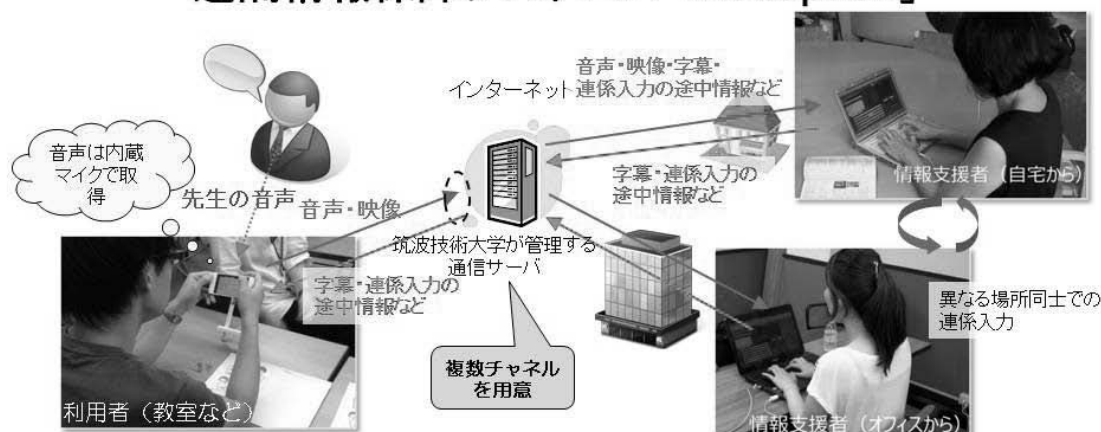
参考ホームページ: <http://www.tsukuba-tech.ac.jp/ce/mobile1/index.html>

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター准教授 三好茂樹

(お問い合わせはPEPNet-Japan事務局まで)

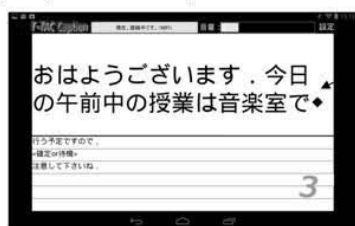


## 遠隔情報保障システム「T-TAC Caption」



Android OS搭載のスマートフォンまたはタブレットのアプリとして提供 (iOS, Android OS)

情報保障者用ウェブサイトとして提供  
インターネットに接続されたパソコン上でブラウザのみ利用 (Windows OS, Mac OS)



画面サンプル



筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター准教授 三好茂樹  
(お問い合わせはPEPNet-Japan事務局まで)

[illegible]



【分科会1】

基礎講座「聴覚障害学生支援再入門  
—合理的配慮の考え方にもとづいて—」

司会・企画コーディネーター:

磯田 恭子氏(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 助手／  
PEPNet-Japan 事務局員)

講師: 桑原 斉氏(東京大学 バリアフリー支援室 准教授)

藤原 隆宏氏(関西大学 学生相談・支援センター コーディネーター)

小谷 佐智子氏(大阪教育大学 学務部学生サービス課学生支援係  
障がい学生修学支援ルーム 職員)

- 討論の柱**
- ① 聴覚障害学生への支援提供のあり方を再確認する
  - ② 合理的配慮の考えにもとづき、どのような点に留意しなければならないのかを把握する

**企画趣旨**

高等教育機関に進学する障害学生は年々増加している状況であり、受け入れる大学側も障害学生が他の学生と同等の学びが得られるよう環境整備に取り組んでいる。障害学生への支援担当部署を設置する大学も増える中、平成28年4月からはこれまでの大学独自のサービスとしてではなく、障害者差別解消法に基づき国公立大学は法的義務として、私立大学は努力義務として合理的配慮の提供が求められることとなる。このことにより、支援体制が十分でない大学においても、障害学生からの申し出に応じた建設的対話を経て、支援内容の決定および支援の提供が求められることとなる。

この中で聴覚障害学生の修学支援においては、講義中の音声情報を文字情報として伝える情報保障支援が中心となり、支援を担う人材も定常的に確保・養成することが求められる。しかしながら、支援を必要とする聴覚障害学生を初めて受け入れる大学や、聴覚障害学生の在籍が途絶えている大学など、支援ノウハウが十分に蓄積されていない大学も少なくない。

そこで、本分科会では聴覚障害学生支援に求められる支援への姿勢・大学に求められる対応等について、3大学の事例をもとに改めて確認をするとともに、参加者とのディスカッションにより今後求められる事は何かを考えて行きたい。



## 合理的配慮の提供

東京大学バリアフリー支援室 桑原 斉 氏

### 合理的配慮の提供

東京大学バリアフリー支援室  
桑原 斉

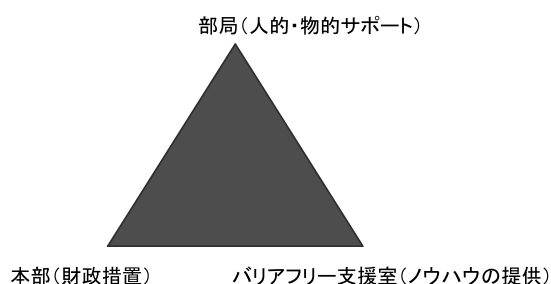
1

### 支援体制

- 本部
  - バリアフリー支援担当理事
  - バリアフリー支援室長
  - 本郷支所長、駒場支所長
  - バリアフリー担当総長補佐
  - バリアフリー支援室員
  - バリアフリー支援室専任職員(教育・学生支援部)・教員
- 部局(34)
  - 支援実施担当者(職員・教員)

2

### 支援の3角形



3

### 合理的配慮の具体的考え方

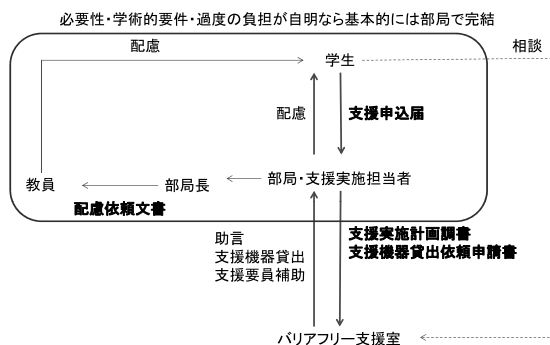
- 配慮が合理的であると判断するためには、①特定の場合において必要とされること、②適当であること、③過度の負担を課さないことの三つの要件を満たす必要がある
  - ① 特定の場合において必要とされるということは、特定の障害及び、特定の状況(高等教育機関の事務・事業)のために支障が生じており、特定の配慮により支障の改善が想定されるということである
  - ② 適当であることは、配慮にあたって、学術的要件(あるいはその他の事務・事業)の本質を変更しないこと、他の学生(その他関連する人物)に本質的な影響を及ぼさないということである
  - ③ 過度の負担を課さないことは、配慮にあたって、物理的・技術的負担と人的・体制上の負担、費用負担の程度が、大学の事務・事業規模と財政・財務状況を踏まえて妥当であるということである

4

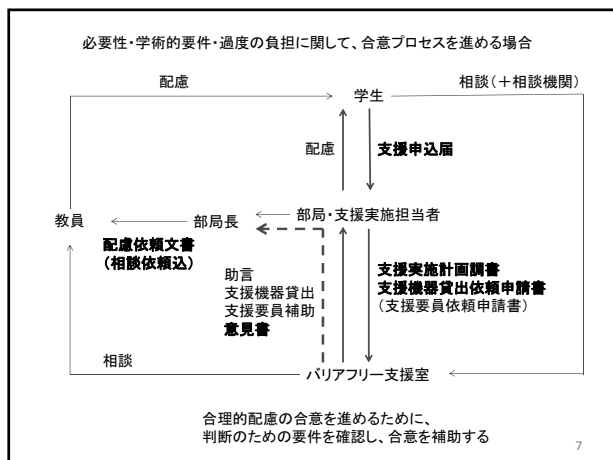
### 必要?

- ニーズ(needs)とnecessity
- 特定の障害及び、特定の状況(高等教育機関の事務・事業)のために支障が生じており、特定の配慮により支障の改善が想定される
- バリアフリー支援室
  - 本人のニーズに基づき、necessityを専門的に証明する

5



6



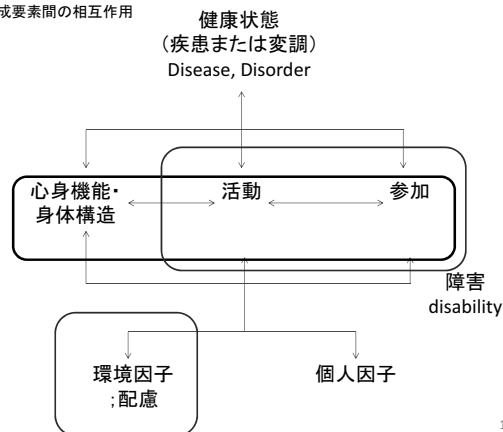
## 課題①

- 学術的要件
  - 教員の任意？
- 過度の負担
  - 全学で負担を共有し、必要な支援を配分するシステムが必要
    - 予算措置は可能
    - 人的支援は一部可能、一部困難
  - ここを事例が定めていくのではないか

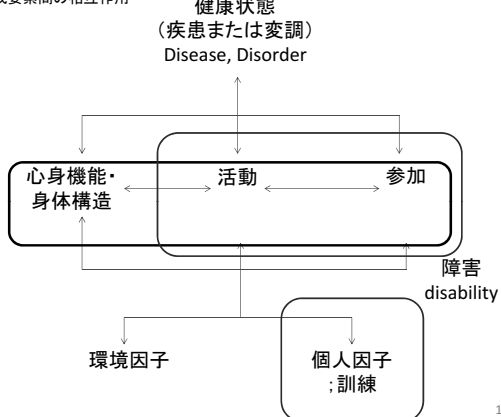
## 課題②

- 教職員に関して
  - 指揮命令系統
    - 学生関連
    - 人事関連
  - 産業医
    - 障害者雇用促進法
    - 労働安全衛生法

ICFの構成要素間の相互作用



ICFの構成要素間の相互作用



## まとめ

- 支援体制
- 合理的配慮の具体的考え方
- 合理的配慮の合意プロセス
- 「イコールアクセス」？
  - 配慮と訓練



# 聴覚障がい学生の主体形成を支援する支援 ―関西大学の実践から―

関西大学 学生相談・支援センター 藤原 隆宏 氏

2015/12/20  
日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム  
分科会1「聴覚障害学生支援再入門―合理的配慮の考え方に基いて―」

130  
KANSU  
UNIVERSITY

## 聴覚障がい学生の主体形成を支援する支援 ―関西大学の実践から―

関西大学 学生相談・支援センター  
コーディネーター 藤原 隆宏


1

## 関西大学の概況

学生数 約3万人

13学部 15研究科  
3専門職大学院含む

併設校 8校・園



大阪府内に4つのキャンパス  
吹田市、高槻市(2キャンパス)、堺市

2

## 障がいのある学生の把握件数および 修学支援状況 2015/9/18現在

把握学生数 134人

- 身体障がい等 34人
- 身体障がい以外 100人

視覚障がい 3人

聴覚障がい 8人

肢体不自由 10人

その他 13人

→ ノートテイク・パソコンテイク等の  
支援メニューを利用する  
聴覚障がい学生  
2人

- ・文学部3年生
- ・環境都市工学部2年生

3

## 学生相談・支援センターが設置されるまで

2011年  
障がいのある学生の修学を支援する部署を設置するための  
準備担当者が兼務で配置される  
(この時すでに障害のある学生に対する修学支援ガイドラインが策定されていた)

2012年4月  
学事局授業支援グループに  
「障がいのある学生に対する修学支援チーム」が設置される  
(大学内で、障害のある学生への支援が課題になっていた。  
2012年4月に、点訳等の支援が必要な視覚障がい学生の入学が決まっていた。)

2013年4月  
学生相談・支援センター開設

4

## 学生相談・支援センターの概要

「総合相談」と「障がいのある学生の修学支援」 2つの機能

正門入ってすぐの建物1階という絶好の場所

常勤のコーディネーター2人  
(身体障がい担当、発達・精神障がい担当)

心理相談室を学生相談・支援センター内に位置づけ

学事局(教務)組織内に位置づけつつ、  
意思決定は学長直下(センター長は副学長)

5

## 学生相談・支援センター体制

学生相談・支援センター委員会

運営委員会(専門委員)

学生相談・支援センター事務グループ

事務職員 3人  
コーディネーター 2人  
定時事務職員 2人

学生支援スタッフ 約90人

心理相談室  
相談員

6

## 聴覚障がい学生への支援

(2015年度春学期(前期)実績)

ノートテイク 週6科目  
パソコンテイク 週3科目 → IPTalkを使用  
映像の字幕付け あまり依頼がありません...

## 現在の課題

- 理工系の授業科目への対応
- 育成しても活動がない学生支援スタッフ  
⇒ 研修の必要性

7

## 障がい学生支援の流れ

- ① 相談 (「入学前」と「入学後」) **Point 1 !**
- ② 学部面談 (必要に応じて、教務担当者等)
- ③ 学生相談・支援センターから学部意見書
- ④ 学部から授業担任者に配慮依頼文書
- ⑤ 学生支援スタッフの育成・調整・派遣
- ⑥ モニタリング **Point 2 !**
- ⑦ 評価
  - 聴覚障がい学生との振り返り面談
  - 授業担任者へのアンケート **Point 3 !**
  - 学生支援スタッフへのアンケート
  - 学期末懇談会

8

## コーディネート時に心がけていること

- 聴覚障がい学生が意思を表明するのを待つ
- 聴覚障がい学生が意思を表明しやすい環境をつくる
- 聴覚障がい学生が選択するような働きかけ
- 聴覚障がい学生に相談する
- 学生支援スタッフに相談する

9

## 聴覚障がい学生の声①

2014年秋学期 学期末懇談会「修学支援の3年間を振り返って」より抜粋

サポートはすぐに利用しようと思ったわけではなくて、サポートを利用すると決めるまで結構ハードルが高かった。

パソコンテイクの利用になかなか踏み切れずにいた。それはパソコンテイクが目立ちそうで、何かそれがいやだなんて思っていたことと、授業の内容が専門的だったのでその点大丈夫なのかなということ、あとはノートテイクと比べて実際に情報量がどのくらい増えるのかということを懸念していたということが理由。

実際にパソコンテイクを利用してみて、普段みんなが聞き取っている情報量の多さにすごく驚いて、また自分が聞き取れている情報量がみんなの5割あるかないかだということを知って、結構ショックを受けた。それからパソコンテイクを積極的に利用するようになって、今までであればあきらめていた授業の内容を理解することができるようになって、すごくうれしかった。

今までだったら全部自分で何とかしないといけないと思っていたが、どうしても自分で無理なものは周りに助けてもらえればいいのかと思えるようになった。

10

## 聴覚障がい学生の声②

2014年秋学期 学期末懇談会「修学支援の3年間を振り返って」より抜粋

大学1年生から3年生までは、支援制度も充実していなくて授業の内容がわからなかった。授業で先生が話していることは全くわからず、板書だけで勉強していた。大学4年生からパソコンテイクが始まって、情報量の多さにとにかく驚いた。

修学支援が始まって、障がいのある学生に対して関心をもってくれている人が多いことに驚いた。

研修を受けたスタッフによるパソコンテイクがはじまって、私の支援をしてくださっているスタッフのように、障がいに興味をもっている学生さんが多いことを知り、他の学生にも関心を持ってもらえるようになりたいという思いから、堂々と授業に挑めるようになった。

修学支援制度がはじまり、私の心境は変わった。これまで障がいは、自分の努力だけで授業を受なければいけないと思っていたが、周りの人にも頼って一緒に頑張っていこうと思えるようになった。

11





# 共に気持ちよく学び合うルームをめざして

大阪教育大学学生サービス課 学生支援係 障がい学生修学支援ルーム 小谷 佐智子 氏

「共に気持ちよく学び合うルームをめざして」  
報告3 大阪教育大学

大阪教育大学  
学生サービス課  
学生支援係  
障がい学生修学支援ルーム

小谷 佐智子

1

国立大学法人 大阪教育大学

大学紹介

○学部(教員養成課程、教養学科、第二部)  
大学院教育学研究科(修士課程)  
大学院連合教職実践研究科(連合教職大学院)  
特別支援教育特別専攻科  
からなる(主に)教員養成大学

○学生数5,000人弱

○キャンパス(柏原、天王寺)  
<http://osaka-kyoiku.ac.jp/index.html>

2

国立大学法人 大阪教育大学

障がい学生修学支援ルーム

開室:  
平成24年4月1日 柏原キャンパス

構成人員:  
ルーム長(教授)兼任  
コーディネーター(特任准教授)専任  
職員(係長)兼任1、(主任)専任1、(事務補佐)専任2

3

国立大学法人 大阪教育大学

障がい学生修学支援ルーム



4

国立大学法人 大阪教育大学

障がい学生修学支援ルーム特徴

「共に気持ちよく学び合う活動」

5

国立大学法人 大阪教育大学

組織・体制

○障がい学生支援委員会  
○障がい種別に応じた専門部会  
○学生総合支援ネットワーク

6

国立大学法人 大阪教育大学

## 聴覚障がい支援

### 授業:

- 支援学生2名によるパソコンノートテイク  
及びノートテイク

- グループディスカッションなど手話による支援

### 実習:

- 遠隔情報保障※補足説明 ← 支援学生:学内
- 手話による支援 ← 支援学生:帯同

### 教材作成補助:

- 動画教材に字幕をつける

7

国立大学法人 大阪教育大学

## 支援学生

- 登録学生数<sup>(H27.10末現在)</sup>: 132名

- ( 実支援学生数: 63名 )

- 内新規登録学生数: 84名

- 学生謝金: 1,000円 / 時間

- 学生募集方法:

新入生入学セット・在校生ガイダンスに募集チラシ  
学内ポスター  
学園祭での広報など

8

国立大学法人 大阪教育大学

## 支援学生になるまで

Step1 : 登録受付

↓

Step2 : 基礎研修

一般教養科目「障がい者支援入門」or  
動画教材Moodle視聴

↓

Step3 : 応用研修

ノートテイク研修30分+PCテイク研修90分  
+ガイダンス(学生スタッフ、職員から)

↓

Step4:支援学生登録

9

国立大学法人 大阪教育大学

## 1年間の支援学生行事

### 教職員主体

- ・日々の支援
- ・新人研修(ガイダンス)
- ・在校生ガイダンス
- ・研修合宿講演など
- ・他大学交流

### 学生主体

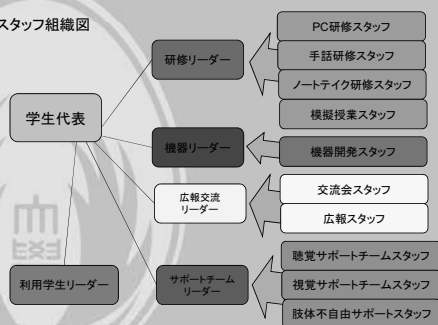
- ・全体会議
- ・新人研修(体験研修)
- ・新人歓迎イベント
- ・研修合宿企画
- ・学園祭
- ・スキル認定会
- ・手話サロン
- ・他各種研修、練習会

10

国立大学法人 大阪教育大学

## 学生スタッフ制度

### 学生スタッフ組織図



11

国立大学法人 大阪教育大学

## 学生スタッフ活動

支援活動の一環として位置付けている(謝金あり)

- ①新人研修の講師
- ②広報ガイドブックの作成
- ③各種イベント 等

自分の学業が優先 やりたい学生にはやれる場を!

- 学生の主体性⇒やりたいことをやってもらう  
やれないことは無理にしない、やってもらわない
- より多くの学生が参加できるチャンス

12

国立大学法人 大阪教育大学



### 企画ができるまで①

手話をできる人を育てたいけど…  
教材などの準備をする時間がない  
( ; )



「手話wonderful(しゅわんだふる)特待生制度」

13

国立大学法人 大阪教育大学

### 企画ができるまで②

字幕の品質がいまいち…  
みんなで共通理解したい！



「字幕礼」プロジェクト

14

国立大学法人 大阪教育大学

### 支援活動の教育的効果

支援学生・利用学生ともに教員としての素養の充実

- 1) インクルーシブ教育に対応
- 2) 人権尊重
- 3) 障害者支援スキルの向上

【さらに…】

資格、PEPNet-Japanシンポジウムポスター受賞

↓  
学長表彰や学内外広報誌掲載

↓  
キャリアアップ、就職

15

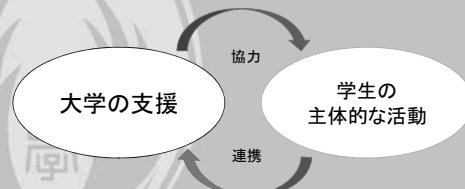
国立大学法人 大阪教育大学

### 今後のルームの方向性

法的義務としての大学として進めるべき学生支援

+

学生の資質の向上を促進する学生の主体的な活動



16

国立大学法人 大阪教育大学

### (参考1) 学生が主体的な活動をするために

- ・活動にキャッチーなネーミングを！
- ・楽しむ要素をいれる
- ・まめに会話をする 進捗を聞く
- ・とにかく褒める

17

国立大学法人 大阪教育大学

### (参考2) 職員として関わって

- ・支援学生の育成には手間と時間がかかります
- ・“交流スペース”の存在！！
- ・学生から学ぶことが多い
- ・褒めることは必須

「大学職員の立場を忘れず」

「ルーム設立時の精神に支えられて」

18

国立大学法人 大阪教育大学

【分科会2】

合理的配慮の時代に求められる  
聴覚障害学生の構えと技術

企画コーディネーター:

大杉 豊氏(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 教授)

司 会: 小林 洋子氏(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 助教)

講 師: 中村 友香氏(団体職員)

長野 留美子氏(関東聴覚障害学生サポートセンター)

土橋 恵美子氏(同志社大学京田辺校地学生支援課

障がい学生支援コーディネーター)

大杉 豊氏(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 教授)

討論の柱

1. 大学における教員・学生・聴覚障害学生それぞれの立ち位置を考えよう(社会認識)
2. 自分の状況を的確に説明し、要望をいかに伝えるかを考えよう(個人認識)
3. そのために必要な知識(合理的配慮)と経験(友人の経験を含む)をいかにして得るかを考えよう

企画趣旨

平成28年度に施行される障害者差別解消法は、すべての大学に障害を理由とする差別的取扱いを禁止し、合理的配慮の提供については、国公立大学は義務、私立大学は努力義務とする内容となっています。しかし、聴覚障害学生自身が動かない限り何も変わりません。本分科会では大学のゼミで通訳がついていない状況下、支援を依頼する場面を設定し、どのように動いたら良いか、どのように教員や学生と相談を進めたら良いか、グループディスカッションやロールプレイを通して、聴覚障害学生が意思を表明するにあたって必要な構えや技術について議論します。

スケジュール

- 10:00～10:10 企画趣旨説明・講師紹介
- 10:10～10:35 グループディスカッション・ロールプレイ実施(1回目)
- 10:35～11:10 グループディスカッション・ロールプレイ実施(2回目)
- 11:10～12:00 講師の助言・まとめ・質疑応答



## 【講師紹介】

### 中村 友香氏（団体職員）

福岡県出身。両親、妹の4人家族で、自身を除く全員が健聴。2歳の時に聴覚障害があることが判明。ろう学校経験は幼稚部のみで、小・中・高は一般学校に通う。2007年、久留米大学法学部国際政治学科に入学し、2011年3月卒業。大学卒業後は福岡県内にある団体に就職し、現在5年目。

### 長野 留美子氏（関東聴覚障害学生サポートセンター）

ろう学校幼稚部修了後、一般校にインテグレーション。長年の一般校での情報保障のない学習環境に疑問を呈し、大学入学後、「聴覚障害学生サポートセンター構想」の実現に向けて、全国聴覚障害学生の集い（1995年）・日本特殊教育学会（1996年）等で発表するなど奔走する。大学卒業後も関東聴覚障害学生サポートセンターでの活動を継続し、主に聴覚障害学生対象のエンパワメントやキャリア発達を目的としたワークショップ運営に携わる。社会人時代は、ギャローデット大学留学（1997年）や会社勤務等を経て、従来の聴覚障害者特有の就労上の課題に加えて女性特有のライフステージ上からおきる「M字カーブ」問題に直面したことから、2006年ろう・難聴女性グループ「Lifestyles of Deaf Women」を立ち上げ、ろう・難聴女性の「キャリア形成・育児・社会参加」における課題解決を目指して女性のエンパワメント啓発に取り組む。

### 土橋 恵美子氏（同志社大学 京田辺校地学生支援課 障がい学生支援コーディネーター）

手話通訳のできる担当者として、2002年より同志社大学障がい学生支援室にコーディネーターとして勤務する傍ら、コーディネートスキルアップのため、京都府要約筆記奉仕員（およびパソコン要約筆記）養成講座を修了し、ノートテイク、パソコン通訳技術を習得。2006年からPEPNet-Japan コーディネーター連携事業（第3-2事業）メンバーとなり、2010年度は同事業代表の委嘱を受ける。その後、「高等教育機関における障がい学生支援の継続・発展の総合的研究」を目的に2009年同志社大学総合政策科学研究科 ソーシャルイノベーションコースへ入学し、本務であるコーディネーターの現場で関わるコトを素材にコーディネーターの資質と役割について研究。2011年（～2012年）筑波技術大学客員研究員を経て、同志社大学では、「こころのバリアフリー」をキーワードに、障がい者とそれを支援する人々の双方が直面するバリアについて考察する講義を2013年から嘱託講師として担当。岡山理科大学では、障がい者に関する法律や当事者の声を通して『知る』ことによりバリアがどこにあるかを感じとり考察することを目的とする講義を2014年から非常勤講師として担当。両講義とも障がい体験とディスカッションを通して気づきを導く。

## 合理的配慮

国連「障害者権利条約」

障害者差別解消法

合理的配慮の否定は差別として禁止される

大学に合理的配慮を求める

窓口はどこ？

何から話す？

お金がないと  
言われたら…？

Reasonable accommodation

理にかなった	便宜
落としどころ	調整
合理的な	配慮

障害学生が他の者と平等に授業を受けるための、

必要かつ適切な変更及び調整であり、  
特定の場合において必要とされるもの  
均衡を失した又は過度の負担を課さないもの

## 大学生の構え

参考：金子元久(2007)

### 自己一貫性

学力

社会認識

自己認識

他の学生と平等に  
授業を受ける権利

社会における自身  
の位置づけと役割

自身の障害の理解  
と周りへの説明



## ■当事者の立場から①中村 友香氏の経験

### 【学生時代の経験について】

#### 1. 大学との交渉にあたって自分が動いたこと

- ・ 「情報保障のことを知る」「大学と交渉する」このきっかけを作ってくれたのは母。
- ・ 高校卒業式の翌々日には、情報保障をつけてもらうようお願いしに大学へ行った。→後日、改めて大学側と面談の場を持ち、どうしたらいいのかなどを話し合った。
- ・ 先輩の中に聴覚障害学生がいたので、情報保障をつけてもらうのはスムーズだった。
- ・ 語学やゼミなど少人数の授業では情報保障はつけなかったが、授業終了後、質問しに先生のところに行ったりした。

#### 2. 自分自身、そして周囲の変化について感じたこと

- ・ 自分が動くことで周りに目立つような変化はあまりなかったように思う。
- ・ 大学入学までは消極的で母に頼りがちだったが、「自分のことは自分でやりなさい」という母の言葉がきっかけで、少しずつ自分で動くようになった。
- ・ 大きく変わるきっかけを与えてくれたのは全日本ろう学生懇談会。周りが積極的に行動していく様子を見て影響を受けた。聞こえなくてもできる！と思わせてくれた。

### 【社会人時代の経験について】

#### 1. 職場の環境改善（働きやすい環境）に向けて自分が動いたこと

- ・ 就職した時に職場全員の前で新人の紹介があり、そのときに聞こえないこと、こうしてほしいことなどをアピールした。→自分に用があるときは前もって文字にして渡してくれる人もいる。
- ・ DVDを流す研修で、字幕はついていなかったがDVDに字幕があることがわかった。→DVDを流す研修の時は「できれば字幕を付けてほしい」と前もってお願いした結果、字幕をつけてくれるようになった。(※字幕がつくDVDの場合)
- ・ 上司の話を聞く時、わからない時は何回も聞いたりしていたら、わかっ

ていないとわかるのか、文書にしてくれたり、わかりやすく話してくれたりするようになった。

## 2. 自分自身、そして周囲の変化について感じたこと

- ・ 学生の時と比べると自分の中で変わった！という実感はあまりないが、自分から動かないと周りも変わらないというのを改めて実感した。

「自分から動くのが大事！」

「試行錯誤しながらも動いていけばお互いにベストな方法が見つかるかも！」

## ■当事者の立場から②長野 留美子氏の経験

### 【学生・社会人時代の経験から】

学生時代を含め社会人時代の職場や地域等で様々な要望提起を行ってきた経験から、10代後半～20代前半の大学生活は、セルフヘルプ活動等を通して自身の障害を客観的に見つめ直す過程で自己認識および社会認識を深め、社会生活の中で主体的に生活を形成してゆくための「支援を活用する力」を身に着ける準備期間になると考える。しかしながら、社会に出た後の職場や地域等では、必ずしも自分の要望提起が通らない状況に置かれるのが現実であり、そういう状況の中で、自らを取り巻く環境を主体的に形成してゆくための「能動的な交渉スキル」や、仕事と生活の調和や心身のバランスをとっていくセルフコントロール力を身に着けることも大切になってくる。そうした観点から、聴覚障害学生が意思表示するにあたって必要なスキルや構えについて共に考えてゆきたい。





## 第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

### 分科会 2 「合理的配慮の時代に求められる 聴覚障害学生の構えと技術」

同志社大学 障がい学生支援室  
障がい学生支援コーディネーター  
土橋恵美子

1

## 大学（高等教育機関）における よりよい障がい学生支援に向けて

「目的は本人の勉強にあることをご理解ください」という  
聴覚に障がいのある学生の声が制度発足（2000年）と  
自身との出会い（2002年）のきっかけの1つとなった

著書『手話でいこう』p228に【参考資料】として  
同志社大学への要望書が当時のまま掲載

- 1) 「聞こえない」こと
- 2) ろう者の情報伝達方法
- 3) サポート体制

について、当事者の意見と要望が合理的に配慮されるべく  
綴られている

『手話でいこう』 要望書 p232,3行-6行抜粋

- ・ どのようなサポートを本人が望むかの選択を認めてください。  
友人や善意によるサポートを大学としてあてにしていることに疑問が  
あります。大学としてきちんとサポート態勢を作っていただいた上で  
の一つの選択肢として、友人からの支援はあるのだと思います。



「目的は本人の勉強にあることをご理解ください」と声をあげた  
当事者（秋山奈巳氏）の思いが  
つまった1冊  
(秋山奈巳, 2004)

2

## 大学（高等教育機関）における よりよい障がい学生支援に向けて

自身がコーディネーターとして支援の発展・充実に向けて動いたこと

コーディネーター自ら現場を体験する

すでに取得していたスキル

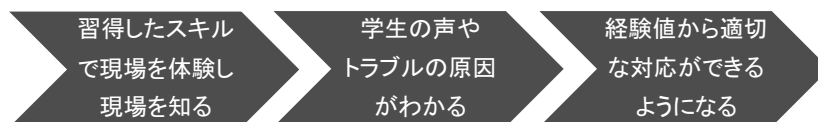
手話通訳者/盲ろう者訪問相談員/公認身体障害者スポーツ指導員

2002年着任後、支援の発展・充実のために習得したスキル・学び

- ・ノートテイク 2003年（京都府要約筆記奉仕員養成講座修了）
- ・パソコン通訳 2003年（京都府パソコン要約筆記養成講座修了）
- ・コーディネーターの資質と役割に関する研究 2010年（修士課程修了）
- ・重度訪問介護従事者（指定居宅介護）2012年（資格取得）

あわせてコーディネーターが必ず知る（学ぶ）必要のあるスキル

字幕付け/映像文字起こし/遠隔情報保障支援/点字/電子データ化  
ガイドヘルプ/車椅子介助/代筆/ポイントテイク/トイレ介助/食事介助 他



3

## 大学（高等教育機関）における よりよい障がい学生支援に向けて

自身がコーディネーターとして支援の発展・充実に向けて動いたこと

障がい学生当事者のニーズを正確に把握する

入学前面談

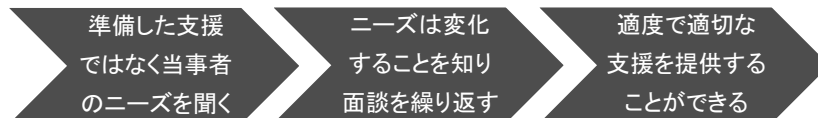
大学（学部・障がい学生支援室）と本人（及び保護者）が、十分な合意形成・共通理解を図りながら面談をした上で、支援内容を決定し、受け入れ準備をする

学期前面談

学期開講前に、前学期を振り返り、本人と障がい学生支援室で面談を行う。本人にとって必要な支援は変化していくため、毎学期前に支援内容を再調整しながら決定する

定例面談

本人の障がいの状態・状況の変化や精神面での変化に伴い、こまめな面談が必要な場合は、週一や月一の定例面談を行う



4



## 大学（高等教育機関）における よりよい障がい学生支援に向けて

自身がコーディネーターとして支援の発展・充実にに向けて動いたこと

学生（障がい学生と支援スタッフ）の自律的成長に着目する

### スタッフ募集

入学式当日の式典後に行われる学部・学科説明会で、障がい学生と支援スタッフがペアとなり、自らの声で障がい学生支援制度の説明とスタッフ募集を行う

### スタッフ養成

支援スキルのある先輩学生が障がい学生と共に、後輩学生の養成にあたり、自ら勉強会や講座・講習会の内容を考え講師を担当する

### 顔合わせ会

学期前毎に行う障がい学生と支援スタッフの顔合わせ会で、障がい学生自ら自身の障がいと必要な支援についてスタッフへ伝える

学生自ら制度や  
障がいを説明  
する場をつくる

説明するために  
自身を振り返り  
学ぶ機会を得る

制度に関わる  
責任をもち自身  
の役割に気づく

5

## 大学（高等教育機関）における よりよい障がい学生支援に向けて

自身がコーディネーターとして支援の発展・充実にに向けての展開

障がい学生のキャリア形成を目指した自律支援プログラムの展開

### セルフ・アドボカシー（自己権利擁護）対象：1・2年次生

自身の利益や欲求・意思・権利を自ら決定し主張できる力を養成する

### アサーション（自己説明と適切な主張）対象：2・3年次生

自身の障がいと一般的な同様の障がいについて説明できる力を養成し、その障がいに対して必要な支援を適切に伝えられる仕組みをつくる

### ピアサポート 対象：3・4年次生

障がいのある新入生に対するブラザー/シスターとして、学生生活におけるピアサポートを行いながら自らも解決策を探る

低年次生からの  
キャリア形成を  
考える

必要な支援と  
自身でできる  
ことを整理する

障がい者の  
ロールモデルを  
社会に送り出す

6

【分科会3】

一緒にスキルアップ Part2  
ーノートテイク・パソコンノートテイク・手話通訳ー

企画コーディネーター・司会:

萩原 彩子氏(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター／  
PEPNet-Japan 事務局員)

講師:松崎 丈氏(宮城教育大学 特別支援教育講座)

吉川 あゆみ氏(関東聴覚障害学生サポートセンター)

田中 啓行氏(関東聴覚障害学生サポートセンター)

- 討論の柱** ① 高等教育に適した通訳技術とは何か。  
② 情報保障者と大学教職員の協働はどうあるべきか。

**企画趣旨**

聴覚障害学生が高等教育機関で十分に学び、成長するためには、適切な合理的配慮の提供が欠かせない。聴覚障害学生への合理的配慮では、ノートテイク、パソコンノートテイク、手話通訳といった情報保障が用いられることが多いが、その技術を高めることは、聴覚障害学生の十分な学修保障につながり、非常に重要である。

本分科会は、第6回シンポジウムで実施した分科会「一緒にスキルアップーノートテイク・パソコンノートテイク・手話通訳ー」(2010年11月、宮城県仙台市、企画コーディネーター:田中啓行氏)の第2弾として企画したもので、情報保障者のスキルアップに焦点を当て、手法ごとにグループに分かれて模擬通訳映像の観察・評価を通じて情報保障技術の向上を目指した議論を行う。また、あわせて情報保障者として求められる姿勢や大学教職員との協働のあり方を探りたい。

【分科会の流れ】

- 10:00～10:10 企画趣旨説明  
10:10～10:25 高等教育機関における情報保障とは(吉川氏)  
10:25～10:40 情報保障者と大学教職員との協働について(松崎氏)  
10:40～11:10 通訳映像の視聴と評価  
11:10～11:40 講師を交えたグループ討議(30分)  
11:40～12:00 講師から総評および質疑応答

参考資料:

第6回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム当日資料  
大学教職員のための地域通訳依頼ハンドブックーよりよい連携を目指してー



## 【講師紹介】

### 松崎 丈（宮城教育大学 特別支援教育講座）

皆さん、初めまして。私は、学生時代から大学の情報保障支援体制の構築や運営に関わっており、情報保障者の養成・研修も担当しました。今回の分科会を通して利用者個々のニーズや関係性を考えながら情報保障のスキルアップを図ることについて皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

### 吉川 あゆみ（関東聴覚障害学生サポートセンター）

みなさん、こんにちは！私がはじめてノートテイクを経験したのは高校一年生のときでした。このときの驚きは言葉に尽くせません。その後も手話通訳やパソコン通訳...等、新しい情報保障手段を経験するたびに、自分の世界観がどんどん変わっていく体験をしました。会心の通訳との出逢いもまた、今まで知らなかった次元の世界へといざなってくれました。今日、この分科会でみなさんと情報保障の奥深さを少しでも共有できたなら大きな喜びです。

### 田中 啓行（関東聴覚障害学生サポートセンター）

皆さん、初めまして。田中啓行と申します。学生の時にノートテイクなどの情報保障の活動を始めて、その後、関東聴覚障害学生サポートセンターや早稲田大学障がい学生支援室のスタッフとして、情報保障者の養成や研修に携わってきました。利用学生のニーズや授業の目的を踏まえた情報保障ができるようなスキルを身につけるためにどうしたらいいか、皆さんと一緒に考えたいと思います。よろしくお願いします。

### 萩原 彩子（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター）

この度は本分科会にご参加いただき、ありがとうございます。私も学生時代ノートテイクなどの情報保障を通じて、日々聴覚障害学生と一緒に活動してきました。今回すばらしい講師の方々にご協力いただきながら、皆さんとともによりよい情報保障について考えて行ければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 手書きノートテイクチェック表

5段階であてはまる評価にマルをつけてください。

			全く そう 思わない	そう 思わない	どちら でもない	そう 思う	とても そう 思う
字の大きさ 漢字と平仮名のバランス	1	ちょうど良い大きさに書いていたか。	1	2	3	4	5
	2	特定の平仮名が小さくなることなく、同じ大きさに書いていたか。	1	2	3	4	5
字の読みやすさ	3	くせの少ない読みやすい字で書いていたか。	1	2	3	4	5
	4	適度な字間・行間で書いていたか。	1	2	3	4	5
	5	ほどよく句読点が打たれていたか。	1	2	3	4	5
ペンの持ち方	6	字が見えるくらいの位置で軽くペンを持ち、書いていたか。	1	2	3	4	5
情報提供の仕方	7	文の主題(「何が」と主題に対する説明の内容(「どうした」)がわかるように書いていたか。	1	2	3	4	5
	8	略字や略語・略号を使っていたか。(普段から略字・略語・略号を使っている場合)	1	2	3	4	5
	9	固有名詞や数字を正確に書いていたか。	1	2	3	4	5
	10	話し手の言葉を使った文章を書いていたか。	1	2	3	4	5
	11	ニュアンスを崩さずに書いていたか。	1	2	3	4	5
	12	大切な情報を書いていたか。	1	2	3	4	5
	13	文を中途半端にせず、完結させていたか。	1	2	3	4	5
書き続ける力	14	話に聞き入ることなく、手を止めないで書いていたか。	1	2	3	4	5
	15	漢字で止まらずに書いていたか。	1	2	3	4	5
	16	理解しながら書いていたか。	1	2	3	4	5

特に気になったことがあれば書いてください。

--

【参考】通常の講義場面の場合はこのようなチェック項目も・・・。

姿勢と紙の位置	i	聴覚障害学生から見やすい姿勢、無理のない紙の位置で書いていたか。	1	2	3	4	5
利用者(読み手)	ii	聴覚障害学生の状態を見ることができた。	1	2	3	4	5
話し手や教室環境	iii	話し手を見ることができた。	1	2	3	4	5
	iv	板書など色々な情報を確認することができた。	1	2	3	4	5
	v	会場内の音情報を書き取ることができた。	1	2	3	4	5

第6回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム当日資料より引用  
 (本チェック表は、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)情報保障評価事業の成果の一部です)  
 ※無断転用・改変を禁じます。利用の際は必ず出典元を明記してください。



## パソコンノートテイクチェック表

5段階であてはまる評価にマルをつけてください。

			全く そう 思わない	そう 思わない	どちら でもない	そう 思う	とても そう 思う
読みやすさ	1	ほどこく句読点を打っていたか。	1	2	3	4	5
	2	適度に改行があり、見やすく整形していたか。	1	2	3	4	5
情報提供の仕方	3	文の主題(「何が」)と主題に対する説明の内容(「どうした」)がわかるように打っていたか。	1	2	3	4	5
	4	単語登録やFキーメモ(IPtalkの場合)が適切に使っていたか。	1	2	3	4	5
	5	固有名詞や数字が正確に打っていたか。	1	2	3	4	5
	6	漢字の変換ミスが少なく、正確に打っていたか。	1	2	3	4	5
	7	話し手の言葉を使った文章になっていたか。	1	2	3	4	5
	8	ニュアンスを崩さずに打っていたか。	1	2	3	4	5
	9	大切な情報が打っていたか。	1	2	3	4	5
	10	文が中途半端にならず、完結していたか。	1	2	3	4	5
打ち続ける力	11	手を止めないで打っていたか。	1	2	3	4	5
	12	漢字変換でできるだけ止まらずに、打ち続けていたか。	1	2	3	4	5
	13	理解しながら打っていたか。	1	2	3	4	5
連係入力スキル (連係入力の場合のみ)	14	どちらかの入力者に偏ることなく、同じくらいの量で打っていたか。	1	2	3	4	5

特に気になったことがあれば書いてください。

--

【参考】通常の講義場面の場合はこのようなチェック項目も・・・。

姿勢とパソコンの位置	i	画面を聴覚障害学生が見やすい角度に傾けることができた。	1	2	3	4	5
	ii	背筋を伸ばして打つことができた。	1	2	3	4	5
	iii	ホームポジションを保って打つことができた。	1	2	3	4	5
読みやすさ	iv	聴覚障害学生が読みやすい字の大きさ・配色に設定することができた。	1	2	3	4	5
	v	聴覚障害学生が読みやすい字間・行間に設定することができた。	1	2	3	4	5
	vi	聴覚障害学生が見やすい画面レイアウトにすることができた。	1	2	3	4	5
利用者(読み手)	vii	利用者の状態を見ることができた。	1	2	3	4	5
話し手や教室環境	viii	話し手を見ることができた。	1	2	3	4	5
	ix	板書など色々な情報を確認することができた。	1	2	3	4	5
	x	会場内の音情報を打つことができた。	1	2	3	4	5

第6回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム当日資料より引用  
(本チェック表は、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)情報保障評価事業の成果の一部です)  
※無断転用・改変を禁じます。利用の際は必ず出典元を明記してください。

## 手話通訳チェック表

5段階であてはまる評価にマルをつけてください。

### 通訳技術

			全く そう 思わない	そう 思わない	どちら でもない	そう 思う	とても そう 思う
全体像の把握	1	全体的に安心して、長く見ていられるか。	1	2	3	4	5
	2	全体的に講義の内容やストーリー(展開)がつかめるか。 (講義のねらいは何であったかが把握できるか。など)	1	2	3	4	5
	3	話者の雰囲気がよく伝わるか。	1	2	3	4	5
見やすさ	4	手話のリズムに違和感がないか。	1	2	3	4	5
	5	手話単語や非手指動作の無駄な繰り返しがないか。 (「間」の取り方に違和感がないか。聞き逃しやミスによる無駄な動きがないか。通訳者が聞き逃しやミスを修正できているか。など)	1	2	3	4	5
	6	日本語の語順にこだわらず、手話として自然な文になっているか。	1	2	3	4	5
	7	表情や手話語彙の動きの強弱によって自然なイントネーションが表現されているか。 (手話単語や非手指動作の強弱は違和感のない通訳か。手話表現の大きさや位置は適切か。通訳者の上体の使い方は適切か。など)	1	2	3	4	5

### 表現技術

CL・空間活用	8	用語や説明の内容が、視覚的にわかるCL構文によって明確化されているか。 (使われているCLにバリエーションがあるか。用語や説明の内容が視覚的にわかるような表現が使われているか。板書やスライドの図を生かした手話表現をしているか。など)	1	2	3	4	5
NMS(非手指動作)	9	表現された手話に適切なNMS(非手指動作)が使われているか。 (目の開閉によって副詞的な意味が表現されているか。あごの動きによって副詞的な意味が表現されているか。口形によって副詞的な意味が表現されているか。など)	1	2	3	4	5
RS(リファレンシャルシフト)	10	視線の方向などを用いて人物が明確に表されているか。 (人物の交代がわかるか。複数の人物やその関係を表現しわけられるか。など)	1	2	3	4	5

### 講義に応じた技術(翻訳)

情報量・忠実さ	11	話の概要を理解するのに十分な情報が伝わってくるか。	1	2	3	4	5
	12	話の情報量に不足なく、話の細部が伝わるか。	1	2	3	4	5
	13	伝達されている情報に間違いやズレがないか。	1	2	3	4	5
論理や態度の伝達	14	句や文の区切りや接続関係が明確に捉えられるか。 (文と文との間を結ぶ接続関係〔逆接、順接など〕がわかるか。など)	1	2	3	4	5
	15	議論の流れや論理展開が明確に伝わるか。 (文の主体や話者の交代が明確に伝わるか。文の主題と主題に対する説明の内容が捉えられるか。文の流れから話の論点や結論が明確に捉えられるか。など)	1	2	3	4	5
	16	話されている内容についての話者の態度が伝わってくるか。 (推測、断定、使役、可能、受身、義務、要求などの表現が伝わってくるか。句や文を表す直前に、話者の判断・態度を表す手話表現や非手指動作があるか。話者の態度の度合いが捉えられるか。など)	1	2	3	4	5
	17	話を聞くことで学問的思考(批判的思考、創造的思考)が喚起されるか。 (話者の論理を自分の中で再構成することができるか。話をもとに自分なりの意見や疑問を持つことができるか。など)	1	2	3	4	5
語彙選択	18	日本語の概念に忠実な手話単語を選択しているか。 (省略された日本語を必要に応じて具体的に表現しているか。指示語の示す事柄を具体的に言い換えているか。など)	1	2	3	4	5
	19	専門用語の意味がわかるような手話語彙が選択されているか。 (過剰な原語借用がないか。原語そのものが伝わるように日本語の口形がつけられているか。など)	1	2	3	4	5

大学での手話通訳ガイドブック-聴覚障害学生のニーズに応えよう！-(発行:筑波技術大学)より引用

※無断転用・改変を禁じます。利用の際は必ず出典元を明記してください。





## 【分科会4】

### チバリヨー！最初で最後の九州・沖縄開催としないために ―地区の実践から学ぶ―

企画コーディネーター・司会：

太田 富雄氏(福岡教育大学 障害学生支援センター 教授)

講師：横山 正見氏(沖縄大学 学生支援課 障がい学生支援コーディネーター)

木村 素子氏(宮崎大学 教育文化学部特別支援教育講座 准教授)

佐々木順二氏(九州ルーテル学院大学 人文学部心理臨床学科 准教授)

早川 就氏(福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校 主幹教諭)

**討論の柱** ① 地域の大学間連携

② 地域の高校と大学間の連携

#### 企画趣旨

2040年までに20%の人口減、消滅可能性のある自治体が136あると言われている九州・沖縄。大学進学率は短期大学も含めてようやく40%を超える程度で、他地区に比べて低い上、大学の定員充足率が100%を切っている。大学数や在籍数も減少する懸念がある状況で、負担の大きい障害学生支援はきちんと行われていくのだろうか。

本分科会では、①地域の大学間の連携、②地域の高校と大学間の連携、の2つを討論の柱に据えた。①では、大学間で情報を共有したり、支援学生の養成に取り組んだり、他大学への支援を行ったり、先進的な取り組みを行い成果をあげている大学からの報告をもとに、②では、聴覚特別支援学校が大学と協力して情報保障の研修会を行い、通常校の聴覚障害学生への情報提供に取り組んでいる特別支援学校からの報告をもとに、連携の意義や役割、課題等について議論を深め、九州・沖縄地区の実践から学ぶことを明らかにしたい。

## 沖縄大学 聴覚障がい学生支援 とともに学ぶコミュニティづくり

障がい学生支援コーディネーター 横山 正見 氏

### 沖縄大学 聴覚障がい学生支援

とともに学ぶコミュニティづくり

障がい学生支援コーディネーター 横山正見

### 自己紹介

- 神奈川県鎌倉市生まれ
- 会社員を経て沖縄大学へ
- 聴こえない学生との出会い
- 特色GP、障がい学生支援コーディネーター、非常勤講師
- 首都大学東京 ダイバーシティ推進室 特任研究員

### 沖縄大学の概要、歴史

- 私立大学 文系2学部 4学科 学生数2000名
- 大学の理念「地域とともに生きる開かれた大学」
- マイノリティ、社会問題への視点
- 1980年代 風疹による聴覚障がい
- 2004年 組織的な支援活動
- 2007年 特色GP
- 2014年 聴覚障がい者のコーディネーター
- 2015年 PEPNet-Japan 連携大学 県内大学連携 (地域ネットワーク形成支援事業)

人数 → 障がい学生20名(うち聴覚障がい学生4名)  
支援学生70名

組織 → 学生支援課 コーディネーター3名

### 取り組み① 勉強系



• 体験会



• 講義内シンポジウム



• タイピング大会



• 手話勉強会

### 取り組み② 交流系



• 定例会(月2回)



• 沖縄国際大 交流会



• 新入生歓迎会



• 夏合宿

### 情報保障を当たり前



新入生歓迎スポーツ大会



卒業パーティ(ライブハウス)

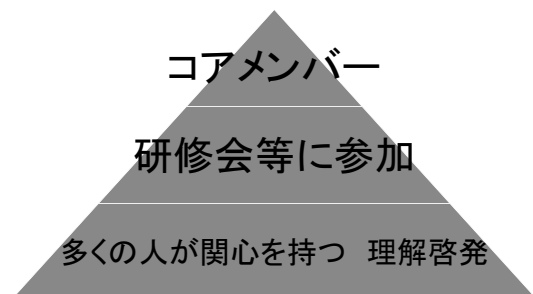


## 企画の目的、意義

- 個別の関係を強く → 技術向上、障がい理解
- 全体に関係を開く → 個別の問題にしない
- 障がい学生に役割  
→ 支援を受ける存在から作り出す存在へ
- コミュニティづくり  
→ コミュニケーションの保障・・・情報保障  
コミュニケーションの質・・・楽しさと困りごと  
存在が認められる・・・役割

7

## 活動のイメージ



8

## 沖縄県内大学

- 9つの高等教育機関  
(4つの高等教育機関で聴覚障がい学生支援)
- 沖縄国際大学との連携
- 在籍に偏り、支援学生の不足
- 私立大学と国公立大学のギャップ
- 研修会に参加しにくい
- 平成27年度地域ネットワーク形成支援事業
- 県全体で聴こえない学生・関係者の  
コミュニティづくり

9

## 課題

- 支援学生不足、支援技術の確保
- 支援メニューの不足(手話通訳)
- 支援体制をどのように維持・発展させるか

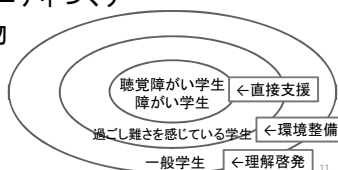
### 新たな視点

- 講義の情報保障からプライベートの情報保障
- 聴覚障がい以外の障がい、社会的障壁への  
取り組み

10

## まとめ

- 大学の歴史、地域の特徴
- 課題や意見に新たな視点
- 当事者がいること ①在籍 ②活動の中心
- あらゆる構成員の過ごしやすさ
- 大学づくり、コミュニティづくり
- 支援活動は生き物



11

## ありがとうございました



12

## 宮崎大学における聴覚障害学生への情報保障の取り組みについて

宮崎大学教育文化学部 木村 素子 氏

### 第11回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム 分科会 4 「宮崎大学における 聴覚障害学生への情報保障の 取り組みについて」

2015年12月20日

宮崎大学教育文化学部  
木村 素子

1

### 本報告の流れ

- I. 障害者差別解消法施行前の宮崎大学での取り組み事例
- II. 障害者差別解消法施行に向けた支援体制の整備
- III. 他大学への支援事例



2

### I. 障害者差別解消法施行前の 宮崎大学での取り組み事例

3

### 宮崎大学

- 教育文化学部、医学部、工学部、農学部、地域資源創成学部（2016年開設）
- 学生数5,508人
- 宮崎市郊外に木花キャンパス、清武キャンパスを有する

4

### 1. 宮崎大学での支援実績

1. 2009年2月～2010年3月
  - 教育文化学部学生Aさん
    - 2006年入学
    - 重度難聴、普通小・中・高校卒
    - 大学入学後に手話を始める
2. 2011年4月～
  - 農学部学生Bさん
    - 2011年入学
    - 重度難聴、普通小・中・高校卒

\* 着任後、工学部学生（電話も出来る程度）、医学部医学科学生、農学部学生に聴覚障害学生がいたが、いずれも支援不要とのこと

5

### 2. 支援内容



1. 教育文化学部Aさん：
  - 合同ゼミにおけるパソコン・手書きノートテイク
  - 卒業式での手話通訳・パソコン要約筆記手配
  - ノートテイク養成講座の実施
  - 年度末の本人・テイカー反省会の実施
2. 農学部Bさん：
  - 教養科目（1年次）におけるパソコンノートテイク
  - ホワイトイヤールの貸与
  - 学部教職員向けのFD／SD研修会の実施（筑波技術大学白澤麻弓先生、木村による講演）
  - ノートテイク養成講座の実施

6



### 3. 支援までの流れ

1. 教育文化学部 A さん：
  - ・ 聾学校教員からの紹介で木村に相談→NT 実施
2. 農学部 B さん：
  - ・ 入試事前相談で聴覚障害生徒であることが認識される→入学に先立ち学科長、担任、教務関係職員等が検討会→木村による助言→入学後の本人面談を経て NT 実施（最初の一週間経過後に NT が必要な科目を確認）

7

### AさんとBさん（2011年入学） の支援手決定の違い

- ・ 入学前から事前相談があり、関連教職員が対応し支援方針を決定
  - センター試験でも障害のある受験生への配慮が要項に明記されるようになった
  - 本学入試の募集要項に障害のある受験生向け事前相談が記載されるようになった
  - 教育文化学部での過去の取り組みの情報が農学部にも伝わっていた
  - 所属学科長、担任の教員等の熱意



8

### ホワイトイヤース（Bさん）

- ・ 講義者にマイク（ピンマイク式無線発信器・別売）を使用してもらい、Bさんがホワイトイヤース本体（右写真）と受信機を装着して聴取
- ・ 講義では補聴器よりもホワイトイヤースのほうが聴きやすいとのことで、NTつけない講義でBさんが利用



・農学部で購入。定価は79,920円  
（ただし一週間の無料お試し可能）  
・アナログ補聴

9

### II.障害者差別解消法施行に向けた 支援体制の整備

10

### 全学的な支援体制整備へ

年	全学的支援体制整備に向けた流れ
2011年4月	介助度の高い肢体不自由学生の工学部への相次ぐ入学に伴う支援事例の蓄積
2012年3月～	教育・学生支援センターによる学生支援フォーラムの開催（障害学生支援、発達障害学生支援、メンタルヘルスなどに関する講演を計7回実施）
2014年	「障がい学生支援室」設立
2015年	障がい学生支援室編「教職員のための『障がい学生修学支援ガイドライン』」作成、「障がい学生支援のしおり」HP公開
2015年9月	専任教員の配置
2015年10月	基礎教育科目として「障がい者支援入門」新設

11

### 学内支援組織図

- ・ 障がい学生支援室…全学的な相談窓口。独立した組織として設置。場所は、木花キャンパスの中心部である安全衛生保健センター内
- ・ 障がい学生支援室運営委員会…支援室の運営について
- ・ 障がい学生支援室員会議…個別支援計画の検討・策定

12

## 「障がい学生支援のしおり」

- どの学部に入學しても、支援につながるようになった
- 支援計画の作成により、より計画的な支援になった



13

## 教職員のための 「障がい学生修学支援ガイドライン」

- 目的と定義、支援体制、支援の流れ、教職員の役割、支援手続き、入試時の支援、災害時の支援等について規定（全18頁）



14

## 「障がい者支援入門」の開設

- 1年次選択の基礎教育科目として新設
- 聴覚障害・視覚障害・肢体不自由・精神疾患等の基本的な理解から支援技術及び実践まで、また災害時支援等にわたる幅広い知識・技術を身につけるような構成
- 講師は、障害者支援の専門家、精神科・眼科・整形外科の医師、支援学校の教員、言語聴覚士、工学部の障害者支援技術の研究者など、様々な分野の専門家により提供

15

## 本学の現状と課題

1. 障害者差別解消法の制定により体制整備が加速し、基本的な体制整備は完了した
2. 一斉講義形式の研修会は一巡した  
→教職員の実際的な場面・事例における理解促進は課題（今後はワークショップ型研修を計画）

16

## III.他大学への支援

17

## 他大学への支援

- 2015年4月～
  - Cさん：補聴器装用→人工内耳装用
  - 近隣の私立短大へ、特別支援教育コース学生3名を派遣
  - 前期・後期：週2コマ（2人体制）
  - ノートテイク養成：木村が本学内で実施（講義2時間）+（自己研鑽）

18



### 支援のきっかけ

- 入学前、保護者より相談→本学学生を支援学生として派遣することも可能かもしれないと提案
- 入学後に、私大より打診→メール・電話等で協議し、派遣のコマ数や派遣する科目を決定
- NT初日：教務担当教員、担任教員、聴覚支援学校コーディネーター、木村が授業参観

19

### 私立短大で直面した課題

- 授業のコマが月～金／1～4コマまで詰まっており、学内学生によるノートテイク確保がほとんど不可能
- 専門的内容のテイクの難しさ（支援学生の専攻内容との隔たり）
- 支援実績がほとんどない
- 私立大学は障害者差別解消法の合理的配慮の提供が「努力義務」である

20

### 支援学生の声

- 当日口頭で

21

## 熊本県における聴覚障害学生支援にかかわる地域連携

九州ルーテル学院大学人文学部心理臨床学科 佐々木順二

### 1 地域連携の捉え方

#### 1) 「連携」とは

- ①互いに連絡を取り協力して物事を行うこと（デジタル大辞泉）
- ②互いに連絡し合い、助け合うこと（角川国語辞典）

#### 2) 聴覚障害学生支援にかかわる「連携」の諸相

- ①大学等と地域の聴覚障害関連機関・団体との連携  
注）大学等・・・大学、短期大学、高等専門学校を含む。以下同じ
- ②大学等との連携 1（機関同士の連携）
- ③大学等との連携 2（大学コンソーシアム熊本を介した連携）
- ④大学等と他の教育機関との連携

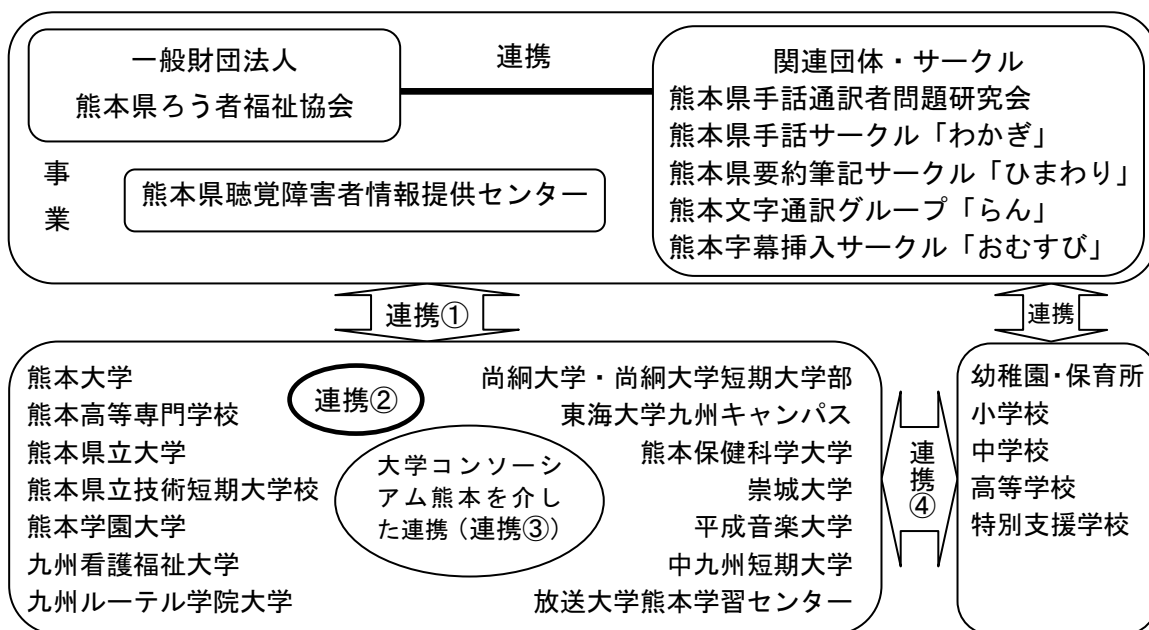


図1 熊本県における聴覚障害学生支援にかかわる機関・団体

### 2 大学等と地域の聴覚障害関連機関・団体との連携

- 1) 大学等からの依頼に応じた熊本県ろう者福祉協会・熊本県聴覚障害者情報提供センター、及び関連団体・サークルによる支援（連携①）

表1 熊本県内の大学と聴覚障害関連機関・団体との連携（時系列の整理）

No.	大学名	支援の年度	支援内容
1	九州ルーテル学院大学	2004～ 2008年度	手話通訳者派遣（2コマ/週） 要約筆記者養成（熊本県ろう者福祉協会に依頼）





2	九州看護福祉大学	2005 年度 から 7 年間	要約筆記者養成講座 要約筆記者派遣（3 日週）
3	尚絅大学短期大学部	2007～ 2008 年度	聴覚障害の理解と情報保障に関する講話 要約筆記者の養成 手話通訳者の派遣
4	熊本学園大学	2011 年度～	要約筆記グループ独自の支援 要約筆記についての講話（年 2 回） 要約筆記者派遣（2011 年度）
5	熊本大学	①2011 年度～ ②2014 年度～	補聴支援の試み 聴覚障害の理解と情報保障に関する講演 字幕作成ソフトの紹介と指導 手話について 要約筆記者養成
6	熊本保健科学大学	2011 年度	聴覚障害の理解と情報保障に関する講話 要約筆記者養成（学生及び教職員対象） 要約筆記者派遣（現在は文字通訳サークルに直接依頼） 字幕作成ソフトの紹介と指導
7	九州ルーテル学院大学	2015 年度～	要約筆記者養成（3 日間） 行事等での手話通訳者、要約筆記者派遣 情報保障（補償）に関する相談支援

典拠 熊本県聴覚障害者情報提供センター・小野康二氏から得た情報を基に作成

備考 支援の主体の記載がないものは、熊本県聴覚障害者情報提供センターによる支援

## 2) 「熊本県聴覚障害者教育を考えるシンポジウム」の開催を通じた情報交換（連携①②）

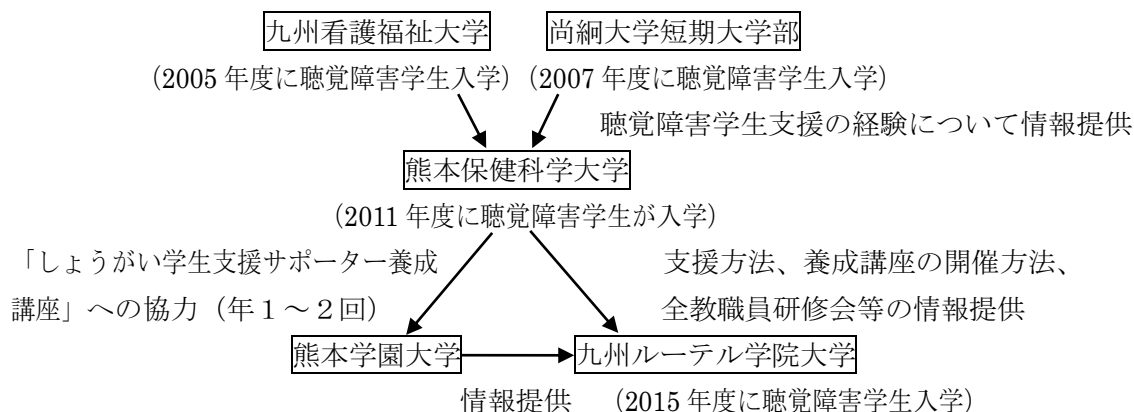
①開催年月日：2008 年 7 月 13 日、熊本学園大学にて開催

②講演：「高等教育機関で学ぶ聴覚障害者の情報支援」（講師：白澤麻弓氏）

③報告・意見交換：熊本学園大学、九州看護福祉大学、尚絅大学短期大学部、熊本 YMCA 学院

## 3 大学等が互いに連絡をとり情報交換をおこなった事例（連携②）

1) 「経験の継承」—支援経験のある大学への照会とそれに応じた情報提供



## 2) 「学生主体の支援活動の経験についての情報提供」

熊本大学

(熊本大学ノートテイクサークル)



講義の1コマの中で、支援学生3名がゲスト講師としてノートテイクによる支援の経験を話し、ノートテイクを実演

九州ルーテル学院大学

## 3) 「障がい学生の修学支援に関する講演会」(九州ルーテル学院大学主催)での情報交換

①開催年月日 2015年8月29日

②講演「障害者差別解消法と合理的配慮」(講師:東俊裕氏)

③パネルディスカッション「本県及び九州における障がいのある学生の修学支援の現状と課題」:熊本大学、熊本学園大学、熊本保健科学大学、福岡教育大学、九州ルーテル学院大学

④「本人参加とエンパワメントに向けた取り組みや課題」を軸に報告・情報交換

例)「聴覚障害をもつ医療従事者の会」に属する薬剤師を講師としたFDセミナーの開催(熊本保健科学大学。情報提供センターからの情報提供あり)

## 4 大学コンソーシアム熊本を通じた連携

### 1) 聴覚障がい児童・生徒支援者育成事業(2010年度・2011年度)(連携④)

①ノートテイクの養成による聴覚障害児童・生徒への修学支援

②熊本市立小学校児童1名への支援の展開

### 2) 障がい学生支援連絡協議会の開催(2015年度スタート)(連携③)

## 5 熊本県における聴覚障害学生支援の特徴(特長)と課題

1) 特徴:大学等の支援体制の構築プロセスにおいて、熊本県ろう者福祉協会、熊本県聴覚障害者情報提供センターおよび関連団体・サークルが持続的に貢献してきた。

2) 課題:①支援システムの持続性(聴覚障害学生が同じ大学に継続して入学することの少なさによる) → 熊本県の「特徴」を生かした支援システムの共有化

②本人学生および支援者のエンパワメント → 各大学の取り組みを「障がい学生支援連絡協議会」等を通じて共有、学生同士がつながることを応援

③幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校、特別支援学校との連携の少なさ → 本人および支援学生の経験の発信、大学の教育研究を生かした貢献

## 6 本報告をまとめるにあたって情報提供いただいた機関等

熊本県聴覚障害者情報提供センター 小野康二氏／ 大学コンソーシアム熊本 事務局／ 熊本大学 古田弘子氏／ 熊本保健科学大学 佐々木千穂氏／ 熊本学園大学 三島春奈氏／ 九州ルーテル学院大学 坂口裕俊氏



## 本校における聴覚障害学生支援のための試み～聴覚障害学生情報サポート講習会の取組から～

福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校 早川 就 氏

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム  
第4分科会

実践発表

本校における聴覚障害学生支援の  
ための試み  
～ 聴覚障害学生情報サポート講習会の取組から ～

平成27年12月20日(日)

福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校  
主幹教諭 早川 就

### 聴覚障害学生情報サポート講習会

第1回開催までの経緯

#### 17年前のある出会い

- ・平成10年、早川が特殊教育学会初参加。
- ・そこで、白澤麻弓先生らの「関東聴覚障害学生サポートセンター」の実践発表を聴く。
- ・「ろう学生懇談会」の存在を知る。
- ・当時、福岡ではまだまだろう学校から大学に進学する例は皆無！
- ・同じ「ろう学生」の進路意識に関する、地方と中央の圧倒的な「格差」に衝撃を受ける。

### 聴覚障害学生情報サポート講習会

当時(平成10年)の聴覚障害青年の意識

#### 関東・関西

- ・努力して勉強すれば、当然、大学等の高等教育機関に進学できる。
- ・大学等できちんと学び、力をつければ、研究者や学者等、様々な職種に就くことができる。

#### 福岡(九州)

- ・聞こえない(聾学校)生徒は、能力があっても大学等への進学はできない。(教師の意識が影響)
- ・聴覚障害は手に職を付けて、木工・理容・縫製等の限られた職種に就くことができる。

### 聴覚障害学生情報サポート講習会

平成15年頃の福岡県内の状況

- ・昭和62年生まれの存在(全国的な風疹の流行  
→多数の聴覚障害児誕生)
  - ・その学年生徒が高校進学年齢になる。
  - ・平成10年「ろう教育の明日を考える全国討論集会(福岡大会)」で、デンマークのバイリンガル教育紹介
  - ・全国的な「聾学校への手話導入」と「学力保障」への意識高揚
  - ・子どもの大学等進学を明確に求める保護者の出現
- But 現場の教師の情報不足……

### 聴覚障害学生情報サポート講習会

第1回開催 平成17年7月27日

#### 目的

聴覚障害を有する学生へのサポート(情報保障)の方法と実践について、広く対象となる高校・大学・短大・専門学校等の教育機関関係者に諸情報を提供または交換することにより、中等高等教育機関における聴覚障害学生の情報保障(講義保障)の質を高め、教育の機会均等を図るとともに情報環境の充実に資する。

#### 対象

聴覚障害生徒(学生)が在籍する中等・高等教育機関関係者、保護者、手話通訳・要約筆記関係者、本校職員

#### 講師

四国学院大学副学長 筑波技術短期大学 内藤先生  
福岡教育大学 太田富雄 教授  
聴覚障害学生3名、手話通訳者

#### 内容

大学における情報保障の状況について  
体験者からの報告(利用者、支援者)・協議

### 聴覚障害学生情報サポート講習会

第1回開催の経緯

#### 校内の状況

- ・本校進学希望者の中に、筑波技術短大(当時)以外への進学希望者が見られ始めた。
- ・大学進学を希望する生徒が、大学での講義等の状況を具体的にイメージできないまま、漠然と不安を感じていた。
- ・上記のような状況にも関わらず、生徒・保護者のみならず、本校職員も大学進学後の環境について、具体的な情報を持たず、従って進路指導も十分にはできていない状況であった。

## 聴覚障害学生情報サポート講習会

### 第1回開催の経緯

#### 校外の状況

- ・九州地区では、ろう学生懇談会の活動も未だ広まっておらず、各大学の学生が孤軍奮闘している状態であった。
- ・PEPNet-Japanが立ち上げられた年であり、全国的にも聴覚障害学生へのサポート体制づくりに関心が向けられ始めた年であった。
- ・受入れ側の大学等もほとんど情報を持たず、どこに相談すればよいかも分からない状態であった。

7

## 第1回聴覚障害学生情報サポート講習会



8

## 第1回聴覚障害学生情報サポート講習会



9

## 第1回聴覚障害学生情報サポート講習会



10

## 第1回聴覚障害学生情報サポート講習会



11

## 第1回聴覚障害学生情報サポート講習会



12



聴覚障害学生情報サポート講習会	
第2回開催 平成18年8月1日	
変更点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「福岡教育大学障害児教育教員養成課程」が協力団体として明文化された。</li> <li>・筑波技術大学(H18～)産業技術学部の情報保障のシステムが校内でデモンストレーションされた。</li> </ul>
講師	福岡教育大学 太田富雄教授 筑波技術大学 産業技術学部 河野純大先生 九州看護福祉大学 学生課職員 サンパソクラブ(専門学校)代表
内容	各大学における情報保障の状況について 遠隔地情報保障のシステム紹介 専門学校における支援実践報告 協議

15

聴覚障害学生情報サポート講習会	
第3回開催 平成19年8月7日	
変更点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筑波技術大学との連携強化</li> <li>・遠隔地間での情報保障の実践について、熊本聾学校と本校との間で、ネット会議システムがデモンストレーション紹介された。</li> </ul>
講師	福岡教育大学 太田富雄教授 筑波技術大学 産業技術学部 河野純大先生 同 障害者高等教育研究支援センター 白澤麻弓先生 福岡予備校 講師、本校生徒
内容	全国の大学における情報保障の状況について 障害学生修学支援ネットワーク事業について 遠隔地情報保障(ネット会議)システム紹介 予備校における支援実践報告、協議

16

聴覚障害学生情報サポート講習会	
第4回	平成20年8月29日
第5回	平成21年8月20日
第6回	平成22年8月20日
第7回	平成23年8月19日
講師	筑波技術大学 産業技術学部 同 障害者高等教育研究支援センター 本校卒業生
内容	筑波技術大学における情報保障機器のデモ発表 全国の大学における情報保障の取組について 情報保障体験者(本校卒業生)の体験発表
課題	筑波技術大学とPEPNetからの情報提供と本校卒業生の発表に終始し、問題点や本来の目的があいまいに...

17

聴覚障害学生情報サポート講習会	
第8回	平成24年8月24日
講師	筑波技術大学 産業技術学部 河野純大先生 同 障害者高等教育研究支援センター 白澤麻弓先生 三好茂樹先生 福岡大学理学部応用数学科 杉方郁夫先生 MCP(本校卒業生:山口沙希 他のNPO団体)
内容	筑波技術大学のモバイル型遠隔情報システム紹介 全国の聴覚障害学生支援の動向 福岡大学における支援実践報告、MCP(地元の聴覚障害学生支援団体)の活動紹介 協議
成果	・地元の大学や、MCP(聴覚障害学生支援団体)の取組が新たに紹介され、地元(福岡)における現実的な情報保障の現状や可能性等が話題となった。

18

## 聴覚障害学生情報サポート講習会

第9回 平成25年8月23日

### 講師

熊本保健科学大学 佐々木千穂先生(言語聴覚士)  
福岡教育大学 太田富雄先生、内田佳織先生  
聴覚障害学生2名

### 内容

医療系高等教育機関における情報保障の取組紹介  
パソコンノートテイク実演  
体験者からの報告(久留米大、四国学院大)

### 成果

筑波技術大学からの全国的な動向等の情報提供はなかったが、代わりに地元(熊本、福岡)での実際の取組が具体的に紹介され、参加者には大きな刺激となった。

### 課題

PEPNet-Japan や各地の大学コンソーシアムによる全国的な情報提供が進んでいる中、本講習会の目的(対象)を絞り込む必要が生じた。

19

## 聴覚障害学生支援セミナー

第10回 平成26年8月22日

### 目的

大学進学を考える高校生に向けて、情報保障に加え、聴覚障害学生の大学生活、大学からの支援の状況等に関する情報を提供し、大学進学のための一助とする。

### 対象

大学進学を希望している本校生徒、および教育相談利用者・保護者・関係学校職員 等

### 講師

九州産業大学 学生部厚生課 藤川昌幸氏  
本校卒業生(九州産業大学、別府大学)

### 成果

対象を絞ったことで、大学進学を考えている生徒や保護者が求めている情報が、分かりやすい形で提供された。

20

## 聴覚障害学生支援セミナー

第11回 平成27年8月21日

### 目的

大学進学を考える高校生が、情報保障の現状や大学が求める力、入試情報、現役の聴覚障害学生の生活の様子などを知る場を提供する。また、保護者や関係諸機関職員に情報提供を行い、センター的機能の支援とする。

### 対象

大学進学を希望している本校生徒、および教育相談利用者・保護者・関係学校職員 等

### 講師

別府大学 針谷武志先生  
本校卒業生(筑紫女学園大学、九州産業大学)

### 成果

本校卒業生が新たに進学した大学での、情報保障等の状況に関する情報がまとまった形で提供されると同時に、卒業生による具体的な大学生活の状況も分かり、生徒や保護者、職員にとって有意義な研修の場となった。

21

## 11年間を通しての成果と課題

### 成果

- ・大学等で実際に利用者として情報サポートを受けている学生からの体験発表は、大学等の受入れ機関、保護者、当事者(高校生等)、教育関係者などの立場の参加者にも有意義な情報であると、感想から読み取れる。
- ・毎年、筑波技術大学から提供していただいていた情報保障システム(機器等)の情報は、初めて知る参加者も多く、意義ある情報提供であった。

22

## 11年間を通しての成果と課題

### 成果

- ・本校が主催して本企画を開催し続けた事により、多くの関係機関(大学、専門学校、情報提供施設、当事者等)との連携が進められた。
- ・参加者同士の情報交換や情報共有・連携も進んだ。
- ・本校の卒業生に対する事後指導や、在校生への進路指導に効果があり、その後の各方面での活躍にもつながった。
- ・1年次より本企画に参加させる事により、本校生徒の進学意識高揚に効果があった。

23

## 11年間を通しての成果と課題


### 課題

- ・PEPNet-Japan等、全国的な聴覚障害学生受入れに関する大学等への支援体制が整っていくにつれ、本校が果たすべき役割が変化していった。
- ・本校の特別支援学校のセンター的役割として、県内の高校等で学ぶ聴覚障害生徒に関する情報が不十分であり、自ずと支援体制づくりにも限界がある。
- ・聴覚障害を持つ高等部(本校)生徒や地域の高校在籍生徒への情報保障を一義的に考え、内容を絞り込む。
- ・地元の大学や支援機関等との連携体制づくり。
- ・本校生徒、保護者、職員へのさらなる刺激提供。

24





 共催：国立大学法人福岡教育大学 障害学生支援センター

【全体会】

特別企画 公開事例検討会

「どうする？どうなる？合理的配慮  
－事例から読み解く障害者差別解消法－」

司 会：白澤 麻弓 氏（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 准教授／  
PEPNet-Japan 事務局長）

講 師：藤木 和子 氏（藤木総合法律事務所 弁護士）

池谷 航介 氏（大阪教育大学 教職教育研究センター 特任准教授）

松岡 克尚 氏（関西学院大学 人間福祉学部 教授）

村田 淳 氏（京都大学 学生総合支援センター 助教）

- 企画の柱** ① 障害者差別解消法を正しく理解し、現場に落とし込むにはどうしたらよいか。  
② 適切な合理的配慮の提供のあり方とはどうあるべきか。

**企画趣旨**

障害者差別解消法の施行が平成 28 年 4 月に迫り、全国の高等教育機関でもその対応に向けた体制整備等が加速している。これまで関係者の善意で支えられてきた聴覚障害学生支援も法に基づいた実施が求められることとなるが、「合理的配慮の提供」にはすべての場面で統一的に利用できる基準があるわけではなく、個別の事例にあわせての対応が必要とされている。そのため、関係者の困惑が大きく、「不当な差別的取扱い」、「合理的配慮」、「過重な負担」といった言葉が一人歩きしているとも言える状況となっている。

法に基づいて支援を実施していくためには、法律に関する知識はもちろん、まずは関係者間での議論の積み重ねが重要と考える。

そこで本企画では、聴覚障害学生支援にありがちな事例を複数取り上げ、多くの関係者が抱える「どこからが不当な差別的取扱いになるのか」、「どこまでが合理的配慮で、どこからが過重な負担なのか」などの疑問について、経験豊富な講師陣や法律の専門家である弁護士からのより実践的な見解をもとに議論を深めていく。それにより、障害者差別解消法への理解を深め、参加者がそれぞれの現場で日々の支援業務を振り返るためのヒントを提供できればと考えている。

あわせて、法で定められる最低ラインの支援に留まらず、聴覚障害学生の成長を第一に考えた支援のあり方についても考える機会としたい。





## 【講師・司会紹介】



**藤木和子** （弁護士 筑波技術大学法律学講師）

1982 年生まれ。藤木総合法律事務所所属（埼玉県上尾市）。

東京大学法科大学院卒業。高度難聴の弟を持つ姉であり、全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会において活動。親、きょうだいとの葛藤、失敗談などの自分の経験を少しでも生かしたいと考え、心理の知見も踏まえて、家族、少年、障害関係の個別事案、講演・講義活動に取り組んでいる。

2012 年、弁護士になると同時に、自分と同じ生き方をする仲間を求め、ろう者弁護士である田門浩先生に自ら会いに行き、高松手話通訳訴訟弁護団に加入（その後、勝訴的和解）、手話の勉強を始める。大学の授業は、自分が担当した事案など、学生にとって身近でためになる面白い授業をモットーとしている。

『東大生がやさしく書いた裁判のしくみ』（日本実業出版社、共著 2006 年）

『障がい者差別よ、さようなら！ケーススタディ障がいと人権 2』（生活書院、共著 2014 年）『障害者雇用促進法（仮）』（弘文堂、共著近刊予定）



**池谷航介** （大阪教育大学 教職教育研究センター特任准教授  
障がい学生修学支援ルームコーディネーター）

大学卒業後、神戸市の公立小学校教諭として通常の学級及び難聴学級担任として勤務。主として通常の学級におけるインクルーシブな教育環境に関する実践研究を推進する。大阪教育大学附属特別支援学校教諭を経て現職。修士（教育学）、学校心理士。

コーディネーターとして大学における障害学生に応じた基礎的環境の整備と合理的配慮の拡充を実践しつつ、近年の研究としては、特別支援学校のセンター的機能に関する調査、障害を有する幼児児童生徒学生に応じた防災・防犯に関する調査等を実施。



**松岡克尚（関西学院大学）**

3 歳頃に難聴であることがわかり、小学校 2 年生より補聴器を使用。  
1986 年関西学院大学社会学部卒業、一般企業勤務の後、大学院に進学。  
1995 年関西学院大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻を満期退学  
（課程修了は 2003 年）、翌 96 年から四国学院大学に赴任。

1997 年に四国学院大学で「ノートテイク制度」創出に関わり、以降、  
同制度の運営委員などを務める。

2004 年関西学院大学に移り、社会学部「ノートテイク制度」の創出に関わる。

2011 年より、障害学生支援を担当する部署である総合支援センターの委員を務める。



**村田 淳（京都大学 学生総合支援センター 助教  
障害学生支援ルーム・チーフコーディネーター）**

大学を卒業後、ファームステイやバックパッカーなどの異色の経歴を経て、2007 年より京都大学における障害学生支援に従事。2008 年に障害学生支援の専門窓口を設置し、組織改編等を経て、2014 年より現職。

新たな視点でのバリアフリーマップ制作や発達障害のある学生の修学支援やグループ活動を実施するなど、支援現場で様々な取り組みを行う一方、組織的な障害学生支援体制のマネジメントを担うなど、大学全体のバリアフリー化に向けた取り組みに従事。

関西障害学生支援担当者懇談会・世話人、全国高等教育障害学生支援協議会・理事、京都府自閉症協会・専門部会委員、日本学生支援機構 障害学生修学支援実態調査・分析協力者他。

担当科目は、「偏見・差別・人権」「障害とは何か」など。





**白澤麻弓** （筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター准教授）

学生時代より聴覚障害者支援に関わり、2004 年筑波技術大学（当時：筑波技術短期大学）に就任したことをきっかけに日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）を設立。以来、事務局長として全国の大学に対する相談支援活動やネットワーク形成に貢献。日本学生支援機構「障害学生修学支援ネットワーク委員会」委員、文部科学省「障がいのある学生の修学支援に関する検討会」委員。2013 年 8 月から 1 年間、日本財団国際フェローシップ・フェローとして、米国ロチェスター工科大学を中心とする聴覚障害学生支援の実態について調査研究活動に従事。博士（心身障害学）、手話通訳士。著書に「大学ノートテイク支援ハンドブック」人間社（2007 年）、「聴覚障害学生サポートガイドブック」日本医療企画（2002 年）、「大学ノートテイク入門」人間社（2001 年）等。

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

特別企画 公開事例検討会  
 どうする？どうなる？合理的配慮  
 一事例から読み解く障害者差別解消法—

PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

障害者差別解消法の施行に向けて

- 国公立大学  
 障害者への不当な差別的取扱いの禁止  
 障害者への合理的配慮提供に関する法的義務
- 私立大学  
 障害者への不当な差別的取扱いの禁止  
 障害者への合理的配慮提供に関する努力義務

PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

キーワード

- 不当な差別的取扱い？
- 合理的配慮？
- 過重な負担？
- 本質的な変更？

PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

キーワード1

不当な差別的取扱い

PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

不当な差別的取扱いの基本的な考え方

- 障害者に対して、正当な理由なく、障害を理由に財・サービスや各種機会の提供を拒否・制限する
- 障害者でないものに対しては付さない条件を付ける  
 などによる、障害者の権利利益の侵害  
 （基本方針より）

PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

事例1

- 重度の聴覚障害学生から入学試験（面接）で手話通訳をつけて欲しいという要望がありました。

【大学職員】

本学は、聴覚障害学生の受け入れ経験がないため、受験を断ってもいいでしょうか？

PEPNet-Japan



第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

## 事例2

- 重度の聴覚障害学生から入学試験（面接）で手話通訳をつけて欲しいという要望がありました。  
【大学職員】

自身で手配することを条件に受験を認める形でよいでしょうか。

PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

## キーワード2

# 合理的配慮

PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

## 「合理的配慮」とは

- 障害者から社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、社会的障壁の除去の実施について、必要かつ合理的な配慮（合理的配慮）を行う  
(基本方針より)

PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

## 事例3

- 私の授業を履修予定の聴覚障害学生から「ノートテイクをつけて受講したいので、ノートテイク2名も教室に入ってよいか」という質問がありました。  
【大学教員】

受講生以外の入室は禁止なので、ノートテイクも同様と考えてよいでしょうか。

PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

## 「合理的配慮」とは

- 障害者でない者との比較において同等の機会の提供を受けるためのもの
- 事務・事業の目的・内容・機能の本質的な変更には及ばないこと

(基本方針より)

PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

## 事例4

- 私の授業を履修している聴覚障害学生から「ノートテイクのために、投影しているPPTの資料が欲しい」という要望がありました。  
【大学教員】

聴覚障害学生だけに渡すと不公平なのでできないと断っていいでしょうか。

PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

キーワード3

## 過重な負担

13 PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

### 合理的配慮の基本的な考え方

- 障害者から社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、社会的障壁の除去の実施について、必要かつ合理的な配慮（合理的配慮）を行う

（基本方針より）

14 PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

### 過重な負担の基本的な考え方

- 個別の事案ごとに、以下の要素等を考慮し、具体的場面や状況に応じて総合的・客観的に判断することが必要である。
  - 事務・事業への影響の程度
  - 実現可能性の程度
  - 費用・負担の程度
  - 事務・事業規模
  - 財政・財務状況

（基本方針より）

15 PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

### 事例5

- すべての講義に情報保障をつけて欲しいと学生課に要望しましたが、これまで聴覚障害学生の受け入れ経験がないため難しいと言われました。

【聴覚障害学生】

受け入れ経験のない大学に支援を依頼するのは「過重な負担」なのでしょうか。

16 PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

### 事例6

- 普段パソコンノートテイクによる支援を受けていた聴覚障害学生がゼミ形式の授業で手話通訳を希望してきました。手話通訳は外部団体に委託せざるを得ず、高額の予算がかかります。

【大学職員】

このような支出は本学にとって「過重な負担」になるので、断ってもいいでしょうか。

17 PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

### 事例7

- 軽度の聴覚障害のある学生から、授業にパソコンノートテイクを派遣して欲しいという要望がありました。

当該学生は、補聴器を使って会話できるので、パソコンノートテイクは本学にとって「過重な負担」ではないかと考え、従来通り補聴器で聞き取ってもらう形にしていいていいでしょうか。

18 PEPNet-Japan



第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

キーワード4

# 本質的な変更

19 PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

## 合理的配慮の基本的な考え方

- 合理的配慮は、行政機関等及び事業者の事務・事業の目的・内容・機能に照らし、必要とされる範囲で本来の業務に付随するものに限られること、障害者でない者との比較において同等の機会の提供を受けるためのものであること、事務・事業の目的・内容・機能の本質的な変更には及ばないことに留意する必要がある。

(基本方針より)

20 PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

## 事例8

- 英文学科に在籍する聴覚障害学生から、英語のヒアリングおよびスピーキングを重視した授業が必修なので履修したいという申請があり、情報保障として手話通訳を希望しているとのことでした。教員と学生のやりとりが多くなされる授業のため、即時性のある手話通訳を望んでいるようです。

この場合、手話通訳でよいのでしょうか。

21 PEPNet-Japan

第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

## 事例9

- 一般校へ教育実習に行く予定です。発声が得意ではないので、授業をする時に手話通訳者をつけて欲しいとお願いしたら「授業は自分の力でするもの」と断られました。【聴覚障害学生】

教育実習での手話通訳は、本質的な変更にあたってしまうのでしょうか。

22 PEPNet-Japan

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.





# 参考資料

# PEPNet-Japan

Postsecondary Education Programs Network of Japan

## 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク

### —聴覚障害学生支援の明日を切り拓く

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）は、2004年筑波技術大学の呼びかけにより結成されたネットワークです※。事務局は、筑波技術大学障害者高等教育研究支援センターに置かれており、聴覚障害学生を受け入れ、積極的に支援を行っている連携大学・機関とともに活動を行っています。



※設立当初は、日本財団の助成によるPEN-International（聴覚障害者のための国際大学連合）の支援を受け、発足しました。現在は、筑波技術大学の実施する「聴覚障害学生支援・大学間コラボレーションスキーム構築事業」内で運営されています。



### 平成 25 年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰を受賞！



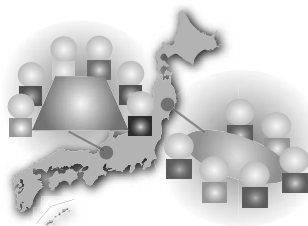
本ネットワークのこれまでの取り組みが認められ、平成 25 年 12 月 9 日に、内閣府による平成 25 年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰【内閣総理大臣表彰】を受賞しました。皆様のご理解、ご協力に厚く感謝申し上げます。

（授賞式にて安倍晋三内閣総理大臣から表彰される村上芳則前代表）

本事業の目的は、全国の聴覚障害学生が在籍する大学および関係諸機関間のネットワークを形成し、高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生への支援体制確立を図ることです。支援にまつわる情報や実践の蓄積と、全国の大学・機関に向けた発信を目指して活動を行っています。

## こんな活動をしています

### 地域ネットワークの形成支援



各種研修会の開催等を通して地域ごとの大学間ネットワーク形成を後押しするとともに、各地域における大学の支援状況について情報を収集を進めています。

これまでの実績：

平成 24 年度 近畿地区（主催 同志社大学）  
東北地区（主催 宮城教育大学）  
平成 25 年度 北海道地区（主催 札幌学院大学）  
平成 26 年度 東海地区（主催 愛知教育大学）

### モデル事例の構築と成果発信

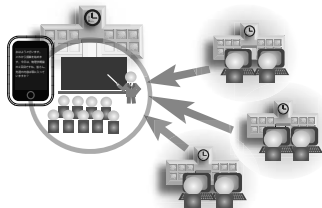


これまで支援が困難であった分野や取り組み事例が少ない分野を取り上げ、大学や機関が協力して集中的に知識や技術を注入することで、新たな支援事例の創出を図ろうとしています。

これまでの実績：

平成 25・26 年度「情報保障者における主体性の醸成を目指したマネジメント」（主幹 みやぎ DSC）

### 遠隔情報保障支援ネットワークの構築



東日本大震災における東北地区大学支援プロジェクトの経緯をベースに、大学が相互に協力して遠隔地から授業支援を提供する体制構築を進めています。また、これまでの取り組みをもと

に「遠隔情報保障支援ガイドライン」や「遠隔情報保障支援実践マニュアル」などのウェブコンテンツを開発しました。

### メーリングリストの運営

聴覚障害学生支援に関わる方々の情報共有とディスカッションのため、メーリングリストを開設し、運営しています。

### Web による情報発信

作成した教材をはじめ、聴覚障害学生支援に関わる多彩な情報をホームページ上で発信しています。

#### TOPICS

#### 東北地区大学支援プロジェクト



2011 年に発生した東日本大震災の際には、宮城県内の連携大学・機関の要請を受け、被災地域の聴覚障害学生の安否確認等に協力しました。また授業開始後は、被災地の大学で学ぶ聴覚障害学生に対して、全国の連携大学・機関から遠隔でパソコンノートテイクの提供を行う試みを実施しました。この取り組みには、全国 13 大学・機関が参加し、4 大学で学ぶ聴覚障害学生約 20 名に対して、のべ 300 コマ程度の支援を提供しました。



### 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム



PEPNet-Japan の活動成果を広く発信するとともに、全国の大学の支援実践について情報交換をすることを目的に、毎年 1 回シンポジウムを開催しています。

### 各種教材の作成・配布



DVD シリーズ「Access! 聴覚障害学生支援」をはじめとする多様な教材を作成し、全国の大学・機関関係者に広く配布しています。

### 各種研修会の開催



これまでの活動で得た知見や作成した教材をもとに、聴覚障害学生支援に関わる研修会を開催しています。

これまでの実績：

聴覚障害学生教職員研修会  
聴覚障害学生エンバウメント研修会 など

### 運営委員会の開催



連携大学・機関から選出された委員により構成された運営委員会を開催し、ネットワークの活動方針や事業計画を協議しています。

### Twitter アカウントの運用

PEPNet-Japan で取り組んでいる事業の様子やイベントのお知らせ、成果物のご案内をしています。

PEPNet-Japan 公式アカウント：

@PEPNet-Japan

（右の QR コードからフォローできます）



## これまでの活動成果

### はじめての聴覚障害学生支援講座

Web コンテンツ

はじめて聴覚障害学生を受け入れることになったとき、大学側はどんな準備をすればいいのでしょうか？ここでは、学内支援体制を作り上げていく手順を丁寧に解説しています。



### 大学教職員のための地域通訳依頼ハンドブック

—よりよい連携を目指して—

大学での情報保障（手話通訳・文字通訳）を地域通訳に依頼する際に活用できるハンドブック。地域通訳者の養成方法や依頼手順のほか、関係者との連携のあり方などを詳細に記載しています。



### DVD シリーズ「Access! 聴覚障害学生支援」

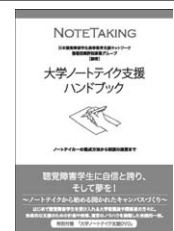
支援に関わる各種トピックスについて解説したDVDシリーズ。支援の手順や意義、聴覚障害学生本人の意識など、さまざまなテーマをドラマやドキュメントで示しています。



### 大学ノートテイク支援ハンドブック

一般書店でお買い求め下さい

「ノートテイクを養成したいけど、どうすれば？」そんな声にお応えして作成したハンドブック。講座開講の流れからスキルアップの方法まで丁寧に解説しています。



### トピック別聴覚障害学生支援ガイド

—PEPNet-Japan TipSheet 集—

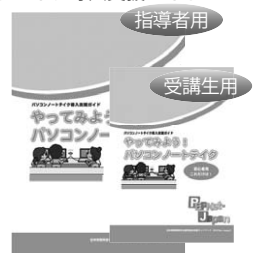
「聞こえないってどういうこと？」「ノートテイクって何？」など、支援に関わる基本的な知識をまとめた冊子。同じ内容のリーフレットも Web 上で公開しています。



### やってみよう！パソコンノートテイク

—パソコンノートテイク導入支援ガイド—

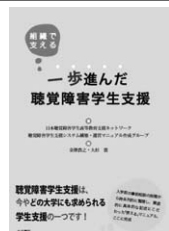
「やってみしたいけど難しそう」そんなパソコンノートテイクに対するイメージを払拭。必要な機器から接続設定・入力の基礎まで、簡単にわかりやすく解説しています。



### 一歩進んだ聴覚障害学生支援

一般書店でお買い求め下さい

はじめて聴覚障害学生が入ることになったときの対応方法から、人材確保、支援体制の強化まで、具体的な事例やノウハウを盛り込んでまとめたマニュアルです。



### やってみよう！関係入力

—パソコンノートテイクスキルアップ！教材集—

パソコンノートテイクに必要な関係入力を習得するための教材集。各種練習方法を紹介しているほか、自宅で関係入力の練習ができるソフトウェアも付属しています。



## 大学での手話通訳ガイドブック —聴覚障害学生のニーズに応えよう！—

聴覚障害学生が大学で望む手話通訳とは何かを、座談会や通訳事例を通して説明した解説書。通訳映像を見ながら具体的なニーズについて学ぶことができます。



## 聴覚障害学生のエンパワメント事例集

Web コンテンツ

聴覚障害学生が自ら周囲の人々に働きかけ、必要な支援を生み出す「エンパワメント」に関して、基本的な概念や大学で取り組むことのできるさまざまな実践について紹介しています。



## 支援技術導入リーフレット

ITを活用した支援技術のノウハウをコンパクトに収録したリーフレット。遠隔情報保障に関する技術やビデオ教材への字幕挿入など、5テーマを公開しています。



## 障害学生支援担当者の職務内容・専門性に関する実態調査報告書

2011 年度に実施した全国調査報告書。全国の大学で障害学生支援を担当している方々の勤務実態や職務の内容、専門的知識・スキルの習得状況等を明らかにしています。



## 学生同士がつながる支援コミュニティづくり —支援学生の「主体性」を引き出すマネジメント—

支援学生がより主体的に活動し、支援の質向上や支援組織の発展的な運営に貢献するための事例集。具体的な事例を多数収録しています。



## 東北地区大学支援プロジェクト報告書

東日本大震災の発生後、東北地区の大学が学内の支援体制を取り戻すまでの間、遠隔地からパソコンノートテイクを提供する試みを実施しました。本冊子はこの報告書です。



## 聴覚障害学生サポートネットワークの構築をめざして —アメリカ視察報告書—

PEPNet-Japan がこれまでに実施してきたアメリカ視察の報告集。第1～3回視察の結果をまとめた総集編と、個別のトピックに焦点をあてた特別編を発行しています。



## その他、ホームページをご覧ください

この他、PEPNet-Japan ホームページでは聴覚障害学生の支援に役立つコンテンツを多数公開しています。  
・聴覚障害学生支援 FAQ  
・各種研修会報告書 など

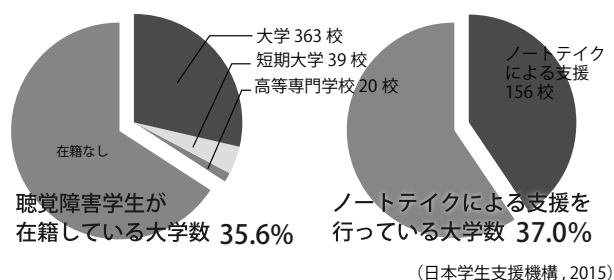
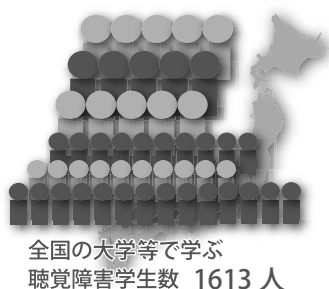


[www.PEPNet-J.org](http://www.PEPNet-J.org)

## 聴覚障害学生支援の現状

### 聴覚障害学生の在籍状況

現在、全国の高等教育機関（以下、大学等）には 1600 人以上の聴覚障害学生が在籍しています。しかし、彼らに対して必要なノートテイク等の支援を提供できている大学は、四割以下となっています。



### 聴覚障害学生に対する支援



**ノートテイク** 授業中の教員の説明や音情報を文字で書いて伝える方法で、2～3名の支援者が交代でサポートを行います。



**パソコンノートテイク** ノートテイクと同様に音情報をパソコンで入力していく方法です。専用ソフトを用いることで、複数の入力者が協力して情報を伝えることができます。



**手話通訳** 聞こえてくる音情報を手話で伝えていく方法です。ゼミなどで利用されることが多く、外部団体から派遣を受ける例もあります。

## 聴覚障害学生支援の展望

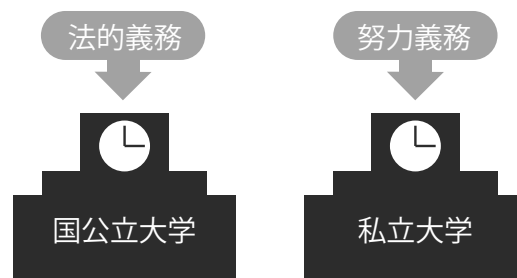
### 文部科学省の動き

平成 18 年 12 月、国連で「障害者の権利に関する条約」が採択され、日本も平成 26 年 1 月に本条約を締結しています。こうした流れの中、文部科学省でも平成 24 年 6 月「障がいのある学生の修学支援に関する検討会」を立ち上げ、障害学生の方向性について検討を重ねました。この報告は、平成 24 年 12 月に『『障がいのある学生の修学支援に関する検討会』報告（第一次まとめ）』として公開されています。ここには「障がいのある学生が障害を理由に修学を断念することがないよう、修学機会を確保する」という基本方針が明確に示されています。

### 障害者差別解消法の成立

平成 25 年 6 月「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が可決・成立しました。平成 28 年 4 月にこの法律が施行されると、すべての大学等でも障害学生への不当な差別的取り扱いが禁止されます。さらに、国公立大学には障害学生への合理的配慮提供に関する法的義務が、私立大学には努力義務が課せられることになります。

### 障害学生への合理的配慮提供



いよいよ各大学が「覚悟」を持って障害学生支援に取り組まなければならない時代がやってきたと言えます。すべての学生が実りある学生生活を送れるよう、ともに取り組みを続けていきましょう！



## 運営組織

### 代表

大越教夫 筑波技術大学・学長

### 運営委員長

石原保志 筑波技術大学・副学長

### 運営委員

新國三千代 札幌学院大学人文学部・教授  
 松崎 丈 宮城教育大学教育学部・准教授  
 高橋明美 みやぎ DSC・スタッフ  
 斉藤くるみ 日本社会事業大学・教授  
 倉谷慶子 関東聴覚障害学生サポートセンター・コーディネーター  
 広瀬洋子 放送大学教育支援センター・教授  
 金澤貴之 群馬大学教育学部・教授  
 高橋岳之 愛知教育大学教育学部・准教授  
 藤井克美 日本福祉大学・非常勤教授  
 川崎友巳 同志社大学学生支援センター・所長  
 井坂行男 大阪教育大学障がい学生修学支援ルーム・ルーム長  
 松岡克尚 関西学院大学人間福祉学部・教授  
 杉森公一 金沢大学大学教育開発・支援センター・准教授  
 林田真志 広島大学大学院教育学研究科・准教授  
 加藤哲則 愛媛大学教育学部・准教授  
 太田富雄 福岡教育大学附属特別支援教育センター・教授  
 横山正見 沖縄大学学生支援課・障がい学生支援コーディネーター  
 須藤正彦 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・センター長  
 三好茂樹 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授  
 白澤麻弓 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授

(2015年5月1日現在)



## 事務局

### 事務局長

白澤麻弓 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授

### 事務局長補佐

萩原彩子 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・助手

### 事業コーディネーター

磯田恭子 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・助手

中島亜紀子 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・助手

### 事務局員

小林正幸 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・教授

佐藤正幸 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・教授

山田重樹 筑波技術大学聴覚障害系支援課・課長

三好茂樹 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授

河野純大 筑波技術大学産業技術学部産業情報学科・准教授

### 事務補佐員

石野麻衣子 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・特任研究員

五十嵐依子 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・技術補佐員

## PEPNet-Japan 連携大学・機関

札幌学院大学  
 宮城教育大学  
 みやぎ DSC  
 群馬大学  
 東京大学  
 早稲田大学  
 日本社会事業大学  
 関東聴覚障害学生サポートセンター  
 放送大学 教育支援センター  
 静岡福祉大学  
 愛知教育大学  
 日本福祉大学  
 金沢大学  
 同志社大学  
 立命館大学  
 大阪教育大学  
 関西学院大学  
 広島大学  
 四国学院大学  
 愛媛大学  
 福岡教育大学  
 沖縄大学  
 筑波技術大学



## お問い合わせ先

PEPNet-Japan

検索

## 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク事務局

〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15  
 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター  
 URL <http://www.pepnet-j.org>  
 TEL/FAX 029-858-9438  
 E-mail [pepj-info@pepnet-j.org](mailto:pepj-info@pepnet-j.org)  
 担当：白澤麻弓（筑波技術大学 准教授）

**PEPNet-Japan**  
 国立大学法人  
**筑波技術大学**

本事業は、筑波技術大学「聴覚障害学生支援・大学間コラボレーションスキーム構築事業」の活動の一部です。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.



# 日本聴覚障害学生 高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) 連携大学・機関活動紹介

- 札幌学院大学
- 宮城教育大学
- みやぎ DSC
- 群馬大学
- 東京大学
- 早稲田大学
- 日本社会事業大学
- 関東聴覚障害学生サポートセンター
- 放送大学 教育支援センター
- 静岡福祉大学
- 愛知教育大学
- 日本福祉大学
- 金沢大学
- 同志社大学
- 立命館大学
- 大阪教育大学
- 関西学院大学
- 広島大学
- 四国学院大学
- 愛媛大学
- 福岡教育大学
- 沖縄大学
- 筑波技術大学



# 札幌学院大学

●支援組織名称 札幌学院大学アクセシビリティ推進委員会  
札幌学院大学バリアフリー委員会（学生組織）

●スタッフ 教職員10名、学生スタッフ73名

聴覚障害学生	5名	学部生	5名
視覚障害学生	3名	院生	0名
肢体障害学生	7名		

設置形態	私立大学
学生数	2,716人
所在地	〒069-8555 北海道江別市文京台11番地

## 学内支援体制

学生および教職員によるボランティア組織バリアフリー委員会が大学予算による支援活動が続けてきたが、2014年度より支援実施を担う大学組織アクセシビリティ推進委員会が発足。バリアフリー委員会の学生たちと協働しながら支援に取り組んでいる。

## ノートテイク・パソコンテイク

提供しているサービス	ノートテイク、パソコンテイク (IPTalk 使用)
利用者数	14年度前期5名 後期5名
ティカー数	14年度実数：前期33名、後期35名
サービス提供時間数	14年度前期→59科目 14年度後期→55科目
報酬および経費	770円/時間、17時以降960円/時間
募集方法	掲示板等へのポスター掲示、学生宛にメールでの支援者募集案内のほか、新年度ガイダンス時に教員・利用学生・支援学生の3名一組で支援内容について説明し、説明会日程を案内。
コーディネート方法	学習支援室のコーディネーターが相談窓口となり配置等を実施。学生との協働でよりよいコーディネートを目指す。
養成方法	前期・後期・夏休みの年3回講習会を実施。先輩学生が講師を務め、利用学生も助言者として参加する。実際の講義での練習や、先輩メンターによる個人レッスンも行っている。

## ポイントテイク（筆記代行）

利用者数	14年度前期4名 後期5名
ティカー数	14年度実数：前期7名、後期9名
サービス提供時間数	14年度前期→7科目、 14年度後期→17科目
報酬および経費	770円/時間、17時以降960円/時間
募集方法	掲示板等へのポスター掲示、学生宛にメールでの募集案内のほか、新年度ガイダンス時に教員・利用学生・支援学生の3名一組で支援内容について説明し、説明会日程を案内。
コーディネート方法	学習支援室のコーディネーターが相談窓口となり配置等を実施。学生との協働でよりよいコーディネートを目指す。
養成方法	前期・後期の年2回講習会を実施。実際の支援の現場に先輩学生と一緒に入り、支援の様子を確認する経験を数回積んだ上で支援活動に入る。

## Check!

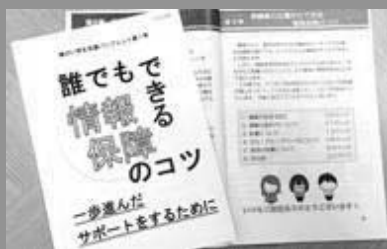
学生・教職員の協働により運営している。障がいのある学生も主体的に企画・運営を担う。

## 『誰でもできる情報保障のコツ』

学生有志と教職員が協力して、障がい学生支援パンフレット『誰でもできる情報保障のコツ～一歩進んだサポートをするために～』を作成しました。

情報保障を利用する聴覚障がい学生と、支援を行う学生たちが授業や活動の中で感じた「配慮されて助かっていること」や「困っていること」について出したエピソードがもとになっています。

聴覚障がいの種類や本学の情報保障の種類、また、具体的な配慮事項についてイラストを入れながら授業の場面別に紹介しています。



## サービス向上を目指して

ノートとパソコンテイクのティカー養成講座を先輩が講師となって実施している。数名の先輩や利用学生も補助者として参加し、後輩のテイクの内容を個別にチェックしたり、助言したりしている。また、先輩が作成したテキストを引き継いで改訂しながら継続的にティカー養成の向上を図っている。これらはすべてボランティアである。今後の課題は、講習会の内容と講師や補助者を育てるプログラムを充実させること、講座運営に携わる学生たちへの相応の待遇を検討することである。

参考資料：札幌学院大学 HP のキャンパスライフ-学生生活ガイドから「障がい学生支援」を選択してください  
<http://www.sgu.ac.jp/campuslife/support/>

問い合わせ先 札幌学院大学 学生支援課学生支援係  
電話 011-386-8111/FAX011-386-8113  
E-mail: shien@ims.sgu.ac.jp

# 宮城教育大学

●支援組織名称 宮城教育大学 しょうがい学生支援室  
http://shienshitu.miyakyo-u.ac.jp/

●スタッフ 教職員12名、学生スタッフ146名

聴覚しょうがい学生	11名	学部生	10名
		院生・その他	1名
肢体不自由学生	3名		
病弱・虚弱学生	3名		
発達しょうがい学生	2名		

設置形態	国立大学法人宮城教育大学
学生数	1630名（学部生1522名、院生108名）
所在地	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地

学内支援組織図	専門部会
支援室	聴覚しょうがい部会
室長 1名 （連携担当副学長）	視覚しょうがい部会
副室長 1名	発達しょうがい部会
室員 7名 （専門部会長、関連委員等）	肢体不自由部会
職員（コーディネーター）	病弱・虚弱部会
問い合わせ先	
MAIL:support@adm.miyakyo-u.ac.jp	
TEL/FAX:022-214-3651	

## ノートテイク・パソコンノートテイク・音声認識通訳

利用人数	11名	支援者数	146名 (NT146名/PC56名)
サービス提供時間数	2629コマ (2014年度) <small>講義関係のみ</small>	報酬および経費	900円/時間 (教育実習等学外活動のみ)
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示、募集用リーフレット配布、学内行事におけるPR映像の放映、新入生への広報（入学時資料に募集リーフレットを同封、入学式の式典前に文字通訳のスクリーンを利用してPR映像を放映）、新入生必修講義における聴覚しょうがい学生・支援学生からのPR活動		
コーディネート方法	コーディネーター3名（教務補佐員）が連絡調整する。聴覚しょうがい学生及び学生ノートテイクの助言・指導を担当する経験の長い学生と連携を図って適切なコーディネートを行っている。		
養成方法	学生運営スタッフを中心に、初心者対象、経験者対象の研修会を毎月2回ほど実施。		
文字通訳の取組の特徴	本学のしょうがい学生支援を、特別支援教育におけるしょうがい児・者支援の実践に必要な不可欠な知識と実行力の養成として位置づけて活動している点。通常の講義の情報保障は学生の手によって全てがボランティアで行われている。		

### 手話通訳

### 聴覚補償

### 字幕挿入

関係者数	利用者数 8名（内教員1名）	利用者数 4名	作業者数 22名
サービス提供時間数	学内行事（入学式・オリエンテーション等）、卒業論文・修士論文発表会等単発の支援のみ	480コマ（2015年度前期） <small>講義関係のみ</small>	2009年度より、講義において使用する映像物への字幕挿入を開始 135本：3085分（2014年度）
報酬および経費	外部派遣機関の規定による	なし	900円/15分映像
方法	<b>募集方法</b> みやぎ通訳派遣センターに依頼。できる限り本学への派遣実績のある通訳者を派遣するよう依頼。	<b>補償方法</b> ①赤外線補聴システム 赤外線ラジエーター《リオン》 ②電波を使った補聴システム パナガイド《Panasonic》 Inspiro《PHONAK》	<b>作成方法</b> 学内の登録作業員に対して、文字おこしの作業を依頼。その後映像物への字幕挿入を行っている
特徴	<b>養成方法</b> 担当教員と一緒に事前検討会及び事後反省会。大学で使用する専門用語の手話DVDを作成し、大学レベルの手話通訳者の養成を行っている。	<b>補償方法の選択</b> 講義室の状況、講義の形態、個々の使用している補聴器の種類などによって補償を行う。集団討論に対応可能なシステムも構築した。	<b>字幕映像への対応</b> 専任の作業スタッフ1名を置き、一定のルールにのっとり字幕映像を作成している。



Check!

多くの先輩・仲間と出会い  
語り合いながら自らを高める4年間

本学は、特別支援教育全領域をカバーできる専門教員が揃っており、その専門的人的資源を最大限に活用するために「しょうがい学生支援室」を設立して、しょうがい学生支援体制の充実化を図っています。また、情報保障のスキルを高める研修会他に、学生が企画・運営を行う練習会や意見交換会があります。講義中、情報保障が困難になった場面を共有し、よりよい情報保障について学び合っています。定期的に、学内広報誌「テイクPad」を発行し、利用学生と支援学生のコラムや他大学の学生との交流など、支援に関する理解促進に大きな力を発揮しています。

学内の学生・教職員の多くが、支援を必要とする学生の存在を念頭におきながら行動できる、そんな魅力が詰まった宮城教育大学です。

# みやぎDSC

(Deaf Support[Students] Center)

形態	任意団体
所在地	〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1丁目 17-1-116 高橋方 FAX 022-233-9571

- 創設 2003年4月1日
- 代表 松崎 文
- URL <http://blogs.yahoo.co.jp/jyohosaposen>

運営スタッフ

16名  
(兼務あり)

代表	1名
事務局	2名
相談事業	6名
普及・啓発事業	3名
養成・研修事業	5名
ネットワーキング事業	4名

## 事業内容・実績

相談事業	教職員及び聴覚障害学生対象の相談及びその保護者、関係者等の総合的な相談を行う。	養成・研修事業	聴覚障害学生・支援者・教職員それぞれの対象者に合わせた養成・研修を行う。
普及・啓発事業	教育機関や地域に向けた聴覚障害学生支援に関わる広報活動及び啓発行事の開催。対象者の幅を広げ、中高生・保護者等広範囲を対象とする。	ネットワーキング事業	聴覚障害学生支援関係の団体との情報交換・課題の共有・ノウハウの提供を行う。

### みやぎDSCの活動 (2014年度)

1. 相談事業
  - ・相談 7件 (中・高等教育機関 4件、本人・保護者 3件)
2. 養成・研修事業
  - ・秋田県難聴児を持つ親の会からの要請でノートテイク養成マニュアルを提供
3. 普及・啓発事業
  - ・みやぎDSCの公式ホームページで活動報告
  - ・インターネットにおいて聴覚障害学生やその関係機関とのコミュニケーション窓口として、みやぎDSC公式Twitterのアカウント開設
4. ネットワーキング事業
  - ・日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)

PEPNet-Japan モデル事例構築事業「情報保障者における主体性の醸成を目指したマネジメント」(平成25・26年度)の主幹機関として取り組み、2年間の集大成として成果物を開発することができました。



### トピックス

今年度もDSCに関りのある利用学生・支援学生OB・OGは、各々の分野で頑張っています。スタッフのNは「手話バンドFREEDOMの“リードボーカルYURI”」としてイベント等で活躍しています。 ♪(\*^o^\*)♪

問い合わせ先：所在地参照

# 群馬大学

- 支援組織名称 大学教育・学生支援機構  
学生支援センター 障害学生支援室
- スタッフ 障害学生サポートルーム職員4名、うち1名はろう者

聴覚障害学生	7名	(内訳) 学部生 7名
視覚障害学生	0名	肢体不自由学生 5名
発達障害学生	非公開	その他 1名

2015年4月1日現在

## ノートテイク・パソコンテイク

提供しているサービス	■ノートテイク■パソコンテイク	
利用人数	5名	学部生 5名 その他
ノートテイク数	登録テイク139名(学生および外部者)	
サービス提供時間数	障害学生が希望するすべての授業(ゼミや就職ガイダンスなどの大学が実施する各種講座も含む)	
報酬および経費	800円/時間(1コマ1,200円)	
募集方法	オリエンテーション等でのチラシ配布、呼びかけ(聴覚障害学生自身の呼びかけも含む)や職員とテイク学生による説明会の実施。地域の文字通訳者等学外にも依頼。HP上で募集。	
コーディネート方法	コーディネーターは障害学生サポートルーム職員が行う。テイクは登録テイクが有償で行う。コーディネートシステムを導入し、登録テイクの配置・調整を行っている。1授業(90分)にテイク2名配置。	
養成方法	講習7.5時間を行う。障害学生サポートルーム職員が講師となりテイク学生の協力のもと実践練習を含めて行う。	
本学ノートテイク・パソコンテイクの特徴	PCテイクはPC連係入力ソフト(IPtalk)による2名連係入力。講義以外の実習等、学外での情報保障も行う。iPhoneなどを利用して、障害の程度や環境に応じた学生のニーズに対応している。	

設置形態	国立大学法人
学生数	約6500人(学部・専攻科・大学院を含む)
所在地	〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地

### 学内支援体制

- ・平成17年6月10日に障害学生への修学支援の基準を統一化して、「群馬大学障害学生修学支援実施要項」を制定し、全学的な取り組みを開始した。
- ・平成22年度から大学教育・学生支援機構の学生支援センターに障害学生支援室を設置して新たにスタートした。
- ・現在は障害学生サポートルーム職員がコーディネートを行い、各学部と連携して支援している。

## 手話通訳

利用人数	3名	学部生 3名 その他
手話通訳者数	15名程度(学外への依頼含む)	
サービス提供時間数	聴覚障害学生が希望するすべての授業(ゼミや就職ガイダンスなどの大学が実施する各種講座も含む)	
報酬および経費	職員は、給与として支給。外部の手話通訳者には、1時間あたり3,000円支給	
募集方法	職員で対応できない場合は、群馬県認定手話通訳者協会と群馬県手話通訳問題研究会に手話通訳者の紹介を依頼。	
コーディネート方法	コーディネーターは障害学生サポートルーム職員が行う。1授業(90分)に2名配置。	
養成方法	職員も含め手話通訳者は通訳終了後、活動報告書を提出してもらい、問題点を把握し、次の改善につなげている。聴覚障害学生を交えた反省会を定期的に行うことで技術向上に努めている。	
本学手話通訳の特徴	職員が手話通訳業務を担う。	

＜その他＞ ネィティブスピーカーによる語学の授業については、留学生への呼びかけや、学外からテイクを広く募集している。

### Check!

ガイダンスや事務手続き等、授業以外の大学生活に関わることにしても情報を保障。全学的な統一基準により、どの学部でも質の高い支援体制が可能。

## 情報保障の充実に向けて

### サービス向上を目指して

学生のテイクは卒業し入れ替わってしまうので、新規のテイクの募集・養成にも力を入れている。その際、学生の協力を得て勧誘・紹介をしてもらうなど、学生同士のつながりも大切にしている。聴覚障害者支援について広く知識と問題意識をもってもらえるよう、情報提供していくことにも心がけている。

### ＜学生の手話スキルの底上げ＞

手話サロン(初級・中級コース)を設け、学生が手話に触れる機会を提供。

### 問い合わせ先

学務部学生支援課  
(電話 027-220-7136 / FAX 027-220-7620)  
障害学生サポートルーム  
(電話 & FAX 027-220-7114)

# 東京大学

●支援組織名称 バリアフリー支援室

●スタッフ 職員7名、専任教員2名

聴覚障害学生		学部生	
		院生	
視覚障害学生			
肢体障害学生			

※学生在籍数の詳細については非公表とさせていただきます。

## ノートテイク・パソコンテイク

提供しているサービス	☑ノートテイク☑パソコンテイク		
利用者数	若干名	学部生	
		院生	
サポートスタッフ数	70名		
報酬および経費	925円/時間（支援室運営経費）		
募集方法	掲示板への募集ポスター掲示、学部専用HPでの講座開催案内、新入生ガイダンスでの支援室紹介 など		
コーディネート方法	学期開始時に学生、所属学部等担当者との面談を行い、ニーズを確認したうえで授業ごとのサポート内容を検討・調整する。授業開始後も随時サポート内容の確認・再調整を行う。		
養成方法	学生のニーズにあわせて、ノートテイク講座・パソコンテイク講座（各90分）を実施。個別講座やフォローアップ研修、必要に応じて追加講座も随時行う。		
本学ノートテイク・パソコンテイクの特徴	学生の履修科目への派遣だけでなく、学内で行われる研究会や各種研修等の場にも、教員・研究員からの依頼を受けて学生テイカーを派遣する場合がある。		

## 意見交換会・交流会の開催

東京大学バリアフリー推進のための学生ネットワーク「B.F.mate」を中心に、障害のある学生とサポートスタッフによる全学のバリアフリーについての意見交換がなされている。

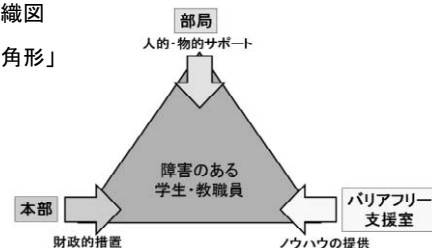
また、バリアフリー支援室（本郷支所・駒場支所）では月2回、学生・教職員を対象に、手話に気軽に親しんでもらうことを目的とした「手話でしゃべらんち」を開催。学内で働く聴覚障害職員や手話サークルに所属する学生も複数参加し、手話によるミニ講演や質問コーナーなどを通じて交流を深めている。



設置形態	国立大学
学生数	約 28,000 人
所在地	〒113-8654 文京区本郷 7-3-1

### 学内支援組織図

「支援の三角形」



## その他の支援

機器の貸出・補聴相談への対応	補聴援助システムなどの支援機器の貸出を行っている。補聴相談については、学生からの要望を受け、学内外の補聴相談専門家を紹介する体制をとっている。
字幕挿入	映像教材の音声を手書き起こし、字幕として映像に挿入するサービスを行っている。
シンポジウム等での情報保障支援	学内で開催される学会・シンポジウム等での情報保障全般について、コーディネーターが相談に応じている。主催者（学内関係者）から依頼や相談があった場合は、内容を確認したうえで、適任の情報保障者（学生を含む）を紹介する他、情報保障依頼にあたっての具体的な対応についても、アドバイスをを行う。
入学式・卒業式での情報保障	聴覚障害学生の有無にかかわらず、手話通訳と、PC文字通訳を実施。

Check!

学部等との連携体制「支援の三角形」  
学部等と支援室の連携によるきめ細かい支援

### バリアフリーの東京大学を目指して

東京大学では、東京大学憲章において、バリアフリーの人的・物的支援の整備を行うことを責務としている。また、多様な人々が共に活動する社会こそが、本来の豊かで活力ある社会なのだという認識のもと、障害の有無を含めた様々な属性の人々がどうキャンパス空間の構築を目指している。

#### 参考資料

バリアフリー支援室ホームページ

<http://ds.adm.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学バリアフリー推進のための学生ネットワーク

「B.F.mate」

<http://www40.atpages.jp/todaibARRIERfree/index.html>

#### 問い合わせ先

E-mail : [spds-staff@dso.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:spds-staff@dso.adm.u-tokyo.ac.jp)

# 早稲田大学

## ●支援組織名称 障がい学生支援室

<http://www.waseda.jp/student/shienshitsu/index.html>

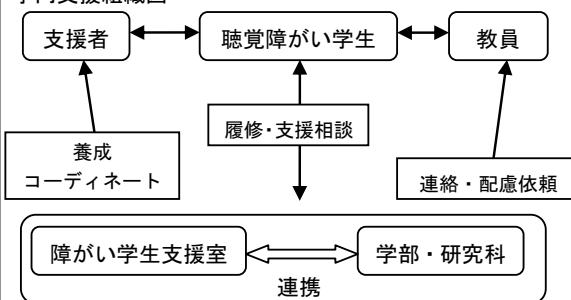
## ●スタッフ 職員 8 名（発達障がい学生担当 4 名含）

（上記のうち、言語聴覚士有資格者 1 名 臨床心理士 3 名）

聴覚障害学生	16 名	学部生	14 名
		院生	2 名
視覚障害学生	5 名（うち、聴覚障がいとの重複 1 名）		
肢体障害学生	18 名		

設置形態	私立大学
学生数	約 52,000 人（2015 年度）
所在地	〒169-8050 東京都新宿区戸塚町 1-104

### 学内支援組織図



## ノートテイク・パソコン通訳

提供しているサービス	<input type="checkbox"/> ノートテイク（NT） <input type="checkbox"/> パソコン通訳（PC）※遠隔含む <input type="checkbox"/> 記録（1 名での筆記） <input type="checkbox"/> 教員への配慮依頼文書配付		
利用者数	9 名	学部生	9 名
		院生	0 名
ノートテイク数	265 名（2015 年 8 月現在登録者）		
サービス提供時間数	PC、記録＝週 102 コマ（2015 年度前期） その他、入学式、卒業式、大学主催行事での情報保障を実施		
報酬および経費	1200 円/1 コマ		
募集方法	■学内ポータルサイト、掲示板での告知／■利用学生の所属学部・研究科の学生へのメール告知／■支援室の web サイト等での告知／■支援室が関係する授業での告知		
コーディネート方法	聴覚障がい学生の申請に基づき、障がい学生支援室に登録している支援者を支援室がコーディネート		
養成方法	支援室職員が講師となり、NT、PC の講座を、前後期開始時に行う他、学生の希望に合わせて随時実施		
本学ノートテイク・パソコン通訳の特徴	利用学生の受講スタイルや授業形態に応じて、方法を柔軟に調整（PC 通訳の表示機をタブレットにする、1 名での支援（記録）にする、など）		

## 手話通訳

利用者数	3 名	学部生	2 名
		院生	1 名
手話通訳者数	22 名（手話通訳士（学外））		
サービス提供時間数	週 5 コマ（2015 年度前期）		
報酬および経費	4500 円/1 コマ（手話通訳士（学外））（学生は NT・PC と同額）		
募集方法	支援室職員の人脈による支援者登録依頼あるいは登録通訳者の紹介		
コーディネート方法	聴覚障がい学生の申請に基づき、障がい学生支援室に登録している手話通訳者に依頼		
本学手話通訳の特徴	支援時は、手話通訳者 2 名の他、記録者（ノート作成補助）1 名を派遣		

## 文字起こし・字幕挿入

サービス提供時間数	オンデマンド 70 コンテンツ（2015 年度前期）
報酬および経費	媒体の長さ・内容による
支援方法	学内の授業システム（あるいは字幕挿入システム）にコンテンツをアップロードし、支援学生が作業を行う

**Check!** 学内各組織の連携と、多様な情報保障手段の提供による質の高い支援

## すべての学生が「同じ」環境で学ぶために

- 個々の学生に応じた支援  
面談や窓口での普段のやり取りを通じて、聴覚障がい学生のニーズ把握に努め、学生の状況に応じて修学環境を整えている。
- 利用学生が他の学生とともに学べる環境作り  
支援が周囲の学生との間の「壁」にならないよう、利用学生と離れてパソコン通訳をする方法を導入したり、「教員ガイド」の配布、全学オープン科目「障がいの理解と支援」の運営、SNS による情報発信などの、教職員、学生に向けた啓発の取り組みを行ったりしている。
- 利用学生の主体性、支援学生の意欲を引き出す  
学生と意見交換をしたり、学生が企画を行う機会を設けたりすることで、学生が支援について主体的に考えるように促している。また、希望者の都合に合わせて随時ノートテイクなどの講座開催、個別指導を行い、意欲のある学生が支援に携われるように工夫している。

### サービス向上を目指して

支援学生の専門性が課題となっており、特定の学部・研究科事務所と連携して募集するなどの取り組みを行っている。また、字幕挿入システムなどの新しい技術の導入にも取り組んでいる。

### 参考資料

障がい学生支援室パンフレット  
 障がい学生支援室 Twitter アカウント: @wasedau\_dsso  
 障がい学生支援室 Facebook ページ:  
<http://www.facebook.com/WasedaU.DSSO>

### 問い合わせ先

障がい学生支援室 TEL: 03-5286-3747  
 mail: shienshitsu@list.waseda.jp

# 日本社会事業大学

●支援組織名称 聴覚障害学生支援プロジェクト室  
http://deafhohproject.com/

●スタッフ 教員1名、その他6名、支援学生90名

聴覚障害学生	14名（内訳）学部生9名、通信2名、院生3名
視覚障害学生	2名
肢体障害学生	6名

設置形態	私立大学
学生数	2,750名前後（学部生807名・大学院生141名、通信教育課1798名）人
所在地	〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30 http://www.jcsw.ac.jp/

## 学内支援組織図

2009年10月「聴覚障害者大学教育支援プロジェクト」の立ち上げに伴い、学内の聴覚障害学生支援に関する拠点として「聴覚障害学生支援プロジェクト室」が設置された。

現在、聴覚障害学生支援プロジェクト室は社会事業研究所に属し、聴覚障害学生に必要な支援を提供するとともに、教務課・学生支援課・通信教育室・入試広報課等が支援を行う際のアドバイス・リソースを提供している。

## ノートテイク・パソコンテイク

提供しているサービス	ノートテイク、パソコンテイク、メモテイク、遠隔通訳、文字起こしなど、要望に応じて対応		
利用者数	14名	学部生	9名
		通信	2名
		院生	3名
ノートテイク数	65名（NT50名/PC23名）		
サービス提供時間数	67コマ（手話通訳との併用等を含む）		
報酬および経費	910円/時間		
募集方法	聴覚障害学生支援プロジェクト室が全学的に募集。支援者の友人や口コミでも多くの学生が登録。また、ホームページ上で募集を掲示し、学生に限らず、学外からも広く支援者を募集している。		
コーディネート方法	聴覚障害者大学教育支援プロジェクト室のコーディネーターが行っている。		
養成方法	支援者として活動を希望する人を対象に研修を実施。状況に応じ、スキルアップのための研修も実施する。小さな練習会を数多く開催している。		
本学ノートテイク・パソコンテイクの特徴	学生が自主的な練習会を多く開催している。また自主練習がいつでもできるようにTraining Labを設置しており、オンラインでも練習できるようにシステムを構築中である。		

## 手話通訳

利用者数	14名	学部生	9名
		通信	2名
		院生	3名
手話通訳者数	50名（登録制）		
サービス提供時間数	33コマ（ノートテイク、パソコンテイクとの併用を含む）		
報酬および経費	3000～5000円/時間		
募集方法	有資格者を中心に登録いただいている。通訳者同士のネットワークを活用して大学での活動に興味のある方に登録をお願いしている。		
コーディネート方法	聴覚障害学生支援プロジェクト室が選定し、依頼している。派遣会社・社団法人等も利用している。		
養成方法	情報保障という科目を設置し、その他教職課程の科目のアクティブラーニングとして教育の中に入れている。聴覚障害学生支援プロジェクト室スタッフが通訳の様子を見て、通訳者と聴覚障害学生のニーズの調整や要望を行うときもあり。		
本学手話通訳の特徴	日本手話、対応手話やその他個別のニーズに対応できるように、バラエティに富んだ多くの通訳者に登録をいただいている。		

## Check!

聴覚障害学生を「同じスタートライン」に立たせる支援

## 聴覚障害者大学教育支援プロジェクト

「ろう・難聴者の高等教育の機会の拡充」を目標に、日本財団の助成により2009年10月にスタートしたプロジェクト。現在は3つのプログラムを行っている。

1. 学内学生支援（聴覚障害学生支援プロジェクト室）
2. 手話による教養大学

聞こえない学生にも、教員との直接対話を通じた深い学び機会を作りたいと設置された科目群。授業は、ろう者の教員・講師によって日本手話を用いて行われる。一般教養科目から、ろう・難聴者に関係の深いものまで幅広い科目が設置されており、取得した単位は卒業単位の一部にできる。

3. ろう・難聴高校生の学習塾

ろう・難聴の高校生を対象に大学進学を支援する。ろう・難聴者の講師が手話で教えるクラスと、手話通訳・パソコンテイクがついた主に聴者が担当するクラスがあり、自分のコミュニケーション方法、学力に合ったクラスでの受講が可能である。

### 同じスタートラインをめざして

同じスタートラインに立ちたい。  
そして、そこからは自分の足で歩いていきたい。  
そんな聞こえない学生を  
わたしたちは入試から卒業までサポートします。

### 問い合わせ先

日本社会事業大学 聴覚障害学生支援プロジェクト室  
URL http://deafhohproject.com  
FAX 042-496-3064  
E-mail projectd@jcsw.ac.jp



# 関東聴覚障害学生 サポートセンター

- 創設 1984年（創設当初は関東学生情報保障者派遣委員会）
- URL <http://kantou-saposen.main.jp/>

形態	任意団体
所在地	事務所を持たず、大学での支援コーディネートや通訳活動、コンサルテーションのノウハウを持ったスタッフのネットワークによって運営。
運営スタッフ	13名

## 活動内容

### 聴覚障害学生支援体制構築についてのコンサルテーション

初めて聴覚障害学生を受け入れる大学や、支援の質的向上を目指す大学を対象に、支援制度の構築・拡充のためのコンサルテーションを行い、中長期的な関わりを通して、各大学で基本的なコーディネート、支援ノウハウの蓄積、自前での研修会の実施等が可能となるようサポートしています。

#### コンサルテーション・企画の一例

- ・現状の課題や今後の展望等についてのヒアリング
- ・支援制度充実にむけた具体的な取り組み案の提案
- ・支援に関する情報提供
- ・各種研修会の企画・実施
- ・講師斡旋
- ・支援担当教職員に対するフォロー・相談対応
- ・聴覚障害学生・支援学生からの相談対応、ニーズ聞き取りのサポート
- ・支援者のスキル評価
- ・授業観察
- ・支援制度の振り返り・検証 など



複数のキャンパスの学生が参加する2日連続のノートテイクとパソコンテイク講座を開催

3コマで1セットとなる初任者講座を27コマ開催。



2015年度は、前年度から継続している大学、新たに取り組み始めた大学院、専門機関のワークショップ等に対応しています。

相談	支援者養成	通訳者の斡旋・研修	普及・啓発	ネットワーキング
聴覚障害学生や特別支援学校、社会人、保護者等からの相談も受けています。聴覚障害学生からの相談に対しては、在学中に支援サービスを利用した経験のあるろう者スタッフが対応することで、心理面のサポートにも努めています。	ノートテイク・パソコンテイクの養成研修会の企画や講師の派遣をしています。事前打ち合わせ、カリキュラム構成の助言、養成後のフォローアップも含めてサポートし、大学独自で養成が担える体制づくりの支援をしています	手話通訳者、パソコン通訳者等の斡旋を行っています。また、地域資源の活用などについてもアドバイスを行っています。地域の通訳者団体向けに、大学の情報保障をテーマとした通訳者対象の研修依頼も引き受けています。	「聴覚障害者と高等教育」フォーラムの開催や関連誌への寄稿等を通して、聴覚障害学生支援の必要性や、現状・課題を発信してきました。近年では、企業からの聴覚障害に関する啓発研修や、大学教職員向けのFD研修の依頼も増えてきています。	学生当事者団体や地域の要約筆記・手話通訳グループ、通訳派遣機関等との連携や情報交換を行っています。PEPNet-Japanの連携機関でもあり、各事業に多くのスタッフが参画しています。

## 聴覚障害学生・支援学生・支援担当者に寄り添い、 長期的な視野で、支援体制づくりのお手伝いを。

聴覚障害学生支援が全国的に整いつつあります。しかし、聴覚障害学生・支援学生が、聞こえない先輩や経験者に安心して相談できる、細かな指導・研修を受けられる体制はまだ十分には整っていません。また、支援担当者が気軽にアドバイスを受けて情報交換ができる機会もまだまだ少ないのが現状です。

サポートセンターでは、ひとつひとつの大学が、長く安定した支援を提供できる体制を築けるよう、その大学に合った方策を提案し、制度構築のお手伝いするとともに、聴覚障害学生・支援学生・大学担当者など関係者全員が安心して相談できる機関として活動していきます。お気軽にご相談ください。

#### 参考資料

- ・吉川あゆみ・太田晴康・広田典子・白澤麻弓（2001）「大学ノートテイク入門」人間社
- ・白澤麻弓・徳田克己（2002）「聴覚障害学生サポートガイドブック」日本医療企画
- ・吉川あゆみ・岡田孝和（2007）「大学ノートテイク支援ハンドブック」人間社

#### 問い合わせ先

HPのContactページよりお問い合わせください。

# 静岡福祉大学

● 支援組織名称 静岡福祉大学学生総合支援センター内  
障害学生支援室

● スタッフ 教員 4 名、職員 2 名

聴覚障害学生	(注)	学部生	(注)
		院生	
視覚障害学生	(注)		
肢体障害学生	(注)		

注：個々の障害形態と学生数についてはプライバシー保護のため原則として公表していません。

設置形態 私立大学

学生数 767 人 (2015 年 8 月 1 日現在)

所在地 〒425-8611  
静岡県焼津市本中根 549 番 1

学内支援組織図 学生総合支援センター内  
障害学生支援室(各学科教員及び職員より構成)

## ノートテイク(手書き)・パソコンノートテイク

提供しているサービス	◎ノートテイク(手書き) ◎ポイントテイク(手書き)※ ◎パソコンノートテイク		
利用者数	(注)	学部生	(注)
		院生	
ノートテイク数	26 名 (NT 19 名/PC 7 名)		
サービス提供時間数	週 19 コマ		
報酬および経費	800~1,000 円/時間 (+交通実費)		
募集方法	学内外の掲示板、HP にノートテイク 一募集案内を掲示。		
コーディネート方法	学生教務課職員が連絡調整を担当 し、障害学生支援室が協力。		
養成方法	「障害支援技術論」(半期 2 単位)を 開講するほか、本学教員主宰のノー トテイク勉強会を開催。		
本学ノートテイク・パ ソコンノートテイクの 特徴	・本学教員が監修した専用ソフト「ま あちゃん」を活用。 ・聴覚障害学生にとどまらず視覚障 害、肢体不自由、発達障害学生等も 利用する。		

## 手話通訳

利用者数	(注)	学部生	(注)
		院生	
手話通訳者数	地域の公的派遣制度(公費派遣と本学 費用負担派遣を併用)を活用すること もある。		
サービス提供時間数	必要時		
報酬および経費	(公的派遣基準)		
募集方法	公的派遣機関に依頼		
コーディネート方法	学生本人、学生課職員、障害学生支援 室長が公的派遣機関に依頼。		
養成方法	(手話通訳の養成はしていない)		
本学手話通訳の特徴	専門用語が頻出する。		

※ポイントテイクとは、聴覚障害以外の障害学生を対象に、  
板書の筆写、重点項目の筆記等、授業で伝達される情報の  
うち、ポイントに絞ったノート記録を指す。

### Check!

障害学生支援室では、「障害のあるなしにかかわらず、ともに社会参加できる」教育環境を実現するための  
役割を担います。そうした環境を通じて私たちは、学生が本校を卒業したとき自らに必要な支援とは何か、  
第三者に説明し、主体的に最適な環境を作り上げていくことができるような方向を目指します。当事者によ  
るセルフマネジメントの力をつけること、それは本学が掲げる「福祉力」の向上にもつながります。

## 文部科学省科学研究費補助金を 活用した支援の構築を計画

文部科学省科学研究費(基盤研究 B)を活用し、2009 年度から  
2013 年度の 5 か年を通じ、「高等教育機関における障害学生『情  
報コミュニケーション』支援システムの構築」(研究代表者：太  
田教授)を研究課題として実施中である。支援方法であるノー  
トテイクを聴覚障害にとどまらず、視覚障害、肢体不自由、発達障  
害を含む障害学生の情報バリアフリーシステムとして位置づけ、  
障害種別を超えた総合的な支援を模索している。

サービス向上を目指して：障害学生支援の課題の一  
つは、支援費用の持続的な確保にあります。そこで本学で  
は私立大学等経常費補助金の活用はもちろんのこと、県共  
同募金会への申請等、さまざまな知恵を絞っていますが、  
基本的な考え方として公的な保障が欠かせないと考えて  
います。障害のあるなしにかかわらず学習権を保障する方  
向を誰もが当然のこととして認める社会の到来を心から  
願っています。

参考資料 <http://www.suw.ac.jp/>

問い合わせ先：静岡福祉大学 事務部入試広報室  
TEL054-623-7451 FAX054-623-7453  
E-mail [siryo@suw.ac.jp](mailto:siryo@suw.ac.jp)

# 愛知教育大学

- 支援組織名称 障害学生支援ワーキンググループ (WG)  
情報保障支援学生団体「てくてく」・教務課
- スタッフ WG 教員 5 名・「てくてく」スタッフ、教務課職員

聴覚障害学生	6 名	学部生	6 名
		院生	0 名
視覚障害学生	0 名		
肢体障害学生	1 名		

設置形態	国立大学法人
学生数	4217 名 (学部 3882・大学院・301・専攻科 34)
所在地	〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1 (名鉄本線「知立駅」より名鉄バス 20 分)

学内支援組織図	聴覚障害学生 ↓ ↑ 支援学生団体「てくてく」・障害学生支援 WG 教員・教務課 ↓ ↑ 情報保障者、事務職員 (学生支援部一教務課・学生支援課、 キャリア支援課・入試課、財務部一施設課)
---------	---

## パソコンテイク・ノートテイク

提供しているサービス	パソコンテイク・ノートテイク		
利用人数	6 名	学部生	6 名
		院生	0 名
ノートテイク数	110 名 (講義担当 50 名、約 10 名が DVD・ビデオ等の字幕付けの担当)		
サービス提供時間数	週 39 コマ (すべて PC テイク)		
報酬および経費	2460 円 / 1 コマ (90 分) (支援学生 1 名につき 1230 円支給。 各講義 2 名配置。)		
募集方法	(PC) 新年度のガイダンス等で、全学的に有志の学生を募集している。 (NT) 専門性を必要とする英語・第二外国語・数学・理科等の講義は、関係する講義の教員に専門性の高い学生を推薦・紹介してもらっている。		
コーディネート方法	学生コーディネーターが、聴覚障害学生のニーズを把握し、各種配置、コーディネート業務を行っている。		
養成方法	週 2 日 (月・木)・昼休みを利用して、連絡および研修する場を設けており、年数回、休日に練習会を開催している。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	携帯連絡システムによる情報交換・中間・事後報告会等の実施を重ねながら、量的・質的向上を図っている。		

## その他の支援

学外手話通訳者の派遣	授業の形態によって、週 1～2 コマ程度、学外手話通訳者の派遣を依頼している。(パソコンテイク・ノートテイクとの併用も可能。10000 円 / 1 コマ (90 分)、通訳者 1 名につき 5000 円支給。2 名配置。)
視聴覚教材の字幕作成	講義で視聴覚教材を使用する場合は、事前にメディアを借り、字幕付けの作業を行っている。
遠隔情報保障システムを用いた支援	遠隔情報保障システムを利用して、自宅など離れた場所からでも連携練習や支援に参加している。
式典、各種説明会での情報保障	式典や、大学が主催する講義以外の各種行事 (教務ガイダンス、オープンキャンパスなど) で、主にパソコンノートテイク・手話通訳による情報保障を行っている。
無線 LAN を用いた離れた場所での情報保障	講義中、支援学生が聴覚障害学生の隣にすることは、聴覚障害学生にとって心理的な負担となる。そのため、基本的に、教室内の離れた場所で、入力支援を行っている。

Check! 学生のノートテイク・パソコンノートテイク、学外手話通訳者による情報保障

## 聴覚障害学生の充実した学生生活の支援

- (1) 情報保障学生団体「てくてく」の活動 全学的に約 100 名の学生が支援活動に係わり、聴覚障害学生とともに学内の支援に関して情報交換・研修を行っている。
- (2) 他大学の支援活動 東海地区の大学より要請があれば研修会を開催し、本学の支援活動のノウハウを紹介している。
- (3) 様々な聴覚障害学生の支援
  - 1) 講義の情報保障 ノートテイク、パソコンテイク、手話通訳による支援が、聴覚障害学生のニーズに応じて実施されている。
  - 2) 講義以外の情報保障 入学式・卒業式などの各種行事、各種実習、ガイダンス時の情報保障も実施している。
  - 3) 教育実習での配慮 聴覚障害学生の小学校教育実習は、附属小学校又は通常小学校での実習を、県内聾学校の小学部実習に振り替えることができる。

### サービス向上を目指して

- ・聴覚障害学生は、特別支援学校教員養成課程に在籍しているため、同課程内の聴者の学生の各種支援に関する問題意識が高いこと等、恵まれた環境にある。
  - ・情報保障者が担当できる時間帯などに制約があり、一部の学生に作業が集中するといったことが生じている。
- 課題を整理し、よりよいサービスを目指していきたい。

参考資料 「愛知教育大学 障害学生支援ガイド」  
「愛知教育大学 聴覚障害学生の情報保障 教員用ガイドブック」  
「愛知教育大学 保障団体『てくてく』 リーフレット」

問い合わせ先 注) ①情報教育講座、②障害児教育講座  
① 高橋 岳之 e-mail: take@aecc.aichi-edu.ac.jp  
② 岩田 吉生 e-mail: yiwata@aecc.aichi-edu.ac.jp

# 日本福祉大学

● 支援組織名称 日本福祉大学学生支援センター  
URL <http://www.n.fukushi.ac.jp/shiencenter/index.htm>

● スタッフ センター長 1 名 学園職員 1 名、委託職員 2 名  
学生支援コーディネーター 3 名（スタッフは障害学生支援領域）

聴覚障害	30 名（通学課程学部生）
視覚障害	13 名（通学課程学部生）
肢体障害	36 名（通学課程学部生）
発達障害	10 名（通学課程学部生）
内部疾患・その他	37 名（通学課程学部生）

設置形態	私立大学
学生数	5,047 人（院生、通信を含むと 11,819 人）
所在地	〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田

## 学内支援組織図

学生支援センターは学生部の一機関

学生支援センター運営委員会（各学部の教員、教務・就職関係職員、学生課職員で構成）

## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	■ノートテイク■パソコンテイク	
利用者数	22 名	学部生 22 名 院生 0 名
ノートテイク数	ノートテイク 88 名 パソコンテイク 20 名	
サービス提供時間数	106 コマ／週（2015 年前期）	
報酬および経費	ボランティア（奨励金支給）	
募集方法	入学当初のオリエンテーションやゼミ等で聴覚障害学生が呼びかけ。各自が掲示板に募集ポスターを掲示。障害学生支援センターのボランティア登録者へ依頼。	
コーディネート方法	聴覚障害学生自身が直接依頼するか、障害学生支援センターからボランティア登録者へ依頼する。	
養成方法	ノートテイク相談会、ボランティア講座（学生主催）、サークルによる練習など。ホームページで養成講座オンデマンドコンテンツ公開。	
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	複数の聴覚障害学生が受講している場合は、OHC を利用。設置は障害学生支援センターで実施。経験ある学生と障害学生が学生スタッフとして、運営・指導に協力。	

## ともに考える支援

障害学生支援センターの設置	学習支援や生活支援の方法は、障害学生・支援学生・教職員が一緒に考えます。障害学生の生活から、ボランティア活動支援まで、障害学生支援センターがさまざまな相談に応じています。
入学式での手話通訳者設置	入学式、卒業式、全学的な講演会、受講ガイダンスなどで設置
字幕づけ	講義に利用する VTR について、学生サークル「くまじ」が字幕付けソフトを利用して字幕を付けている。
テープ起こし	字幕が間に合わない場合には、ボランティア登録学生が分担して、音声文字化し、プリントアウトして障害学生に渡す。
ライブラリー化	字幕付け・テープ起こしをしたことがある映像教材の一覧を作成し、教員控室に配置。字幕付け 147 タイトル、テープ起こし 280 タイトル。
手話通訳派遣事業	2～4 年生の希望者のゼミへ、年 15 回まで派遣。

## 支援サークルの活動

### 学生が「ともに学び、ともに育つ」

- ・点訳サークル「にゅーてんてん」…講義資料等の点訳
  - ・字幕づけ「くまじ」…教材 VTR の字幕づけ
  - ・パソコンテイク「PCT」…パソコンテイク
  - ・学生スタッフ…ノートテイク初心者への指導、機材のセッティング、ボランティア講座への協力、ボランティア団体の連携支援
- ※聴覚障害、視覚障害、肢体障害のそれぞれにサークルがあり、ピアサポート活動などで学生支援センターの事業に協力しています。

### 参考資料

障害等のある学生のためのキャンパスガイド、障害学生支援センター年報 13 号

### 問い合わせ先

日本福祉大学学生支援センター  
TEL: 0569-87-2432 FAX: 0569-87-2376  
Email: support-c@ml.n-fukushi.ac.jp

# 金沢大学 大学教育開発・支援センター

●支援組織名称 大学教育開発・支援センター  
http://www.rche-kanazawa-u.jp/

●スタッフ 専任教員 5 名（特任助教 6 名、専任職員 0 名）

聴覚障害学生	4 名	学部生	4 名
		院生	0 名
視覚障害学生	1 名		
肢体障害学生	1 名		

設置形態	国立大学法人
学生数	10,272 名（平成 27 年 5 月 1 日現在）
所在地	〒920-1192 石川県金沢市角間町

## 障害学生支援委員会

教育担当副学長（委員長）

大学教育開発・支援センター長

保健管理センター長

学生部担当課長、他

## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコンノートテイク		
利用者数	2 名	学部生	2 名
		院生	0 名
ノートテイク数	22 名		
サービス提供時間数			
報酬および経費	950 円／1 時間（学生部予算）		
募集方法	全学生へポータルにてメール送信及びポスターを掲示し募集。		
コーディネート方法	主として学生支援課学生相談係が、一部の専門科目に関しては聴覚障害学生の所属している学類学務係が担当。		
養成方法	学内外の講師によるノートテイク・パソコンテイク養成講座を年 2 回（前期・後期）開催。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	特記する事項はない。 支援実績が少ないため、スキル向上を目指している。		

## その他の支援

入学式での手話通訳者設置	学外組織に依頼
磁気ループの敷設	
字幕デコーダーの設置	
野外実習補助	専門科目については、所属する学類で当該科目をすでに修得している学生をチューターとして配置。

**Check!** 多様な障害に対する、研究に基づく有効な支援方を学内外に提言

## トピック

「手話カフェ」と「聴覚障がい学生と卒業生の集い」の開催  
文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」の取組として上記の企画を行っている。「手話カフェ」はキャンパスに手話を普及させるため、学校教育学類の特別支援教育担当教員と連携し、月 2 回、昼休みに開催している。手話に関心のある県内の学生、教職員、聾の市民が集まり、手話の学習を通して交流を深めている。  
「聴覚障がい学生と卒業生の集い」は聴覚障害学生のネットワーク作りのため、2013 年度より年 1 回開催している。2015 年度は聴覚障がい学生 7 名、卒業生 3 名、聾学校より生徒 1 名、教職員 6 名が参加し、活発な情報交換を行った。

### サービス向上を目指して

文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」の取組として、2015 年度は「ノートテイク講習会」、「障がい学生支援セミナー」を開催した。「ノートテイク講習会」には、金沢大学の学生ノートテイク、教職員の他、県内他大学からも教職員の参加を得てノートテイクのスキル向上を目指した。「障がい学生支援セミナー」では聴覚障害学生を支援する学生の組織化をテーマとし、県内各大学の教職員が研鑽を積んだ

### 問い合わせ先

教育支援システム研究部門 担当：杉森 公一  
ksugimori@staff.kanazawa-u.ac.jp

# 同志社大学

設置形態	私立大学
学生数	29,166 人 (2015 年 5 月 1 日現在、大学院生含む)
所在地	【京田辺校地】 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3 【今出川校地】 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

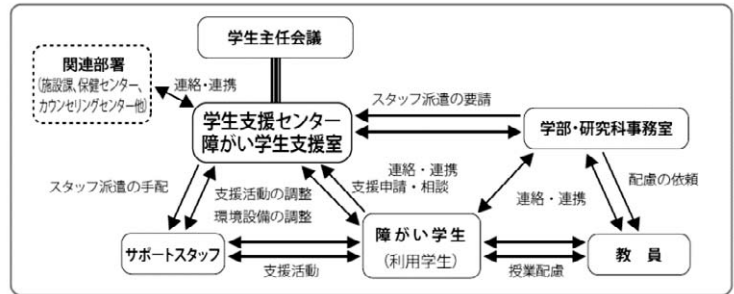
●支援組織名称 障がい学生支援室（事務局：京田辺校地学生支援課）  
URL <http://challenged.doshisha.ac.jp/>

●スタッフ 職員 11 名（うち手話通訳者 1 名）

聴覚障がい学生	39 名
視覚障がい学生	13 名
肢体障がい学生	37 名
内部障がい学生	6 名

※その他 重複障がい他学生 4 名  
※発達障がい学生は含まれていません

## 学内支援組織図



## ノートテイク・パソコン通訳

提供しているサービス	ノートテイク（NT）、パソコン通訳（PC）		
利用者数（聴覚）	制度登録 7 名	学部生 6 名 院生 1 名	
ノートテイク数 パソコン通訳者数	2015 春スタッフ登録 251 名（5 月現在） 2015 春活動者 156 名		
サービス提供時間数	2015 春学期：週 48 コマ （内、NT2 コマ/NT+PC3 コマ/PC43 コマ）		
報酬および経費	900～1,350 円／時間（大学経費）2015 年 10 月～		
募集方法	入学時説明会・掲示板・立看板・HP・案内パンフレット・学生支援課企画の映画や大型ビジョンによる募集		
コーディネート方法	障がい学生支援室のコーディネーターが障がい学生の相談窓口となり支援スタッフの募集・養成・派遣・相談等調整を担当。障がい学生在籍学部事務室を始め全学的に入学前から連携をとり対応。		
養成方法	前期、後期にノートテイク・パソコン通訳事前勉強会・入門講座を継続的に開催。その他、随時希望があれば対応。		
本学ノートテイク・パソコン通訳の特徴	学期前面談により、利用学生のニーズに合わせた講義保障を提供。学期末に懇談会の実施。複合領域科目として夏期集中講義『「コミュニケーションのバリアフリー」を考える』を開講（単位付与）。		

## ビデオ文字起こし・字幕付け

利用者数（聴覚）	制度登録 7 名	学部生 6 名 院生 1 名
字幕付け数	7 本（2015 年春学期実績）	
報酬および経費	900／時間（大学経費）2015 年 10 月～	
募集方法	入学時説明会・掲示板・立看板・HP・学生支援課企画の映画や大型ビジョンによる募集	
コーディネート方法	障がい学生支援コーディネーターが窓口となり、利用学生および担当教員の依頼に応じて対応。字幕付け専用ソフト・PC 有。	
養成方法	勉強会を適宜実施。	

## 手話通訳

手話通訳についても対応。入学式・卒業式・クリスマス燭火讃美礼拝は、聴覚に障がいのある学生・ご父母のため、手話通訳を必ず実施。

Check!

全学的な組織による講義保障！  
（学生同士の関わりの中で育む制度）

## コミュニケーション・デバイトの克服

障がい学生のみではなく、支援スタッフにも着目し、学生同士の関わりの中で自然に手をさしのべられるような大学を目指す。

具体的な場の設定・・・2015 年度

・ランチタイム手話

聴覚障がい学生を囲みランチをとりながら手話でおしゃべり

・Challenged キャンプ（2 泊 3 日 和歌山県 休暇村 南紀勝浦）・・・2015 年度

音が無い・光が無い・身体が自由がきかないという世界を共に体験し、物へのバリア、心のバリアについて本音で語りあうキャンプ

・「コミュニケーションのバリアフリー」を考えるー共に生きる社会をめざしてー（複合領域科目）

障がい者を取り巻く状況・実情を踏まえつつ、「コミュニケーション」「バリアフリー」をキーワードとして、展開される他大学にも開かれた夏期集中講義。

## サービス向上を目指して

約 29,000 人の学生が在学している中で、障がい学生支援スタッフは 1%に満たない状況である。合格者の第一次手続き者への郵送物に「障がい学生支援制度—案内パンフレット—」を封入し、教職員に「障がい学生支援制度—教職員のためのガイド—」を配布しているが、さらに身近な取り組みとしてサポートを行えるよう、啓発していかなければならない。また、障がい学生のキャリア形成・就職支援についてもキャリアセンターと共に取り組んでいる。

### 参考資料

障がい学生支援制度—案内パンフレット—

### 問い合わせ先

学生支援センター 京田辺校地学生支援課 障がい学生支援室  
tel 0774-65-7411 fax 0774-65-7024  
E-mail: [it-care@mail.doshisha.ac.jp](mailto:it-care@mail.doshisha.ac.jp)

# 立命館大学

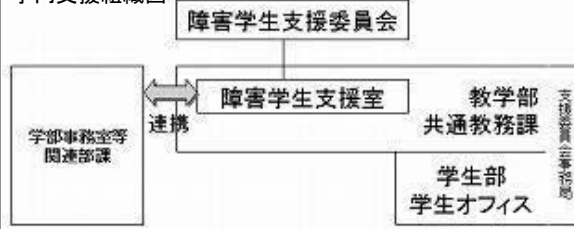
●支援組織名称 立命館大学障害学生支援室

●スタッフ 専門契約職員 2 名、学生サポートスタッフ 67 名

聴覚障害学生	3 名	学部生	3 名
		院生	0 名

設置形態	私立大学
学生数	35,205 名（大学院生含む）
所在地 (法人本部)	〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀 1

学内支援組織図



## ノートテイク・パソコンテイク

提供しているサービス	ノートテイク、パソコンテイク、FMマイク使用、文字起こし等		
利用者数	1 名	学部生	1 名
		院生	0 名
ノートテイク数	58 名（登録スタッフ数）		
サービス提供時間数	1 人つき週 1～11 コマ		
報酬および経費	840 円/1 時間（1 コマあたり 2 時間）		
募集方法	登録説明会を開催し、希望者をスタッフとして登録。専門性の高い授業の場合は学部事務室・教員を通して募集。その他、web 掲示、ポスター掲示等で募集している。		
コーディネート・養成方法	障害学生支援室にてパソコンテイク講習を実施。学部・語学など属性に合わせてコーディネート。その際、学生コーディネーターが活躍している。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	ノートテイク・パソコンテイクだけでなく、教員、受講生への配慮依頼、席の配置、機器の使用などを組み合わせて、最適な方法で支援している。		

Check!

### 全学受付窓口の設置

障害学生・支援学生スタッフ・教員・職員の一貫相談受付窓口設置（障害学生支援室）

## その他の支援

入学式・卒業式での配慮	希望があれば、手話通訳、車いす介助、ガイドヘルプ等を実施。
視覚障害学生の支援	教材加工（テキストデータ化）、映像解説（音声ガイド）、試験時の点訳・墨訳等、定期試験時の配慮等。
肢体不自由学生の支援	ポイントテイク（ノート作成）、介助、定期試験時の配慮等。
パソコンルームの設置	肢体不自由学生用（PC、高さ調整可能機・トラックボールマウス）、視覚障害学生用（PC、点字プリンタ、拡大読書器）の機器を設置。
学生ルームの設置	学生スタッフの活動拠点となる学生ルームを障害学生支援室横に設置。障害学生との交流の場としても活用されている。
教員への配慮文・手引きの配布	授業担当教員に配慮文・手引きを配布し、随時障害学生支援室にて教員のサポートを行っている。また新任教員に対して「障害学生支援のための対応例」を配布している。
講習会開催	ノートテイク、パソコンテイク、車いす介助等の講習会を開催。また、先輩スタッフが講師となるパソコンテイク体験講座を定期的に開催している。

## 学生の「主役力」を活かしたサポートシステム

立命館大学障害学生支援室では、学生を主体とした「ピア・エデュケーション」を軸に運営しています。

障害学生とサポートスタッフ、それぞれの「主役力」を支援の基盤としており、この両者への支援を支援室が担っています。障害学生とサポートスタッフは、それぞれ協力し合いながら、授業支援等の直接的なサポートや、障害理解を推進するための啓発企画、スキルアップを目的とした講座の企画・実施など、同じチームに所属する仲間として互いに連携し学びあっています。

また、本学では、学生の力を活かした支援室運営のために「学生コーディネーター制度」を設置しています。学生コーディネーターは、ピア・エデュケーションの観点から、障害学生とサポートスタッフのつなぎ役を担うとともに、新人サポートスタッフの育成や両者のメンターの役割なども担う、先輩サポートスタッフのことで、本学の特徴的な取り組みのひとつです。

以上のように、障害学生とサポートスタッフ、両方の成長につながる仕組みづくりに取り組んでいます。

### 支援の質の向上を目指して

#### 学生からのフィードバック集計

学期ごとに障害学生、サポートスタッフ、学生コーディネーターからのフィードバックを集約・分析し、よりよい支援のあり方について定期的に検討している。

#### 講座の運営とマニュアル作成

支援の標準化、確立化に向け学生が中心となりパソコンテイク・ノートテイク講座の実施、マニュアル作成を行っている。

#### 学生コーディネーター制度

支援に関わる学生の主体的な学びと成長に寄与するため、学生コーディネーターを中心とした支援の仕組み作りを行っている。

#### 参考資料

ホームページ <http://www.ritsumei.ac.jp/drc/>

#### 問い合わせ先

立命館大学障害学生支援室

Tel 075-465-1952 Fax 075-465-1982

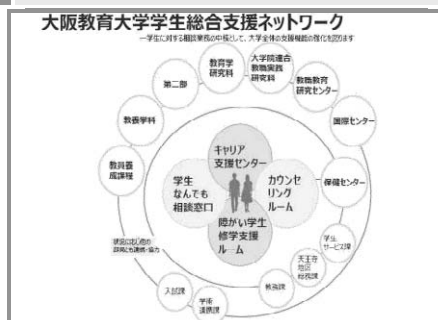
E-mail [drc@st.ritsumei.ac.jp](mailto:drc@st.ritsumei.ac.jp)

# 大阪教育大学

- 支援組織名称 大阪教育大学 障がい学生修学支援ルーム
- スタッフ 教員 2 名(兼任 1 名含)、職員 4 名(兼任 1 名含)

障害学生数 16 名

設置形態	国立大学
学生数	4671 人
所在地	〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘 4-698-1



## パソコン、ノートテイク・要約筆記

提供しているサービス	パソコンテイク ノートテイク 要約筆記 手話支援
利用者数	6 名
登録支援学生数	110 名
サービス提供時間数	週 37 コマ (PC 37 コマ)
報酬および経費	1000 円/時間
募集方法	掲示板ポスターや HP で掲示、ガイダンス等で支援学生募集チラシを配布。
コーディネート方法	学期開始前に障がい学生とコーディネーター、職員が面談を行い、ニーズを確認したうえでコーディネートを行う。また、授業開始前にコーディネーターと職員が授業担当教員に直接会うなどし、授業期間中を通じて密に連絡・相談を行う。
養成方法	障がい学生支援に関する様々な研修機会 ・教養基礎の講義として「障がい者支援入門」を開講 ・ガイダンスや支援技術研修会の実施 ・学生が主体的に進める技術講習会や手話サロン実施
本学パソコン、ノートテイク・要約筆記の特徴	障がい学生の要望によりパソコンテイクが主流になっている。グループディスカッションなど授業の形態によりノートテイクや手話支援に対応できるよう研修を行っている。

## その他の支援

様々な支援	視覚障がい・肢体不自由・発達障がい・病虚弱等のケースに応じ面談を行った上で個別の支援を行っている。【実施例】点字、字幕挿入、シャワー設備の改善。
各種行事・説明会での情報保障	要請に応じ、必要な行事・説明会にも支援学生を派遣し、情報保障を行っている。
教職員対象講習会	障がい学生支援全般に関する FD・SD を実施。
別室対応	発達障がいのある学生に対し、遠隔講義システムの活用と、休息場所を確保している。

### Check!

#### 学生による主体的な支援活動

学生を中心に講義の情報保障活動を展開してきた志しを大切に生かしていきます。

#### 学生総合支援ネットワーク

学内に設置されている全ての学生相談窓口がネットワークのもとに連携し、大学生活全般を通じた支援を実施しています。

#### 障がい種ごとに応じた専門部会

特別支援教育講座等と支援ルームコーディネーターが常時連携し、学生 1 人 1 人に応じたきめ細やかな支援の実施に努めています。

## トピック

平成 24 年度に障がい学生修学支援ルームが設置され、翌 25 年度にはルームが移転拡充しています。さらに遠隔情報支援室も設置されました。

夏休みには「研修合宿」を実施し、利用学生と支援学生、教職員が参加しています。理解を深め、課題を話し合うことで、ともに成長していきます。

#### 【H27 年度「研修合宿」プログラム】

- ・盲導犬についての講演
- ・ポッチャ（パラリンピック種目）大会
- ・学生ミーティング 等

## 「共に気持ちよく学び合う活動」を目指して

障がい学生と支援学生が普段からの交流を通じて互いの理解を深め、より質の高い支援活動につなげていけるよう、ミーティングや勉強・研修、休憩などに使用できるオープンスペースを併設しています。

#### 参考資料

<http://osaka-kyoiku.ac.jp/campus/gakusei/sienroom/index.html>

#### 問い合わせ先

障がい学生修学支援ルーム TEL・FAX 072-978-3479



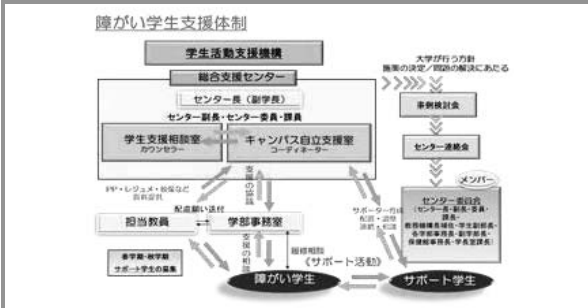
関西学院大学

- 支援組織名称 学生活動支援機構総合支援センターキャンパス自立支援室  
[http://www.kwansei.ac.jp/university/university\\_003952.html](http://www.kwansei.ac.jp/university/university_003952.html)

- **スタッフ** 職員9名（うちコーディネータ4名、非正規2名）  
センター委員（教員）8名

聴覚障害学生	12名（学部生12名 院生0名）
視覚障害学生	2名（学部生2名 院生0名）
肢体障害学生	9名（学部生9名 院生0名）
発達障害学生	23名（学部生23名 院生0名）
精神障害学生	11名（学部生11名 院生0名）

設置形態	私立大学
所在地	(西宮上ヶ原キャンパス) 〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155 (神戸三田キャンパス) 〒669-1337 兵庫県三田市学園2-1 (聖和キャンパス) 〒662-0827 兵庫県西宮市岡田山7-54



ノートテイク・パソコンテイク

提供しているサービス	■ノートテイク ■パソコンテイク		
利用者数	7 名	学部生	7 名
		院生	0 名
ノートテイク数	278 名（字幕付・実験場・トススタッフ含む）		
サービス提供時間数	2015 春学期 週 54 コマ		
報酬および経費	1000 円／時間		
募集方法	募集ポスター・チラシ・立て看板・ 教学 WEB サービスにより募集。すでに参加している学生による口コミも活用。募集用 DVD の作成。		
コーディネート方法	コーディネータが、ノートテイクの配置・連絡・調整を担当。ML を活用し、代理テイクの確保・連絡等を行っている。		
養成方法	ノートテイク養成講座（6 時間）を学期開始前に実施（聴覚障がい学生や先輩テイクが講師として協力）。中間ミーティングで各授業支援方法を見直し、改善案をその学期に活かす。		
本学ノートテイク・パソコンテイクの特徴	パソコンテイクは、パソコンテイク 2 人に手書きサポート 1 人を加えた 3 人体制で実施している。授業の情報保障では、パソコンテイクは WORD に単独入力し、10 分程度で相手テイクと交替する方式。必要に応じて授業や講演会、セミナー情報保障では、IPTALK を使用することもある。 学期末にはアンケートを実施し、毎学期末ごとに意見交換会の場を持ち、制度運営の見直しを行う。		

## その他の支援

カウンセラーとの連携	総合支援センター学生支援相談室のカウンセラーと発達障害学生支援を中心に連携し、障がい学生支援を行っている。
手話通訳	講演会などの学内行事及び研究演習科目等に必要に応じて手話通訳者を配置。
キャリアガイダンス等各種行事への手話通訳・ノートテイク・パソコンテイクの派遣	障がい学生から依頼があった場合は派遣する。
電磁誘導ループ	大教室を中心に設置している。
ビデオ文字起こし・字幕付け	年間 62 本(2015 年度)
学生フリースペース	支援センター事務スペースに隣接して学生の交流スペースを設置。言語科目として日本手話を選択履修している支援学生もおり、時折、手話によるコミュニケーションが見られる。
聴覚以外の障がい支援	発達障がい、視覚障がい、肢体障がい等、学生の困り具合に応じて個別対応を行っている。

Check!

## 建学の精神に基づいた全学的支援

大学の掲げるミッションステートメントと障害者支援基本理念に根ざし、全学的な支援体制をとっています。総合支援センター委員会には 40 名以上の教職員が集まって、支援基本方針等を審議します。

### 參考資料

関西学院大学

(学生活動支援機構総合支援センターキャンパス自立支援室)

<http://www.kwansei.ac.jp> → キーワード「修学支援」  
で検索

## 問い合わせ先

学生活動支援機構総合支援センターキャンパス自立支援室  
西宮上ヶ原キャンパス

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155

電話：0798-54-7034 FAX 0798-54-7044

E-mail : jiritsu-nuc@kwansei.ac.jp

神戸三田キャンパス

〒669-1337 兵庫県三田市学園 2-1

電話：079-565-7903 FAX 079-565-7929

E-mail : jiritsu-ksc@kwansei.ac.jp

# 広島大学

●支援組織名称 アクセシビリティセンター

●スタッフ

センター長1名、教員1名、  
コーディネーター5名（技術1、支援3、連携1）、事務補佐員1名、  
学生スタッフ80～100名程度（チューター3、TA3、インターン20～30、  
サポーター15～20、実習受講生50程度）

視覚障害	3名
聴覚障害	5名
肢体不自由	6名
その他	18名

## ノートテイク・パソコン要約筆記

募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教養教育科目「障害学生支援ボランティア実習 A, B (実習)」を開講。</li> <li>●アクセシビリティ・サポーター（2級 AL 資格取得＋実習経験者）を採用。</li> <li>●インターン（1級 AL 資格取得者）を採用。</li> <li>※AL…アクセシビリティリーダー</li> </ul>
コーディネート方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●配慮願いの送付（支援委員→授業担当教員）</li> <li>●空きコマ登録（実習生・サポーター・インターン）</li> <li>●派遣シフトの調整（週単位）</li> <li>●派遣の連絡・調整（アクセシビリティセンター）</li> </ul>
養成方法	AL 育成プログラム（ALP）の各段階で養成。 （スキルアップの例） <ul style="list-style-type: none"> <li>●実習→2級 AL 資格→サポーター</li> <li>●実習→1級 AL 資格→インターン</li> </ul>
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人材育成プログラム（ALP）の実施</li> <li>●多様な人材の活用</li> <li>●ICT の積極的活用（ワイヤレス・遠隔・クラウド・タブレット・音声認識など）。</li> <li>●サポートの最適化（手書き、PC、遠隔、要約口述筆記等のハイブリッド型サポート）</li> </ul>

Check!

全学支援体制＋育てる支援

Accessibility × Diversity = Potential

## アクセシビリティリーダー育成プログラム

年齢や障害の有無、言語や文化の違い等の多様性に関わらず、誰もが社会の利便性を享受でき、多様な可能性を開拓できる社会をリードする人材“アクセシビリティリーダー”の育成を推進。

産学官連携の育成協議会を設立し、人材育成と人材活用を社会に開かれた形で展開。



設置形態	国立大学
学生数	約15000人
所在地	〒739-8511 東広島市鏡山一丁目3番2号



## その他の支援

配慮願いの送付	●当該学部・大学院の支援委員から授業担当教員や関係教職員に対して「配慮願い」を送付。
助聴・補聴機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業における無線（赤外線、FM、300MHz 帯）補聴システムの導入。</li> <li>●助聴器・有線補聴・無線補聴（FM、300MHz 帯）機材の在学中の貸与。</li> </ul>
音声認識技術の活用	●口述要約筆記サポート。 ●音声字幕付復習用教材の WEB 配信を試行。
字幕作成支援	●授業音声・教材音声のテキストデータ化。
遠隔サポート	●情報支援のワイヤレス化・クラウド化・ユビキタス化を図っている。
入学式・卒業式における情報支援	●必要に応じて要約筆記・手話通訳を実施。
学生情報システムでの情報提供	●電子シラバスで、使用教材・授業スタイル等、アクセシビリティに関する情報提供を行っている。
手話講習会の実施	●年2回（前期と後期に各1回）実施。
教育・人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オンラインアクセシビリティ講座を全学生・教職員に向けて配信。</li> <li>●ALP の全課程を含む AL 育成特定プログラム※を実施。</li> <li>※本学では主専攻・副専攻に加えて特定プログラムを専攻することができる。</li> </ul>

## サービス向上を目指して

- I) 知る機会、学ぶ機会の拡充  
「オンラインアクセシビリティ講座」の配信  
全学研修会、各種講習会の開催
- II) 教育・人材育成  
◆教育課程（オンライン講座×2＋実習×2＋講義×2）◆資格認定◆インターンシップ◆キャンプで構成される人材育成・活用プログラム（ALP）の実施
- III) ユニバーサルな教育支援方法の開発  
次世代の教育支援方法を積極的に模索（音声認識活用など）

## 問い合わせ先

アクセシビリティセンター

TEL 082-424-6324, E-mail achu@hiroshima-u.ac.jp

URL <http://www.achu.hiroshima-u.ac.jp/>

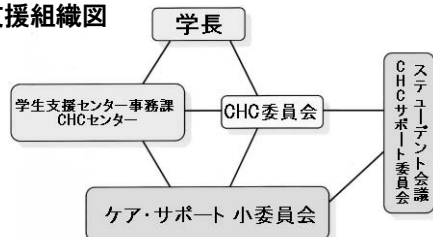
# 四国学院大学

- 支援組織  
人権と文化の多様性に関する委員会 (CHC)
- スタッフ CHC 委員 5 名 事務局 2 名 (うちコーディネーター 1 名)

聴覚障害学生	9 名	学部生	9 名
視覚障害学生	1 名	院生	0 名
肢体障害学生	6 名		

設置形態	私立大学
学生数	約 1,200 人
所在地	〒765-8505 香川県善通寺市文京町 3-2-1

## 学内支援組織図



## ケア・サービス

提供しているサービス	□アテンダント□ノートテイク □パソコン要約筆記		
利用者数	12 名	学部生	12 名
		院生	0 名
サービス提供者数	46 名 (A 25 名/NT 40 名/PC 8 名)		
サービス提供時間数	週 105 コマ (A 41 コマ/NT 64 コマ)		
報酬および経費	730~1000 円/時間		
募集方法	新入生オリエンテーションで、ケア・サービスを紹介。また、イベントなどで実際に体験できる機会を設けるなどしている。		
コーディネート方法	学期初めに利用者の登録を確認後、CHC で組み合わせを決定している。		
養成方法	小委員会に属する先輩による講習会や、利用者と提供者を集めての意見交流会などを実施している。また、アテンダントには介護講習への参加を義務付けている。学生間の交流を増やし、技術の均等化と向上を目指している。またサマーセッションに PC 要約筆記を 2 クラス設けている。		
本学ケア・サービスの特徴	これまでのノートテイク、アテンダント両サービスを統合し、本学の建学憲章にある「私たちの基本理念」に基づいてサービスを提供している。		

## 手話通訳

利用者数	4 名	学部生	4 名
		院生	0 名
手話通訳者数	2 名 (手話通訳士に依頼)		
サービス提供時間数	週 1 コマ		
報酬および経費	5400 円/時間		
募集方法	外部委託		
コーディネート方法	学期初めに利用者の登録を確認後、必修、選択必修の順に受講者数の多い科目や、4 年生の演習等に CHC が調整を行い派遣している。		
養成方法	直接的養成ではないが、カリキュラムとして実施しており、教養科目の語学講義に前期に日本手話 I を 2 クラス、後期に日本手話 II を 2 クラス設けている。		
本学手話通訳の特徴	講義のみならず、学内行事においては、入学式、卒業式、各種講演会など手話通訳の配置が常態化している。		

## Check!

毎年マイノリティ・ウィークや人権週間を実施。各種講演会や行事で人権啓発を行っている。

## 人権啓発に取り組んでいます。

すべての人が生まれながらに平等な存在として尊重され、生きていくことが、日本国憲法など法的に保障されています。しかし実際の社会生活では、必ずしも、すべての人が生きていくうえで平等な扱いを受けているわけではありません。民族、国籍、肌の色、性別、出生、親子関係、心身の障害、信仰、身体的特徴、性的指向、年齢、言語、食文化など、差別のきっかけになることはたくさんあります。自由な学問研究と教育を行う大学においては、いかなる形の差別も許されません。本学では、自由な教育と研究を確保するために「人権と文化の多様性に関する委員会」(CHC: The Committee for Human Rights and Cultural Diversity) を設け、差別のない大学づくりのために努力をしています。

## サービス向上を目指して

新入生への働きかけが功を奏し、今年度はサービス提供者が例年の 2 倍以上に増え、利用希望数に対するサービス提供割合は、9 割を超えるまでになっています。また、サービスの質を向上すべく、講習会や交流会を通じて、技術だけでなく考え方にしても丁寧に伝えています。

## 問い合わせ先 四国学院大学 CHC センター

教学事務部学生支援センター事務局内 CHC センター  
Tel.0877-62-2111 (内線 423) e-mail: chc@sg-u.ac.jp

# 愛媛大学

## ●支援組織名称（スタッフ数）

バリアフリー推進室（4）

教育・学生支援機構 学生支援センター（5）

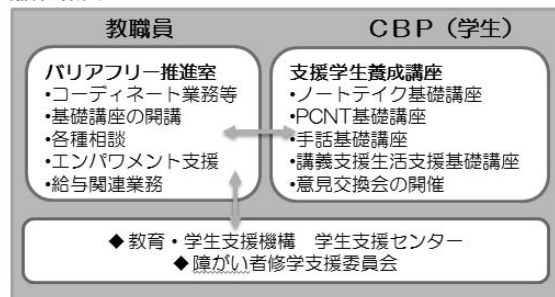
障がい者修学支援委員会（10）

障がい学生支援ボランティア（Campus Barrier-free Promoters：16）

聴覚障がい学生	2名
視覚障がい学生	2名
重複障がい学生	0名
肢体障がい学生	5名
発達障がい学生	8名

設置形態	国立大学法人
学生数	9526人（大学院生・研究生含む）
所在地	〒790-8577 愛媛県松山市文京町3 <a href="http://www.ehime-u.ac.jp/">http://www.ehime-u.ac.jp/</a>

## ●支援組織図



## ノートテイク・パソコンNT

提供しているサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>■パソコンノートテイク</li> <li>■ノートテイク</li> <li>■手話通訳</li> <li>■代筆（聴覚・視覚・肢体不自由）</li> <li>■講義支援・生活支援（肢体不自由）</li> <li>■学生生活支援（聴覚・視覚・肢体不自由）</li> </ul>
支援学生数	78名
サービス提供時間数	希望する全ての講義に支援を提供
報酬および経費	900円/時間（障がい学生支援経費）
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示。入学式などで活動紹介。全学メールで募集。
コーディネイト方法	バリアフリー推進室の職員3名（正1非2）が調整を行っている。利用学生と支援学生の調整を行い、できる限り専門性、経験のある学生を配置している。ノートテイクは1人の利用学生に対して2人つく事を原則としており、一方を経験者にするなど、よりよい情報保障が提供できるよう心がけている。
養成方法	障害学生支援ボランティア（CBP）の学生による、ノートテイク基礎講座及びパソコンノートテイク基礎講座を随時開講

## その他の支援

入学式・卒業式の 情報保障	パソコン通訳と手話通訳を用意している。
文字起こし・字幕入れ	講義等で使用する映像資料に字幕がない場合、字幕挿入ソフトを使用して字幕を入れている。
盲ろう学生への対策	盲ろう学生・肢体不自由学生向けの電子資料作成を行っている。
スチューデント・キャンパス・ボランティア（SCV）の協力	学生ボランティア（SCV）は9つのグループより構成されており、その中の障がい学生支援ボランティア（CBP）が支援活動を担っている。また、講座の開講及び利用学生と支援学生の意見交換会等も学生が企画・実行している。その他、必要に応じて他団体の連携も行っている。
支援機器の貸し出し	視覚障がい、聴覚障がい、肢体障がい等、多様なニーズに対応する生活支援機器の紹介、貸し出し、フィッティングを行っている。

## Check! 学生と教職員によるコラボレーション

障害学生支援ボランティアの主体的な活動が力に！

## ◆現状と今後の課題

- 愛媛大学の特色は、大学組織である障がい者修学支援委員会・学生支援センター、バリアフリー推進室・支援学生（SCV のグループである CBP）による、多方向からなる支援が挙げられる。
- バリアフリー推進室と CBP 代表者の会議を基に、支援学生がそれに基づいた活動を展開している。利用学生や支援学生の意見を大きく反映するとともに、双方の学生の育成に貢献することを目指している。
- 障がい者修学支援委員会メンバーは、関係学部から議題に応じて対応出来るよう、専門教員を中心に構成されている。
- 職員がコーディネイト業務を担当するようになり、CBP の負担は軽減された。その分、支援学生に対してノートテイクなどのスキルアップ体制に力を入れられるようになった。
- CBP の顧問は、専門の教職員が担当。
- 幅広い障がい学生に対応できる支援システム構築に向けて、大学全体で取り組んでいる。

## ◆サービス向上を目指して

- バリアフリー推進室、学生支援センター、障がい者修学支援委員会、CBP の協力体制をより強固にし、より充実した支援体制の確立を目指す。
- 支援活動中に発生した利用学生、支援学生のトラブル等に早急に対応できるように、報告書の提出を義務化し、迅速なフィードバックが行えるようにする。
- 利用学生と支援学生同士の自由な意見交換ができる環境を提供する。

## ◆参考資料

- **バリアフリー推進室ホームページ**  
URL: <http://www.ehime-u.ac.jp/section/bfree/>
- **バリアフリー推進室 Facebook ページ**  
URL: <https://www.facebook.com/bfreeehimeu>
- **CBP のホームページ「はごろぐ」**  
URL: <http://haguhagucbp.blog52.fc2.com/>
- **愛媛大学 SCV (Students Campus Volunteer)**  
URL: <http://www.ehime-u.ac.jp/SCV/>
- **学生支援センター**  
URL: <http://web.csaa.ehime-u.ac.jp/>

## ◆問い合わせ先 バリアフリー推進室

TEL/FAX: 089-927-8114 E-Mail: [bfree@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:bfree@stu.ehime-u.ac.jp)

# 福岡教育大学

## ●支援組織名称 障害学生支援センター

## ●スタッフ センター長、副センター長、支援担当教員、 コーディネーター2名(非常勤)、事務補佐員1名(非常勤)

聴覚障害学生	5名	学部生	5名
		院生	0名
肢体障害学生	0名		
その他	3名		

## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記		
利用者数	5名	学部生	5名
		院生	0名
ノートテイク数	68名 (NT・PC53名/PCのみ15名)		
サービス提供時間数	利用者が希望するすべての授業		
報酬および経費	760円/時間		
募集方法	入学時に新入生向けに案内を配布。掲示板に募集ポスターを掲示。		
コーディネート方法	障害学生支援センターと学生とが連絡調整を担当。		
養成方法	ノートテイク入門講座・スキルアップ講座を実施。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	タブレットPCを導入し、無線でのテイクを実施。		

### Check!

聴覚障害教育専攻があるため、専門的知識・技術を持つ学生が多い

## トピック

1. 平成27年8月1日より、障害のある学生への教育及び学生生活の支援を行っていた「障害学生支援室」を更なる支援の充実を図るため発展・拡充し、「障害学生支援センター」として発足した。

2. 他大学での研修会開催にも協力している。

福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校主催

第9回 情報サポート講習会で支援方法の演習・講義担当

(平成25年8月23日)

福岡大学「聴覚障がい学生の支援に向けたノートテイク講演会」

(平成26年9月10日)

福岡大学「聴覚障がい学生支援講演会」(平成27年3月23日)

3. 主催研修会等

「障害のあるかたへの支援に関する情報交換会」

(平成24年11月17日)

「バリアフリーマップに関する作成報告会」

(平成26年9月16日)

4. 日本学生支援機構の「障害学生修学支援ネットワーク」の

拠点校にも選ばれており、セミナー、講習会等も実施している。

<平成26年度 開催セミナー>

平成26年度専門テーマ別障害学生支援セミナー

(平成26年11月15日)

主催：独立行政法人 日本学生支援機構(JASSO)

共催：福岡教育大学/九州大学

### 設置形態

国立大学法人

### 学生数

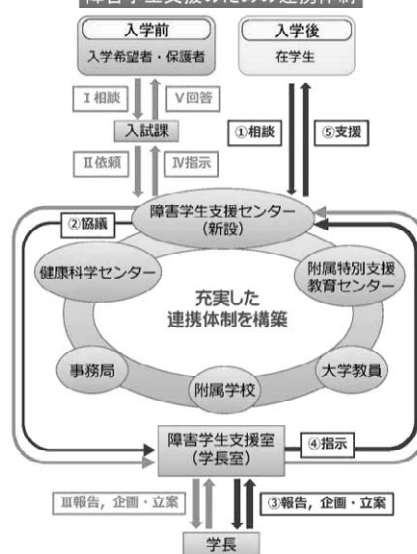
学部 2792人、大学院 187人  
専攻科 22人

### 所在地

〒811-4192  
福岡県宗像市赤間文教町1-1

### 学内支援組織図

#### 障害学生支援のための連携体制



## その他の支援

入学式・卒業式での手話通訳者設置、字幕提示	有り(手話通訳士が対応。字幕は学生による支援)
磁気ループの敷設	なし
聴力検査、補聴器の調整	言語聴覚士の資格を持つ教員が対応。
FM補聴器の貸出	有り

### サービス向上を目指して

- ・授業担当者による視覚的情報や資料の準備がかなりの程度なされるようになり、以前と比べるとノートテイクの負担が軽減されるようになったが、より理解しやすい提示法や説明を行えるようにFD研修等を実施したい。
- ・支援対象の授業の既履修者、学生の専門に合わせてノートテイクとして授業に配置することで、より容易に内容理解ができるようにしたい。
- ・全学的に取り組めるように、支援組織を充実させたい。
- ・より有効な支援を支援学生、利用学生がともに考えることができるように、学生対象のスキルアップ講習会、支援室登録学生同士のミーティングを充実させたい。

### 参考

福岡教育大学障害学生支援センター ホームページ  
<http://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/shien>

### 問い合わせ先

障害学生支援センター TEL 0940-72-6062

E-mail: havefun9@fukuoka-edu.ac.jp

# 沖縄大学

●支援組織名称 学生支援課 障がい学生支援コーディネーター

●スタッフ 3名（専従非正規雇用）

聴覚障害学生	5名	学部生	5名
		院生	0名
視覚障害学生	1名		
肢体障害学生	5名		

## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	■ノートテイク■パソコン要約筆記 簡単な手話通訳		
利用者数	5名	学部生	5名
		院生	
ノートテイク数	40名（NT 10名／PC 30名）		
サービス提供時間数	週 42コマ（NT 9コマ／PC 33コマ）		
報酬および経費	1140円／コマ		
募集方法	4.5月の講義の冒頭の時間での告知、オリエンテーションでの募集、ゼミや講義での体験会。チラシやネット。		
コーディネート方法	情報共有はメーリングリストを基本にSNSも補助的に使っている。しかし、電子情報より対面や電話でのやり取りが重要である。		
養成方法	定例の支援体験会、勉強会、交流会、定例会を通じて養成を行い、講義の見学・体験を経てサポートに入る。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	沖縄国際大学との勉強会・交流会も定期的に開催している。地域の要約筆記者、卒業生も関わっている。		

## 沖縄のキーパーソンが育つことを願って

障がい学生・聴覚障がい学生支援は個別の取り組みとなるため、現場での状況を把握しづらいことがある。また学生も問題を感じていたとしても、周囲に伝えられないことがある。

そのため、全体で集まる機会を定期的に作り、問題を共有できるように心がけている。具体的な企画としては、交流系の企画と勉強系の企画である。

技術、コミュニケーションともに至らぬ点も多いが、課題を大切に学生と教職員でよりよい支援活動を作っていく。

そして、沖縄の聴覚障がい学生支援を担う人物が育つことを願っている。



設置形態	私立大学
学生数	2027名（学部生：1994名、院生：13名、その他：20名）
所在地	〒902-8521 沖縄県那覇市宇国場 555 番地

### 学内支援組織図

学生部学生支援課の障がい学生支援コーディネーターが実務を担う。全学科から選出される学生生活支援委員会が上部決定機関である。教員との連携は学生生活支援委員会、学生部を通じて全学教員会議により行う。

## その他の支援

入学試験	・試験時間の延長 ・別室受験の実施
授業時/大学生活	・情報保障者の配置 ・教室変更 ・座席位置の配慮 ・点訳資料、拡大文字資料の準備
就職に関する支援	・相談対応 ・障害者求人への情報収集と学生への紹介
教職員への理解啓発	・障害学生が履修する授業の担当教員への配慮依頼 ・非常勤を含む全教員に具体的な配慮願いの配布 ・障がい学生支援をテーマに教職員研修会を開催

### Check!

交流と勉強の二本柱

学生と教職員でとものつくる活動

### サービス向上を目指して

本学の障がい学生・聴覚障がい学生支援は様々な企画を行っている。

交流系の企画では、定例会（隔週）、お弁当会（隔週）、夏合宿、新入生交流会、スポーツ大会等。

勉強系の企画では、ノートテイク体験会、車イス学生支援体験会、タイピング大会、ダイバーシティ勉強会（月1回）、手話勉強会（週1回）、障がい学生の個別勉強会、沖国大合同勉強会（2, 3ヶ月1回）等。

学生に企画運営を任せようとしており、特に障がい関係の勉強会には、障がい学生に講師を依頼している。

支援活動の基礎は学生集団にある。ある程度の人数が集まれば様々な活動が広がっていくものである。

教職員はききかけづくりとマネジメント役を担っている。まさに学生と教職員でとものつくる活動である。

### 問い合わせ先

部課：学生支援課 障がい学生支援コーディネーター  
担当者：横山・平良・宇久田

Email: gakuseika@okinawa-u.ac.jp

# 筑波技術大学

Check!

本学は、聴覚及び視覚障害者のために創られた我が国唯一の国立大学です

設置形態	国立大学法人		
学生数	373 名（学部生 354 名、院生 19 名） （平成 27 年 7 月 1 日現在）		
所在地	【産業技術学部（聴覚障害系）】 〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15 【保健科学部（視覚障害系）】 〒305-8521 茨城県つくば市春日 4-12-7		
聴覚障害学生	220 名	学部生	214 名
		院生	6 名
視覚障害学生	149 名	学部生	140 名
		院生	9 名

## 障害に配慮した授業

さまざまな方法で情報獲得	視覚教材、手話、口話、板書等、授業ではさまざまな伝達方法を用いて、内容を伝える工夫をしている。
対話を重視した授業	専任教員は手話をはじめとして、学生に適したコミュニケーション方法で直接的に教育。少人数授業で、すべての学生が教員と意思疎通しながら学ぶことができる。
障害関係科目の開設	「デフコミュニティと社会参加」、「聴覚障害教育と心理」など聴覚障害について学ぶ科目が多数設置され、学生が自己の確立や社会との関わり方を知る機会となっている。
チューター制度	高等学校までの学習が不十分な場合、チューター（個人指導者）が放課後などを利用して、マンツーマンで指導。
できる力を養う演習	講義で得た知識の定着や、正しい理解の促進のため、演習、実習、実験を多数配置し、実際の作業を通しての学習に重きを置いている。
非常勤講師の授業も分かる	直接的なコミュニケーションが難しい非常勤講師の授業は、リアルタイム字幕提示システム等により情報を保障。
情報保障のある外国語の授業	原語の投影ならびに日本語による解説時の情報保障などにより、ドイツ語やフランス語を学ぶことができる。本学ならではのアメリカ手話の授業もあり。

## その他の指導・サービス

手話指導	学生は 1 年次の必修科目として手話の指導を受けるほか、職員や新任教員を対象とした手話研修も行っている。
聴覚管理・補聴相談	補聴器フィッティングに関する相談や、自らきこえの程度を把握し、補聴器の自己管理ができるよう最新の聴力測定システムを配備した指導プログラムを提供。
発音・コミュニケーション指導	学生のニーズやコミュニケーション特性に合わせて、指導を受けることができる。3～4 年次の就職活動の際には、就職面接に合わせたコミュニケーション指導も提供している。
目で分かる連絡・広報	ケーブルテレビシステムを用いて校内の各所に設置されたテレビモニターに文字または画像を配信し、学内広報・各種ニュースを伝達している。
字幕入りビデオ教材	本学で開発された字幕挿入システムを用い、字幕入りビデオを多数作成。聴覚障害系図書館に配架している。
就職支援	学生の大半が「聴覚障害と就労」の授業を受講するほか、学生および卒業生に対して就職試験や面接、職場実習、職場適応に関する指導や支援を行っている。企業との連携を深めるための諸活動を実施。

## 大学院 技術科学研究科情報アクセシビリティ専攻の設置

本専攻は聴覚・視覚障害者の社会的自立・参画に貢献するための障害者支援に関する専門的・系統的な知識と技術を有し、社会において障害者支援の中核的な役割を担う高度専門職業人及び研究者の養成を目指し、平成 26 年度に設置された。障害による出願資格はなく、障害のない人も入学できる。

履修コースは、障害者支援（聴覚障害）コース、障害者支援（視覚障害）コース、手話教育コースの 3 つを設定し、障害に対する課題を科学的に把握し主体的に対応する科目や、情報保障及び障害特性に関する科目で編成されている。

本専攻を修了すると、修士（情報保障学）の学位が取得できる。



写真：障害者支援（聴覚障害）コースでの授業の様子

### サービス向上を目指して

文字通訳に関するさまざまなシステム開発を行っている。ルビ付き字幕やシースルーメガネへの字幕表示のほか、遠隔地からの文字通訳を可能にする遠隔情報保障システムの開発も進んでいる。開発しているいくつかのシステムは実運用もなされており、利用者の声を聞きながら、より使いやすいシステムになるよう、改良を重ねている。

### 参考資料

筑波技術大学 Web サイト <http://www.tsukuba-tech.ac.jp/>  
詳しい資料やイベントの案内などを見ることができます。

### 問い合わせ先

障害者高等教育研究支援センター  
障害者支援研究部（聴覚障害部門）

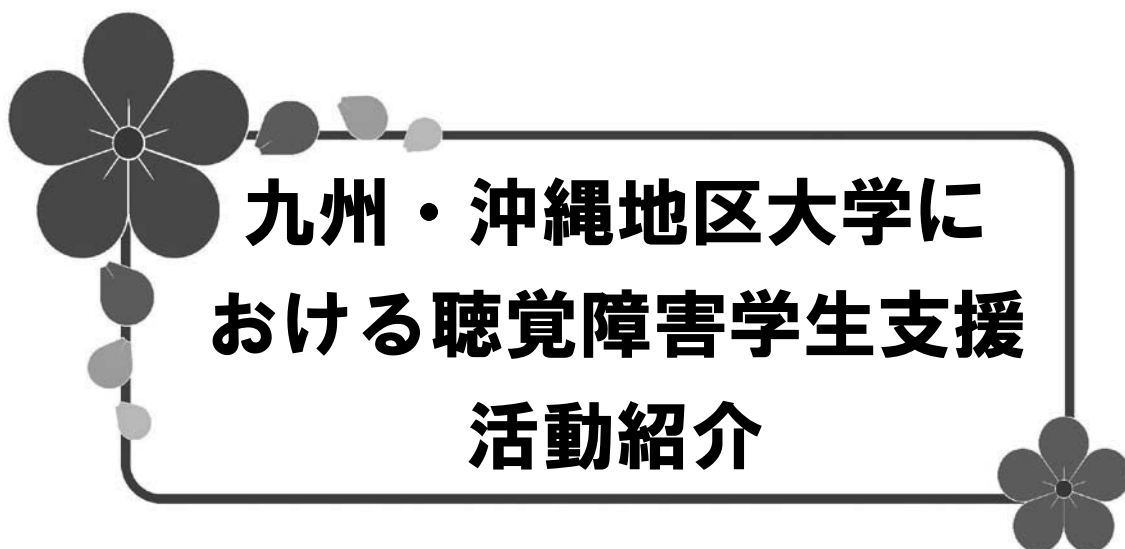
TEL/FAX : 029-858-9438

E-mail : [t-tac@tsukuba-tech.ac.jp](mailto:t-tac@tsukuba-tech.ac.jp)

※聴覚障害学生支援に関する相談も受け付けています。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.





# 九州・沖縄地区大学に おける聴覚障害学生支援 活動紹介

## 掲載大学一覧

- 九州大学
- 九州産業大学
- 筑紫女学園大学
- 熊本大学
- 熊本学園大学
- 熊本保健科学大学
- 宮崎大学
- 長崎大学
- 琉球大学
- 沖縄国際大学

# 九州大学

●支援組織名称 九州大学障害者支援推進委員会、障害者支援 推進専門委員会、キャンパスライフ・健康支援センターコミュニケーション・バリアフリー支援室

●スタッフ教員 3 名、非常勤カウンセラー 3 名、事務補佐員 1 名

発達障害学生	非公開
聴覚障害学生	非公開
視覚障害学生	非公開
肢体障害学生	非公開

## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	パソコンノートテイク
ピア・サポーター数	18 名
報酬および経費	バリアフリー・アクセシビリティ支援活動時間数やAL 1 級・2 級資格取得等によって、段階的に報酬内容を分けている。
募集方法	・基幹教育総合科目「バリアフリー支援入門」「アクセシビリティ入門」「ユニバーサルデザイン研究」「アクセシビリティマネジメント研究」を開講 ・ピア・サポーター学生育成によるピア・サポーター学生育成プログラム啓発ポスターを掲示。 ・入学オリエンテーションや学生ポータルサイト等でピア・サポーター学生育成プログラムをPR。
養成方法	基幹教育総合科目「アクセシビリティ入門」でのパソコンノートテイク技術指導等。
本学パソコンノートテイクの特徴	支援実績が少ないため、スキル向上のトレーニングを実施している。

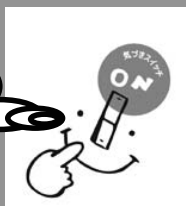
\*AL: アクセシビリティリーダー育成協議会が認定しているアクセシビリティリーダーのこと

## 全ての人が個性と能力を発揮できる知的探求の場であるために

本学は 5 つのキャンパスから構成されている研究総合大学である。平成 26 年にコミュニケーション・バリアフリー支援室が設置された。障害の有無に関わらずともに学ぶことを通して、全てのものが成長する支援、および障害に関する学問の発展に寄与する支援を推進している。「障害の社会モデル」をベースとし、修学・就労環境の整備を推進するのが本学のあり方である。

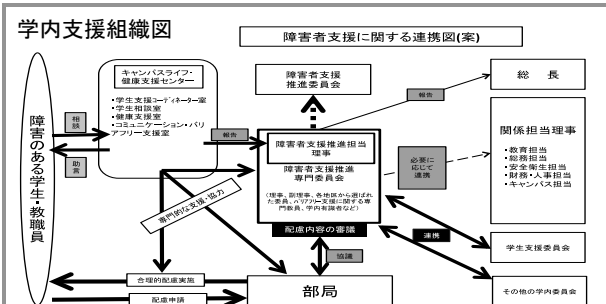
障害・社会への見方が変わる

「気づきスイッチ」on!



「気づきスイッチ」イラスト @2015 年度前期「バリアフリー支援入門」広報班 作成

設置形態	国立大学
学生数	18,907 人
所在地	〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡 744 番地



## その他の支援

授業における全体的な配慮要請	基幹教育院授業担当教員に、聴覚障害・視覚障害・発達障害・精神障害への合理的配慮内容についての要請。
個別的配慮要請・個別支援	入学前後の相談、新入生面接、個別面談、コンサルテーション（教員、専門職）の実施。
居場所支援	フリートーク、コミュニケーション訓練等のグループワーク実施。
就労支援	アルバイト講座（就業体験に繋がるための講座）、インターンシップ講座、ES や面接等の講座実施。
教育・人材育成	・本学におけるピア・サポーター学生評価の独自基準を作成し、段階的なピア・サポーター学生育成プログラムを実施。 ・バリアフリーマップ作成プロジェクトによるピア・サポーター活動。
教職員向けの手話講座	コミュニケーション・バリアフリー支援室スタッフによる定期的な手話講座開講。

Check!

障害のある学生・教職員を対象とした全学支援体制の構築

### サービス向上を目指して

- ・障害者（学生・教職員）への全学支援体制へ
- ・恒常的な支援経費確保
- ・学生、教職員のバリアフリー意識向上
- ・障害のある学生とピア・サポーター学生との交流の場
- ・各キャンパス間の連携、対応
- ・入学式、卒業式等での文字情報保障
- ・大学間ネットワークの形成

### 参考資料

本学コミュニケーション・バリアフリー支援室リーフレット  
キャンパスライフ・健康支援センター「キャンパスヘルス」  
基幹教育広報誌「囀鳴」  
<http://www.chc.kyushu-u.ac.jp/organization/barrierfree.html>

問い合わせ先 キャンパスライフ・健康支援センター  
コミュニケーション・バリアフリー支援室  
TEL&FAX 092-802-5859、e-mail sreos@chc.kyushu-u.ac.jp

# 九州産業大学

●支援組織名称 九州産業大学学生部厚生課

●スタッフ 教職員 6 名

聴覚障害学生	公表せず	学部生	公表せず
		院生	公表せず
視覚障害学生	公表せず		
肢体障害学生	公表せず		

## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク		
利用者数	4 名	学部生	4 名
		院生	0 名
ノートテイク登録数	63 名 (NT) (2015 年 10 月 27 日現在)		
サービス提供時間数	利用者が希望するすべての授業		
報酬および経費	750 円/時間		
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示		
コーディネート方法	学生部厚生課職員の障がい学生支援の担当者（兼務）が相談窓口となり、連絡調整を行っている。		
養成方法	学外の講師による、ノートテイク養成講座を前期と後期に実施。さらに、能力向上のために、パソコン要約筆記講座やフォローアップ講座を行う予定である。		

設置形態	私立大学
学生数	学部 10,223 名、大学院 180 名
所在地	〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台 2 丁目 3 番地 1 号

### 学内支援体制

学生部厚生課と学生が協力し、聴覚障がい学生の支援を行っている。

## その他の支援

入学式での手話通訳者設置	有り（外部に依頼し対応）
磁気ループの敷設	なし
字幕デコーダーの設置	なし

**Check!**

学生が主体となって支援を行うことができる環境がある！

## 本学のノートテイクについて...

本学では、聴覚障がい学生の支援は、数年ほど前から行っていますが、登録しているノートテイクの組織も技術も、まだまだ、伸びしろがある状態です。

初心者 of ノートテイクが多いですが、どのようにすれば良いノートテイクができるのだろうと、考えながら活動をしています。ノートテイクも、聴覚障がい学生も、互いに成長している様子が見受けられます。

今後は、この双方のスキル・知識向上のため、外部講師による、パソコン要約筆記講座やフォローアップ講座を行う予定です。

### サービス向上を目指して

- ・より質の高い情報保障の実現のため、ノートテイク登録学生によるミーティング、また支援を受けている聴覚障がい学生も含めたミーティング等を行う予定である。
- ・全学的に取り組めるように、支援組織を充実させたい。
- ・聴覚障がい学生だけでなく、他の障がいを持つ学生の支援についても、学内における理解を促したい。

### 問い合わせ先

学生部厚生課 TEL : 092-673-5991  
FAX : 092-679-5288

# 筑紫女学園大学

## ●支援組織名称 学生課

## ●スタッフ 職員 7 名

聴覚障害学生	5 名	学部生	5 名
		院生	0 名
視覚障害学生	0 名		
肢体障害学生	6 名		

## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記 (IP talk 使用)		
利用者数	5 名	学部生	5 名
		院生	0 名
ノートテイク数	62 名 (NT 48 名 / PC 14 名)		
サービス提供時間数	利用者が希望する全ての授業		
報酬および経費	500 円 / 1 コマ 90 分		
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示。新入生オリエンテーションや必修科目の時間内にボランティア学生で構成された聴覚障害学生支援団体 (MSG) による発表やお知らせを行っている。		
コーディネート方法	聴覚障害学生支援団体 (MSG) がテイクから提出されたシフト希望用紙を基にテイク配置などを行う。		
養成方法	ノート (PC) テイク講習会を前期と後期に実施し、テイクの技術向上を図っている。講習会の計画、周知、指導は全て MSG のスタッフが行っている。		

## 学生主体の支援を行っています！

本学では、ボランティア学生で構成された聴覚障害支援団体 (MSG) が、テイクの指導、相談対応などを行っています。MSG (Mutual Support Group) は、困難を抱える学友を助けたい、一緒に学びたいという気持ちから生まれた団体です。聴覚障害学生自身も MSG に所属し、スタッフとしてシフト調整などの活動を行っています。また、定期的にテイク講習会や合宿 (写真) を開催し、テイク技術の向上を目指しています。

設置形態	私立大学
学生数	2, 476 人
所在地	〒818-0192 福岡県太宰府市石坂2丁目12-1

### 学内支援体制

障害のある学生の相談窓口を学生課におき、常時相談を受け付けている。また、学部長会の下に合理的配慮準備委員会を設置し、障害学生に対する具体的な配慮について協議している。尚、準備委員会メンバーには身体障害分野と発達障害分野の専門教員も含まれている。

## その他の支援

入学式・卒業式での手話通訳者設置	有り
磁気ループの敷設	なし
字幕デコーダーの設置	なし

### Check!

社会福祉コースがあるため、専門的知識・技術を持つ学生が多い。

### サービス向上を目指して

聴覚障害学生の人数に対し、テイク数が少ないのが現状である。テイクを増やすために、定期的な講習会を実施し、MSG が指導を行っている。また、MSG では、毎週一度定例会を行い、聴覚障害学生から授業で困ったことなどの報告を受け、改善するように努めている。

参考資料  
なし

問い合わせ先  
学生課 TEL 092-925-3515 / FAX 092-925-9654

# 熊本大学

## ●支援組織名称 学生相談室

## ●スタッフ 職員2名、キャンパスソーシャルワーカー2名

聴覚障害学生	1名	学部生	1名
		院生	0名
視覚障害学生	0名		
肢体障害学生	2名		

設置形態	国立大学法人
学生数	10193人
所在地	〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40番1号

### 学内支援組織図

現在、障がい者支援部署はなく学生相談室が相談の一環として支援活動を行っている。

平成27年11月に障がい学生支援室の準備室を設置し、平成28年4月から専任部署として活動する予定である。

## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	■ノートテイク■パソコン要約筆記		
利用者数	1名	学部生	1名
		院生	0名
ノートテイク数	23名（NT 9名/PC 22名）		
サービス提供時間数	週10コマ		
報酬および経費	770円/時間（学部生） 880円/時間（大学院生）		
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示		
コーディネート方法	聴覚障害学生の支援は、所属している学部の教務担当職員が主体となる。テイクの連絡調整は、学生相談室において行っている。		
養成方法	ノートテイク養成講座3日間18時間（6h×3日）を3月に実施（学外の講師）している。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	支援の専任部署がないので、学生サポーターが自主的に活動を行っていること。		

## その他の支援

入学式での手話通訳者設置	設置なし 式辞原稿等を事前に交付する。
磁気ループの敷設	なし
字幕デコーダーの設置	なし

## 聴覚障がい学生により近い支援を

熊本大学聴覚障がい学生サポーター室は、週に一度、聴覚障がい学生とテイクが集まり、テイクについて振り返る場を設けています。他のテイクからアドバイスをもらうだけでなく、聴覚障がい学生本人から具体的な希望を聞くことで、より実態に即した支援を行うことが出来ます。

この時間があるため、お互いの距離が近いことが熊本大学の特徴です。週に一度の反省会のほか、食事会や誕生日会、クリスマスパーティーなど、折々にイベントを行うので、テイク同士はもちろん聴覚障がい学生とも親交が深まります。



### （学生サポーターの声）

#### 「先生たちへの認識を広めたい！」

ノートテイクを行う上で大切なのが、先生方の協力です。聴覚障がい学生に口の動きが見えやすいように話したり、理解ができていないか折を見て確認したりと、熊本大学の先生方はとても配慮をしてくださいます。

しかし、テイクは受講生ではないこと、情報保障にはどうしてもタイムラグが生じてしまうこと、早口になると間に合わない時もあることなど、細かい部分までは把握していただけていないのが現状です。これからも、先生方に理解いただくよう努めたいと思っています。

### 問い合わせ先

熊本大学学生支援部学務ユニット  
学生支援チーム（学生相談担当）  
tel: (096) 342-2127  
E-mail: gag-soudan@umamoto-u.ac.jp

熊本学園大学

## ●支援組織名称 熊本学園大学しょうがい学生支援室

●スタッフ 職員2名、相談員（教員）1名、学生スタッフ46名

聴覚障害学生	0名	学部生	0名
		院生	0名
肢体障害学生	7名（サポート利用学生）		
高次脳機能障害学生	1名（サポート利用学生）		

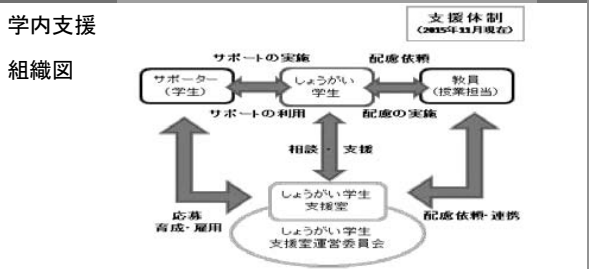
ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記 ※過去に実施		
利用者数	0 名	学部生	0 名
		院生	0 名
ノートテイク数	46 名		
サービス提供時間数	利用学生が希望する全ての時間		
報酬および経費	790 円／時間		
募集方法	年に 2 回（春・夏休み）サポーター養成講座を開催。講座ポスターを学内に掲示、また教員に依頼し授業でチラシの配布をしている。またポータルサイトやホームページなどでも参加を呼びかけている。		
コーディネート方法	支援室の職員（コーディネーター）が対応しサポートが必要な授業に対し学生サポーターを調整。		
養成方法	サポーター養成講座（4 日間の講座で聴覚・視覚・肢体・高次脳機能・発達しょうがいについて学び、修了した学生をサポーターとして登録）で基礎を学び、サポーター登録後、定期的にスキルアップ講習を開催。		

設置形態	私立大学
学生数	5,137人（平成27年5月1日現在）
所在地	〒862-8680 熊本県熊本市中央区大江2丁目5-1

学内支援

## 組織図



## その他の支援

入学式での手話通訳者設置	あり（手話は学外手話通訳士に依頼。字幕は学生サポーターもしくは学外に依頼対応）
磁気ループの敷設	なし
談話室（休憩室）の設置	しょうがい学生同士、あるいはサポーターと交流する場として、しょうがい学生支援室の隣室に談話室を併設。
キャリア支援セミナーの開催	年に1回、しょうがい学生を対象としたキャリア支援セミナーの開催。卒業生の経験談や外部講師によるキャリア講座などを実施。

**Check!** いつでも多様なしょうがい学生支援  
に対応できるようにしています

## しょうがい者と災害を考える学習会

サポーターリーダーを中心に交流会や学習会の企画・開催を行っています。前年度からは、災害時にどう対応するか学習会を開催し、しょうがい学生と一緒にグループワークや避難体験を行いました。今後は、避難経路マップの作成なども検討しています。

サポーターリーダーを中心に交流会や学習会の企画・開催を行っています。前年度からは、災害時にどう対応するか学習会を開催し、しょうがい学生と一緒にグループワークや避難体験を行いました。今後は、避難経路マップの作成なども検討しています。

## サービス向上を目指して

- ・現在、聴覚しょうがいの学生は在籍していないが、いつでもサポートの提供ができるように、サポーターや職員が聴覚しょうがい者の支援の基礎を理解し、迅速に対応できるように準備しておきたい。また継続して支援機器の充実も図ってきたい。
- ・他大学の聴覚しょうがい学生の支援状況を把握し、今後可能であれば支援協力などができるようにしていきたい。

## 參考資料

熊本学園大学学生課しょうがい学生支援室 Facebook  
<https://www.facebook.com/kqu.osd>

問い合わせ先

熊本学園大学しょうがい学生支援室  
(TEL:096-364-9015、E-mail : shogai@kumagaku.ac.jp)

# 熊本保健科学大学

## ●支援組織名称 障害学生支援室

## ●スタッフ 室長、教員7名、職員5名

聴覚障害学生	1名	学部生	1名
		院生	0名
視覚障害学生	0名		
肢体障害学生	0名		

## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記		
利用者数	1名	学部生	1名
		院生	0名
ノートテイク数	5名（NT 1名/PC 4名）、他		
サービス提供時間数	利用者が希望するすべての授業（講義および実習） 2015 年前期：11 科目 2015 年後期：5 科目		
報酬および経費	学生 NT：1,050 円/1 コマ（90 分）		
募集方法	学内掲示板への募集ポスターの掲示、リーフレットやガイダンスでの呼び掛け等。		
コーディネート方法	障害学生支援室の職員がコーディネーターとなり、利用学生および学内外ノートテイクとの連絡調整をおこなう。		
養成方法	ノートテイク養成講座、スキルアップ講座を実施。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	月 1 回、利用学生・学内外ノートテイク・支援室メンバー・講義担当教員で、より良い支援のために包括的意見集約ミーティングを実施。		

## トピック

- 2011 年 4 月に開学以来初となる重度の聴覚障害学生の入学を契機に『障害学生支援室』を設置
- 発足当初は、支援室規程を策定するとともに、聴覚障害学生の授業参加を保障する取り組みが中心
- FD 推進委員会との連携（障害学生支援室と FD 推進委員会による合同セミナー開催）
- 2015 年 2 月「熊本保健科学大学における障害のある学生への支援に関する基本指針」制定

障害学生支援室リーフレット一部



設置形態	私立大学
学生数	学部 1,493 人 大学院 21 人 別科 20 人
所在地	〒861-5598 熊本県熊本市北区和泉町 3 2 5 番地

## 学内支援組織図

障害のある学生への支援に関する基本方針のもと、障害のある学生を含め、すべての学生がよりよい学生生活をおくれるように、障害学生支援室、学生相談室、FD 推進委員会、スモールグループ担任等が連携した全学的な取り組みとして、様々な支援をおこなっている。

## その他の支援

入学式・卒業式等行事での字幕表示	利用者が参加する行事の場合は、学外ノートテイクによる字幕表示をおこなう。
磁気ループの敷設	1 部屋（講義室）のみ設置。
映像教材の字幕挿入	有り
特殊教材等の整備	実習ではモニター付き顕微鏡等特殊な実習器具で対応。

## Check!

FD 推進委員会と連携し全学的な取り組みとして支援を行っている。

## サービス向上を目指して

- ・学生のカリキュラムが過密なため、学生ノートテイクの確保が課題である。学生と学外ノートテイクの両方の協力を得ることでこれまで支援を続けている。
- ・定期的な支援室便りの配信や FD 推進委員会との連携等により、さらに充実した支援に取り組みたい。
- ・聴覚障害者枠における求人情報について、就職支援センター及び障害学生支援室とのワーキンググループを設立し、外部機関等との連携に努めている。

## 参考資料

障害学生支援室リーフレット  
教職員のための学生サポートブック

## 問い合わせ先

障害学生支援室 学務課  
TEL 096-275-2128 FAX 096-245-3126

# 宮崎大学

- 支援組織名称 ① 宮崎大学障がい学生支援室  
② 宮崎大学障がい学生支援室員会議
- スタッフ ① 教員 1 名、職員 1 名  
② 教員 1 2 名、職員 8 名

聴覚障害学生	公表せず	学部生	公表せず
		院生	公表せず
視覚障害学生	公表せず		
肢体障害学生	公表せず		

設置形態	国立大学法人（4 学部、6 研究科）
学生数	5,508 人
所在地	〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地


## 学内支援組織

- ・障がい学生支援室…全学的な相談窓口
- ・障がい学生支援室運営委員会…支援室の運営について
- ・障がい学生支援室員会議…個別支援計画の検討・策定

## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記		
利用者数	1 名 (他大学)	学部生 1 名 (他大学) 院生 0 名	
ノートテイク数	3 名 (PC 3 名) (他大学への派遣)		
サービス提供時間数	週 2 コマ (PC 2 コマ) (他大学への派遣)		
報酬および経費	(以下、本学の情報) 807 円/時間		
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示		
コーディネート方法	過去の事例では、聴覚障害学生の所属している学科等の教員、所属学部の教務・学生支援係職員が連絡調整を担当。今後も、所属学部・学科等教職員が中心となりつつ、支援室職員がコーディネートに関わる予定。		
養成方法	養成講座の実施 (過去には、学外の専門家、本学教員が講師担当)		

## その他の支援

入学式・卒業式での手話通訳者設置、字幕提示	対象者がいれば、手話通訳及び字幕提示を実施している (過去には、2008 年度入学式で実施)  ↓宮崎大学愛唱歌の歌詞を提示 
補聴機器の貸与	聴覚障害学生が「ホワイトイヤヤー」を希望したことから、障害学生支援経費から購入。NT が付かない講義で使用してきた。学生卒業後も、オープンキャンパスで聴覚支援学校生徒が来校した際に貸与し、好評。
他大学への学生派遣の試行	学内で支援学生の確保が難しい近隣私大に対し、ノートテイク支援のための支援学生として本学学生 (特別支援教育コース学生) を派遣中。

## 障がい者支援の担い手を増やす



宮崎大学では、平成 27 年度から、基礎教育科目「障がい者支援入門」を開講しました。聴覚障害・視覚障害・肢体不自由・精神疾患等の基本的な理解から支援技術及び実践まで、また災害時支援等にわたる幅広い知識・技術を身につけるような構成で、講師は、障害者支援の専門家、精神科・眼科・整形外科の医師、支援学校の教員、言語聴覚士、工学部の障害者支援技術の研究者など、様々な分野の専門家により提供されます。

## サービス向上を目指して

宮崎大学を志望する障がい学生やその家族が、環境や、支援体制等の情報を簡単に適切に取得できる体制整備を行いたいと思います。また、宮崎大学を志望し入っていただいた学生さんが、できるだけストレス少なく大学生活を送れること、また自身の目標や、将来について考える場の提供も必要だと考えています。

### 参考資料 (障がい学生支援室 HP ↓)

<http://www.of.miyazaki-u.ac.jp/~shien/shougaigakuseishien/index.html>

### 問い合わせ先

障がい学生支援室 楠元、宮田

連絡先 (0985-58-7668 s-support@of.miyazaki-u.ac.jp)



# 長崎大学

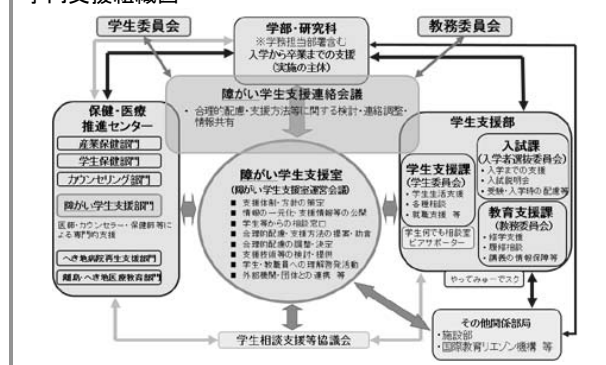
●支援組織名称 障がい学生支援室  
http://www.sao.nagasaki-u.ac.jp/

●スタッフ 普段は教員1名、事務職員3名で運営

聴覚障害学生	公表せず	学部生	公表せず
		院生	公表せず
視覚障害学生	公表せず		
肢体障害学生	公表せず		

設置形態	国立大学
学生数	9088人（学部 7551人、大学院 1537人）
所在地	〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14

学内支援組織図



## ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク		
利用者数	公表せず	学部生	公表せず
		院生	公表せず
ノートテイク人数	1名		
サービス提供時間数	週2コマ		
報酬および経費	820円/時間（謝金）		
募集方法	新入生オリエンテーション、パンフレット、ホームページにて		
コーディネート方法	学部担当カウンセラーや学務窓口と障がい学生支援室が調整を行う。		
養成方法	今後の課題である。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	まだ体系的に実施していない。		

## その他の支援

補助機器	FM システム PHONAK（一部導入）
------	----------------------

### Check!

各学部担当カウンセラーが配置されており、相談・支援の円滑実施をサポート

## トピック

本学では他の障害に比べ、聴覚障害・視覚障害のある学生が少ないこともあり、そのような障害に特化した支援体制がまだ確立・充実していない。今後の取り組みにおいて、特に「アクセスサポーター」（支援活動に参加するピアの学生）の募集や養成が重要な課題である。

支援室が2年ほど前に設置されてから、特に情報共有・支援の全体的枠組みに力を注いできた。今年から定期的に開催される「障がい学生支援連絡会議」がその一環である。また、学生主体で作成中のバリアフリーマップに加え、施設部と財務部からの強力なサポートによりキャンパス内のバリアフリー化が推進されている。さらに、体温調節が困難な学生用に休息室の整備を行い、多様な学生に対応するために講義室で「優先席」を設置した。

### サービス向上を目指して

聴覚障害のある学生のみならず、今後発達障害のある学生等のためにも情報保障を提供すべく、特に手書き・パソコンによるノートテイク業務を担う学生を養成したい。

支援機器は揃え始めているが、その周知や活用が今後の課題である。

### 参考資料

長崎大学 障がい学生支援室

http://www.sao.nagasaki-u.ac.jp/

### 問い合わせ先

障がい学生支援室 support@ml.nagasaki-u.ac.jp

電話: 095-819-2006 Fax: 095-819-2948

# 琉球大学

## ●支援組織名称 障がい学生支援室

## ●スタッフ 室長、室員(併任教員7名)、事務職員1名(非常勤)

聴覚障害学生	3名	学部生	2名
		院生	1名
視覚障害学生	0名		
肢体障害学生	2名		

## ノートテイク・パソコンノートテイク

提供しているサービス	ノートテイク、パソコンテイク		
利用者数	1名	学部生	1名
		院生	0名
ノートテイク数	6名 *無償ボランティア2名 *有償支援員2名 *留学生チューター2名		
サービス提供時間数	週1~2コマ 総提供時間88.5時間		
報酬および経費	1000円/時間		
募集方法	留学生支援のための留学生チューターへの呼びかけ、当該学生の母語(フランス語)の科目担当教員の協力による、指導学生への呼びかけ。		
コーディネート方法	留学生センターの教員及び事務職員、支援学生による連絡調整。		
養成方法	オリエンテーションやミーティングを通じ支援の共通理解や、JASSOが提供する支援ガイドを参考に支援の質を高める。		

設置形態	国立大学法人
学生数	8229人
所在地	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地

## <学内支援体制>

平成26年7月から支援体制整備の検討を開始し、平成27年6月に障がい学生支援室を設置した。今後は、支援室に置かれる障がい学生支援室運営会議にて受入方針の策定、教育方法等の提案や調整等、具体的な運用を決定して支援を進める。

## その他の支援

入学試験での配慮	受験する障害学生に応じ、試験時間の延長、回答方法の変更、別室受験の実施等の対応を行っている。
発達障害学生への支援状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な面談を活用した生活状況の把握により、担当教員と保護者との連携を図る。</li> <li>・登録科目の担当教員に配慮願いを送付し、講義での説明や指示を文書やメモ等を利用した具体的かつ丁寧な伝達を行うよう説明する。</li> <li>・保健管理センターを利用した定期カウンセリングの実施</li> </ul>
肢体障害学生への支援状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護事業者と外部委託サポートを契約して、車椅子での学内移動に際して移動の介助及びトイレ介助を行っている。</li> <li>・授業登録を優先的に受け付け、科目担当教員に予め受講する旨を通知し、必要な調整を行う。</li> </ul>

## Check!

### 障がい学生支援室の設置

平成27年6月に支援室が発足した。

## 聴覚障害学生支援の経緯

平成26年度に入学した短期交換留学生が難聴のため、既存の留学生チューターによる支援の他に、学生ボランティア(無償・有償)によるノートテイク、予習復習の補助等、授業全般に係るサポートを行った。(既に、支援を受けた当該留学生は留学期間を終了し帰国。)

また、大学院生に対する「会話の見える化アプリ:UDトーク」の活用について現在検討しており、支援に当たって必要となる周辺機器(PC、集音マイク)等を整備予定。

## サービス向上を目指して

平成27年度に筋ジストロフィーの学生が入学したことを機に、入学前の段階で当該学生と一緒に学内施設等をチェックし、改修が必要な箇所は可能な限り工事対応した。ハード面の課題として、敷地の広さからハンデを有する学生が利用しにくい環境にあるため、全ての施設改修は直ぐには難しいが対応の必要がある。他に、カウンセリングの活用によりメンタル面のサポート、就職支援の充実も図っていきたい。

## 参考

現在、琉球大学障がい学生支援室のホームページ開設を準備中

## 問い合わせ先

学生部学生課企画係 担当:本郷・式田  
(098-895-8124/gkkikaku@to.jim.u-ryukyu.ac.jp)

# 沖縄国際大学

●支援組織名称 福祉・ボランティア支援室

●スタッフ 2名

聴覚障害学生	6名	学部生	6名
		院生	0名
視覚障害学生	1名		
肢体障害学生	6名		

## ノートテイク・パソコンノートテイク

提供しているサービス	■ノートテイク■パソコン要約筆記		
利用者数	6名	学部生	20名
		院生	1名
ノートテイク数	21名 (NT 11名/PC 10名)		
サービス提供時間数	週 37 コマ (NT 26 コマ/PC 24 コマ) ※手書きとパソコンのペアがいるので、それぞれで1カウント。		
報酬および経費	1200 円/時間		
募集方法	ポスター掲示、学内のサイト、オリエンテーションで募集		
コーディネート方法	福祉・ボランティア支援室の職員が、相談、コーディネート窓口となっている。		
養成方法	年に2回初心者養成講座を実施。また、定期的に勉強会を行い職員が技術指導を担当。		
本学ノートテイク・パソコンノートテイクの特徴	パソコンが苦手だった学生も、練習を積み重ねることで、パソコンノートテイクもできるようになっている。		

設置形態 私立大学

学生数 5,705 人

所在地 〒901-2701

沖縄県宜野湾市宜野湾 2-6-1

### 学内支援体制

2011 年より福祉ボランティア支援室がノートテイク等のコーディネートを開始。教員を交えた福祉・ボランティア支援室委員会で、学内におけるさまざまなバリアに向けて話し合い、アクセシブルな大学を目指し、支援に取り組んでいる。

## その他の支援

ビデオ教材の文字起こし

聴覚障がい学生が受講している講義で映像等を使用する際に、事前に内容を文字にして起こす。作業は学生が空き時間に行っている。

授業担当教員への配慮依頼

教員へ配慮を依頼したい学生が、自分で依頼書を作成し、教員へ配付。(試験時間の延長や、試験の方法等)

入学式・卒業式での手話通訳者設置、全体投影による要約筆記を実施

手話通訳者に依頼。全体投影による要約筆記は、学生が行っている。

### Check!

講義のみの支援ではなく、学外や学内での学生主体のプロジェクトでも、ノートテイクを実施。学生が日頃から情報保障について考えることで、コミュニケーションのバリアを無くす意識を持つことへ繋げている。当事者が主催の手話勉強会もその一つで、手話や障がい理解を広げる取り組みをしている。

## ★どこでも、誰でも情報保障できる環境を目指して★



▲式典でのノートテイク



▲月1度のラジオテイク



▲手話勉強会



▲ノートテイク勉強会



▲学外でのノートテイク

### サービス向上を目指して

- ・利用学生が年々増加しサポーターの不足、支援スキルの差が広がりつつある。教職員がもっと学生の様子を把握できるようにし、全学的に支援に取り組んでいきたい。
- ・県内大学と勉強会を定期的に行うことで、県内大学の要約筆記のレベルを一定にし、質をあげていきたい。
- ・語学の講義やディスカッションにも対応できるよう、勉強会の内容も充実させていきたい。

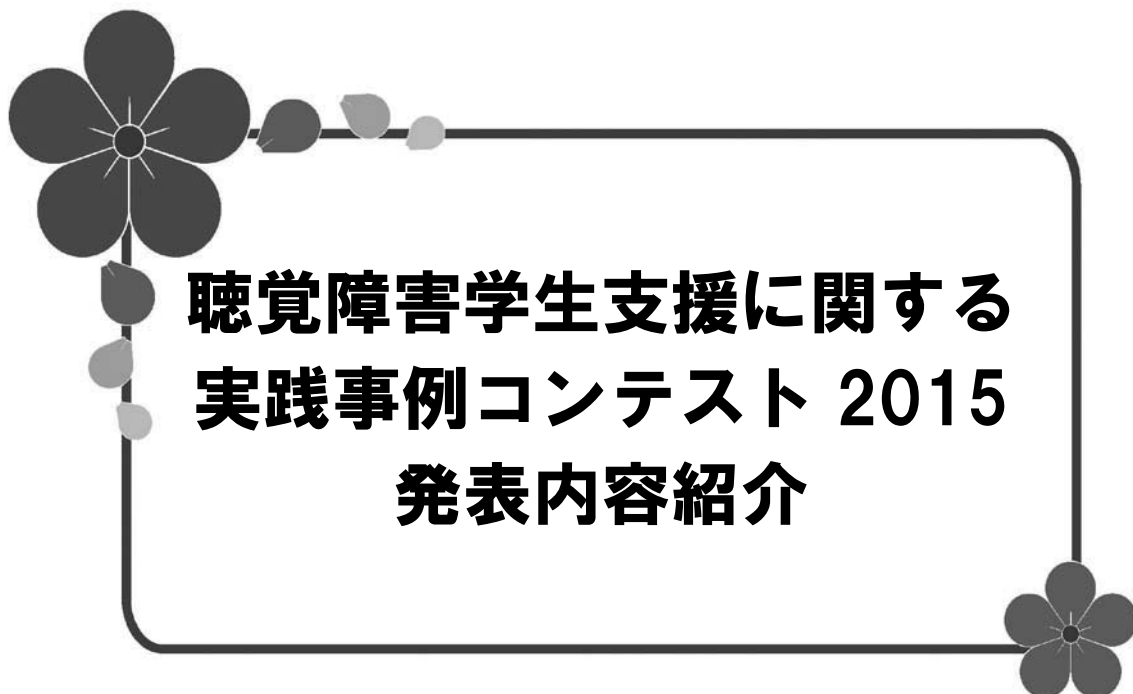
### 参考資料

福祉・ボランティア支援室 Facebook  
「沖縄国際大学 福祉・ボランティア支援室 Socialwork Studio」

### 問い合わせ先

福祉・ボランティア支援室  
連絡先 (TEL098-893-0069、e-mail socwelf@okiu.ac.jp)

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.



## 聴覚障害学生支援に関する 実践事例コンテスト 2015 発表内容紹介

### 参加団体一覧

- 札幌学院大学
- 松山大学 障がい学生支援団体 POP
- 関西学院大学 総合支援センター キャンパス自立支援室
- 大阪教育大学 障がい学生修学支援ルーム
- 東海大学 外国語教育センター
- 大学間連携共同教育推進事業選定取組「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」障がい学生等支援グループ（石川県障がい学生等共同サポートセンター）
- 沖縄大学 障がい学生支援
- 東北福祉大学 障がい学生サポートチーム
- 愛媛大学 CBP（障がい学生支援ボランティア）
- 金沢星稜大学 障がい学生支援チーム
- 東京学芸大学
- 群馬大学
- 千葉大学 ノートテイク会
- 特定非営利活動法人ゆに
- 愛知教育大学 情報保障支援学生団体「てくてく」
- 宮城教育大学しょうがい学生支援室 聴覚しょうがい部会 学生運営スタッフ
- 亜細亜大学 FD グループ（発表内容はアフタヌーンセッション会場にてご覧ください）

## 支援体制の枠組みはできた！

教職員がテイク配置をしてくれる。  
ろう学生は何もしなくて良いの？

テイカーはテイクだけしてれば良いの？

テイカーに、いつなれるの？  
先が見えなくて心が折れるよ

### しかし問題が！？

講習会の参加者が少ない！  
募集どうしよう？

何をどうしたらいいんじゃあ～！ ヽ(@Д@)ノ

## 改善を目指した一年の取り組み

☆ 個々の役割の明確化・配慮の増加

- 授業における教員の配慮が増え、より情報が得やすくなった
- ろう学生やテイカーの支援環境の向上意識が強まり、新人テイカーへの指導・養成講習会の講師になる学生が増えた

### 結果 成果

### 新たな 問題

1年半～2年前の状態

- 制度が整ったが故に形骸化
- 学生と教職員の協働関係の希薄化
- 学生の主体的参加の減少

### 学生と 教職員の 協働

### 問題の 分析

- テイカーは自分に割り当てられたテイク以外には無関心に
- ろう学生が自ら働きかける機会の減少・非協力的
- 教員はテイカーと支援窓口におまかせ状態

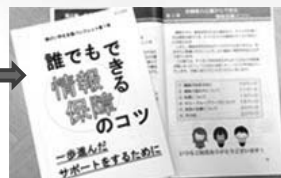
### 原点回帰

### 取り組み 働きかけ

新たに始めた取り組み

- ろう学生もテイカーの養成に携わる
- テイク講習会プログラムの見直し
- テイク関係者による情報交換会を実施
- 支援窓口担当以外の教職員にもコミットしてもらう  
⇒FD 研究会を実施
- 情報保障や、授業で困ったこと・助かったことをまとめた教職員向けパンフレットを作成し、全教職員に配布
- ろう学生の主体的参加と成長を促すための高校生向けガイドブックを製作

※実物を用意しております！



「学生と教職員の協働」の原点に戻る

原点に立ち戻ること、活動の本来の目的を思い出す  
どんな活動を、誰が行うべきか今一度整理・確認する

↓ 結論

今の体制・協働の仕方を改めて考え直す必要がある  
全教職員にも情報保障体制について知ってもらう

問い合わせ先

札幌学院大学 学生支援課 学生支援係 学習支援室・障がい学生支援担当 shien@ims.sgu.ac.jp



### パソコンテイクの練習

週に一回の練習に加え、実際の講義でも練習しています。実践的な練習により、POP 全体のスキルアップにつながりました。



### 他大学との合同講習会

愛媛大学とノートテイク、パソコンテイクのスキルアップのため講習会を行いました。他大学と活動について情報共有もでき、貴重な機会となりました。



### オープンキャンパスでの支援

来ていただいた方に対して、活動の説明を行ったり、作ったチラシを配ったりしました。大学外の方にもアプローチができました。



## 松山大学障がい学生支援

# POP



### モコの DVD 制作

愛媛大学の方と連携して、全国の大学生に向けて障がい者が学校生活をどのように過ごしているかということ、また POP の活動内容についてまとめた DVD を制作しました。

### ぶうシステム

大人の方が通うパソコンの講座を受けている、聴覚障がいの女性の方の支援を行いました。約二か月間ほど、メンバーが交代でパソコンテイクやノートテイクを使い、講義と一緒に受け、内容を女性に伝えるという感じでした。

### 卒業式・入学式

大学の卒業式・入学式に出席して、学長や来賓の方の挨拶をテイクにとり、内容を伝えました。









# 大阪教育大学 障がい学生修学支援ルーム

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY

一歩目って不安、だけどワクワク。  
コースもペースもゴールも自分で決められるからこそ  
**はじめての一歩**を踏み出せる。



手話わいわい



ひらめきも励ましも、日常から生まれる。  
憩う、出会う、語らう、**交流スペース**。



憩いの場

## 共走



遠隔情報保障



字幕礼

昨日はお弁当友達、  
今日はチームメンバー  
**「いいね！  
やろう！」**

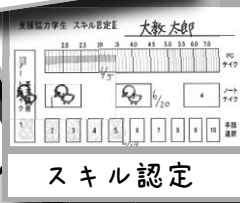


研修合宿

新人応用研修



特待生（手話＆PC）



スキル認定



自己レベルの実感  
×  
その道のカリスマ

「もっと上手になりたい！」  
**「任せろ！」**

設立4年目、当時の新人も4年生。

節目の今、たすきを確実に **繋ぎたい。**

発表者：伊藤愛里（B4）、森野宅麻（M1）、荒木航平（B4）、宮谷祐史（M2）、大前勝利（B2）、  
吉川美夏（B2）、寺西冬萌美（B2）、石田祐貴（専攻科）、萩原萌（B1）、小林千紗（B1）

大阪教育大学障がい学生修学支援ルーム TEL:072-978-3479 E-mail: sienroom@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

# 東海大学 外国語教育センター

## 授業での支援

表1 聴覚障がい学生数の変移

年度	2005	2008	2013	2015
人数	21	12	16	15

### ① テイカーの配置

- ◇ 外部団体にコーディネートを委託（テイカー育成、配置、PC管理など）
- ◇ 希望すれば、テイカー（主にPCテイカー）を各授業でつけることができる  
ただし、語学の科目にはテイカーがつかない
- ◇ 1名の学生に対し、基本的には2名のテイカーがつく

### ② 英語必修科目の振替え

- ◇ 必修の「英語リスニング&スピーキング」科目については、同じ授業コマ数の英語選択科目を受講し、単位を振替える

### ③ 英語科目での支援実践例

- ◇ 毎時間パワーポイントを使い、授業後に同じ資料を渡す
- ◇ アメリカ手話を英語で書かれたASLのテキストを使って学ぶ
- ◇ タブレットを導入したICT授業

## 学生アンケート調査から見えるニーズと教育効果

### ① 情報保障

- ◇ 英語科目は、英語以外の科目に比べ情報保障（サポートの有無と方法）が十分ではない
- ◇ 英語科目での情報保障の希望としては、「プリント配布」が最も多かった  
ただし、「何もないよりはまし」という消去法的観点  
田頭・木下（2013）参照
- ◇ 英語科目でのテイカーによる情報保障は、テイカー自身の英語能力に影響される可能性がある

### ② 授業中の学生の行動、および感想と教育的効果

- ◇ iPad、MetaMoji Shareを使った授業に関して  
「現代的だ」「わかりやすい」「情報をみんなで共有できる点が良い」
- ◇ 視覚的情報を手元でそれぞれが共有でき、しかも手書き入力も可能という点で、学生がより利用しやすい環境を提供
- ◇ 音声を紹介せず、文字情報のみでインタラクティブにやり取りをする工夫を学生自ら作り出す

田頭・木下（2014）参照

### ユニバーサルデザインをめざした授業

タブレットで、MetaMoji Share<sup>注</sup>という書き込みソフトを利用し、情報をタイムラグ無く、同時に視覚的にシェアする

注（株）MetaMojiのフリーソフトで、インターネットにをしたりしながら情報をシェアできるアプリケーション。http://shareanytime.com/jp/

### 聴覚障がいを持つ学生と 聴者の学生が ともに学ぶ英語の授業での取り組み

### ろう文化・聴覚障がい学生への理解

アメリカ手話のワークショップを、外部から講師を招いて、2年に1回程度実施  
授業中に、ペアワークやグループワークを多く取り入れ、授業に関する内容理解だけでなく、お互いの立場を理解し、協力してタスクを成し遂げるための最もよい方法を自分たちで工夫する

### 音声認識ソフトで悪戦苦闘

音声認識ソフトを使い、教員が話す内容を、学生は机の上の自分のiPhoneやiPadでそれぞれ確認しながら授業がすすむ。



授業外でも音声認識ソフトに話しかけて、話

し方、声質や語彙を学習させるも、

- ① まだまだ音声認識の精度が・・・
- ② 英語と日本語が一緒だと・・・
- ③ ネットワークの繋がりにくさ



### 参考文献

- 木下綾 田頭未希(2012)「大学における聴覚障がい学生とろう学生への英語授業支援に関する一考察」『東海大学教育研究所 研究資料集』第20号, 63-78. 東海大学教育研究所
- 田頭未希 木下綾(2013)「英語の授業支援の検討ー聴覚障がいを持つ学生のサポートに関するアンケート調査の報告ー」『東海大学外国語教育センター所報』第33号, 43-49. 東海大学外国語教育センター
- 田頭未希 木下綾(2014)「タブレットを利用した視覚的・双方向的な英語授業ー言語教育におけるユニバーサルデザインの可能性ー」『東海大学紀要』No.22, 95-106. 東海大学教育研究所

### 問い合わせ先

東海大学 外国語教育センター 田頭未希

Email: t-miki@tokai-u.jp

## 「聴覚障がい学生と卒業生の集い」と「手話カフェ」 ～学生・大学・地域を結ぶ取り組み～

### 聴覚障がい学生と 卒業生の集い

各大学の聴覚障がい学生はまだ少ないので…

- ・聴覚障がい学生ならではの悩みや不安を共有する場所がない
- ・手話を使ってたくさんコミュニケーションを図る場所がない

近隣大学の  
聴覚障がい学生や卒業生の  
ネットワークを作ろう！

＜内容＞

卒業生によるレクチャー（学生時代、就職活動、就職してからのことなど）、  
グループディスカッション（学生生活、支援のことなど）

＜参加者の推移＞

平成 25 年度：聴覚障がい学生 2 名、卒業生 1 名

平成 26 年度は「聴覚障がい学生と手話を学ぶ学生の集い」を開催

平成 27 年度：聴覚障がい学生 7 名、卒業生 3 名、ろう学校より生徒 1 名、教職員 6 名

～参加学生の感想～

「他の学生が将来に向けてどのように考えているのかを知れるよい機会となった」  
「大学を卒業した人からの話を聞けてよかった」



### 手話カフェ



- ・手話のできる学生や教職員が少なく、ろうの学生とのコミュニケーションがスムーズでないことも
- ・聴覚障がい学生の人間関係が狭くなりがち
- ・手話を学習したことのある人が手話で交流する機会が少ない

手話の輪を  
広げよう！

～参加の動機～

「もともと手話に興味があり、教わる機会が欲しかったから」  
「せっかく覚えた手話を使ってみたかった」  
「ノートテイクをしていて、手話で話せるようになりたかった」

＜内容＞手話の学習を通じた交流

【27 年度これまでの学習テーマ】

「あいさつ」「曜日」「誕生日、出身地」「趣味」「食べ物」「学校」

＜日時＞月 2 回、昼休み

＜場所＞金沢大学の図書館ブックラウンジ

⇒通りがかった人が関心をもってくださいます。

＜参加者＞金沢大学の学生や教職員を中心に、近隣大学の学生や一般の手話学習者も参加

⇒手話のできる人だけでなく、初めて手話を学ぶ人もたくさん参加しています。毎回 30 名前後の参加者がいます。

～参加学生の感想～

「指を動かしながら習えるのがよい」  
「学年も学類も違う人と関わる  
とてもいい機会になっている」  
「知らないことばかりで知ることが  
楽しい。覚えていくともっと楽しく  
なりそう」

文部科学省 平成 24 年度大学間連携共同教育推進事業選定取組「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」  
参加機関：金沢大学・北陸先端科学技術大学院大学・石川県立大学・石川県立看護大学・金沢美術工芸大学・金沢医科大学・金沢学院大学・  
金沢工業大学・金沢星稜大学・金城大学・北陸大学・北陸学院大学・金沢学院短期大学・金城大学短期大学部・小松短期大学・  
金沢星稜大学女子短期大学部・北陸学院大学短期大学部・石川工業高等専門学校・金沢工業高等専門学校

問い合わせ先

石川県障がい学生等共同サポートセンター [saposen@ml.kanazawa-u.ac.jp](mailto:saposen@ml.kanazawa-u.ac.jp)

# ダイバーシティ Diversity ちゃんぷるー





# 東北福祉大学 障がい学生サポートチーム

～過去から現在、そして未来へつなぐ～

本団体は、東北福祉大学に在籍する身体に障がいのある学生へのサポート活動や障がいに関する学習活動等を行っている学生団体です。本学における障がい学生支援は、20年ほど前からこの学生団体を中心に行われています。過去を振り返って、今後の活動を考えました。

1990年代

有志によるノートテイク  
(聴覚障がい学生支援)



2015年



メンバー 88名  
(うち：サポート利用学生 7名)

今では、聴覚障がい学生のサポートだけでなく、肢体不自由、視覚障がい学生のサポートもやっているよ。



サポートの種別・学年を越えたつながりを求めて・・・“定例会”を充実！

## ある日の定例会



この日のテーマは、「障がい学生と防災」だよ。  
他の日は、車椅子体験や障がい者スポーツ体験などをしたよ。



18:00 開始



18:05 手話教室

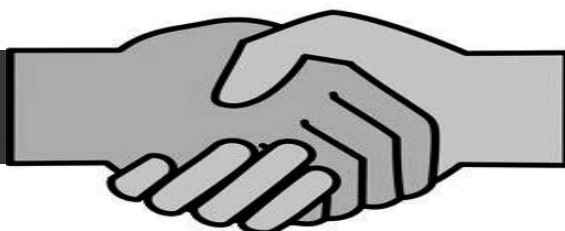


19:00 避難体験



20:00 打ち上げ

障がい学生  
サポートチーム



学内外

学内外とのつながりを強めて、  
今後の活動へつなげていく

【お問い合わせ先】 東北福祉大学 障がい学生支援室

住所：宮城県仙台市青葉区国見1-8-1 TEL 022-301-1291 FAX 022-207-1839 E-mail support@tfu-mail.tfu.ac.jp

# 愛媛大学 CBP（障がい学生支援ボランティア）

## 支援学生＆利用学生の 言いたいけど言えない本音の木！



もっと練習してほしい  
→解決①

1限の支援  
しんどいなあ

手話が  
分からない  
→解決②

ねむいナァ  
ZZZZZZ...

教室に  
入りにくい

利用学生が  
手伝える  
ことはない？

伝わってるか  
心配...

来るのが  
遅いと心配

支援学生との  
距離の取り方が  
分からない時がある

練習する  
時間が無い  
→解決①

支援学生同士の  
音声の会話に  
入りにくい  
→解決②

席が遠いと  
支援にくい？

普段、利用学生と  
関わる機会がない  
→解決②

どうやって解決しよう？

①月一の練習会で腕を磨かない？

②手話ランチで、Let's シュワーツ♪

みんなだったらどうする？

利用学生

支援学生

### 推進室の日常。



(聴導犬のベル  
だワン)

1限の支援学生来て  
ません(;´Д｀)

利

推 【急募】1限支援者!!

推 無事、1限終了ー！  
ありがとー！

おれはカレーで  
いいですよ☆

支



(今日も朝から  
うるさいわあ...)

推 また水3の支援者  
見つからない...orz

推 ま、魔のコマ...

### 〇〇あるあるコーナー

#### 【先生あるある】

- ・指示語が多い(「このグラフはあれを示し...」「(どれだよ!!)」)
- ・エンドレストーーーク!
- ・服がおもしろくて集中できない!! (タンクトップに短パン?)
- ・突然モノマネが始まる!? (例:「ほくドラえもん〜」 「!?!」)

#### 【支援活動あるある】

- ・おもしろい変換ミスに耐えられない! (例:「ある女性が」→「ある受精が」)
- ・支援中ペンのインクがなくなった... 入れ替えを! 利用学生おねがい! ...焦らんのかいっ!!! (早く入れ替えてよおおお)

#### 【初心者あるある】

- ・講座 即 実践 (とりあえずいっとこ!!ニコリ)
- ・支援中ずっと「ごめんなさいい!!」 (泣きそうな顔で帰ってくる1回生)
- ・何事もなく支援ができますようにっ(>人<) (果たして祈りは無事届くのか...!?)



#### 問い合わせ先

【愛媛大学CBP(学生)】E-mail:cbp.scv@gmail.com

【教育学生支援部 学生生活支援課 バリアフリー推進室】

住所: 〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

tel/fax:089-927-8114 E-mail:bfree@stu.ehime-u.ac.jp

CBP公式キャラクター  
「はぐ太郎」







KANAZAWA SEIRYO UNIVERSITY

金沢星稜大学

障がい学生支援チーム

～ろう学生も「安心」して過ごせる「学生生活」を目指して～

### 【手話サークル】

日常会話レベルの手話を楽しく学んでいる。  
ノートテイクに使える手話講座も行っている。



### 【金沢大学との交流会】

講義だけが学生生活ではない！！  
信頼できる仲間がいることも大切！！



### 障がい学生支援SJP ノートテイクー39名所属

ろう学生の入学に合わせて、聴覚に障がいのある学生でも、  
安心して学生生活を送ることができるよう、3年前に誕生！！  
2015年度現在では3名の聴覚障がい学生が在籍している。



### 日本代表選手として、世界大会へ！

本学ではろう学生(2名)が

「アジア太平洋ろう者競技大会 陸上競技」に出場！

- ・森光佑矢(スポーツ学科2年次)(右) 1500m 優勝
  - ・沖田耐芽(スポーツ学科3年次)(左) 800m 6位
- 目指すはデフリンピック出場！！

### 【今後の課題、目標】

授業によって、教員の話が早かったり、  
「ノートテイク」について理解されているかがわからない。  
⇒聴覚障がい学生に対する、  
情報配慮をしてもらうためのが必要

どのようにしたら効率よく、情報を伝えられるか？  
ノートテイクのスキルを熟知する必要がある。  
⇒ノートテイクマニュアルの作成・改善

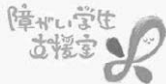


【CONTACT】金沢星稜大学 学生支援課

TEL : 076-253-3925 E-mail : gakusei@seiryō-u.ac.jp



1. 障がい学生支援室の設立の経緯について  
2002年より大学の教職員における支援委員会を中心に障害学生支援が行われてきた。その後、障害学生と支援学生が相互交流を図る場としての障害学生支援室の設置に関し、当事者である聴覚障害学生を中心とした学生から要望を受け、2013年4月より現在の「障がい学生支援室」が開設された。



3. 支援室のバックアップの受け、学生が主体となって実施している取り組みについて

アンケート

ティーカー交流会

UDマップ作成

手話講習会

Facebook

2. 支援室で行われている情報保障の内容について

パソコンテイク

※状況に応じノートテイク



ICT (iPad)による

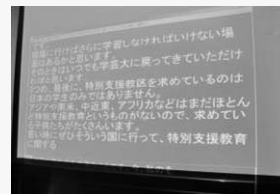
画面表示



DVD等の  
文字起こし



論文発表会等における  
発表原稿のスクリーン表示



## ティーカー交流会での意見交換から

### これまでの取り組み

#### 学生同士の困り感を共有

- ・予測変換が相手が打っているところを隠してしまう。
- ・適切な変換がすぐに出ないことがあり、入力が遅れる。
- ・やりやすいティーカーとやりにくいティーカーがいる。
- ・障害学生がパソコンテイクに求めていることを知りたい。

- ・全部の情報を打ってほしい... or まとめて打ってほしい...
- ・ティーカーに聞きたいことやお願いがある。



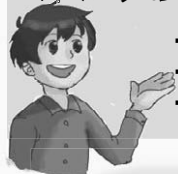
- ・パソコンテイク講習会でスキルアップ。
- ・障がい学生支援室での練習会
- ・パソコンの設定の調整の実施  
(障がい学生支援室or支援学生)
- ・機器の取り扱いマニュアルの作成
- ・ティーカー交流会を定期的に開催し意見交換



共通の困り感として大きかったもの

#### 教職員とのスムーズな連携のためには

- ・話し方やスピード、指示語の使い方、板書の仕方を工夫してほしい。
- ・時々パソコンテイクが入ることに対して違和感を感じる教職員もいる。



- ・配慮のお願いをしたいけど、連絡がとれない。
- ・配布資料や文字起こしの依頼等の準備をしてほしい。
- ・パソコンテイクの為にもしっかり話してほしい。

支援学生と聴覚障害学生で先生にお願い  
したいことを出し合って  
**情報保障依頼書**を作成。  
(H27年度秋学期途中から実施)

### これからの取り組み

#### 安心できる情報保障に向けて

- ・トラブルがあった時にすぐに対応してもらえると安心だな...
- ・ちょっとしたことですぐに相談ができる相手がほしいな...
- ・ティーカー交流会のような機会をこれからも作ってほしいな...
- ・支援学生がもっと増えるといいな...

- ・どのような状況でも対応ができるように  
障がい学生支援室の**スタッフの増員**
- ・学生同士の関わりの機会の充実
- ・学生によるコーディネート
- ・支援学生募集の呼びかけ



発表チーム : 天野貴博(聴覚障害学生)、新海晃(支援学生)

協力 : 東京学芸大学 障がい学生支援室 森脇愛子、喜屋武睦、林安紀子、澤隆史

連絡先: 障がい学生支援室 TEL・FAX: 042-329-7905 mail: gsupport@u-gakugei.ac.jp Facebook(非公式):







群馬大学  
GUNMA UNIVERSITY

# 支援体制が整うことからくる矛盾に挑む！

## 支援の整った後にある問題

- ・テイクは必要、でも友達ができない…
- ・友達はある、のに空気のように扱われる…
- ・友達が手話を覚えた、でも話し合いに参加できない…

知識

≠

意識

支援が整う



友達と楽しい学生生活を送れる

解決方法

そうなのっ!?



えーっ、  
ちがうのっ!?



## ろう難聴学生と聴学生

### ■聴覚障害学生

- ・自らの障害について聴学生に伝える（エンパワメント）
- ・全部出来ないかと誤解されたまにせず、どういう条件だったら出来るかを提案
- ・困っていることとその解決策を提案

### ■大学側

- ・オリエンテーションで自身の障害について話す場の設定
- ・先輩聴覚障害学生から周囲とのコミュニケーションの取り方について話を聞く場を設定
- ・講義「手話とろう文化」「障害者と共生社会」や専門教科

知識

+

経験

が

### ■聴覚障害学生

- ・グループ活動等での交流
- ・情報保障を通して聴学生と関わる
- ・講義やゼミ、サークルなどいろいろな場で聴学生と関わる
- ・ティーカーと交換日記を行う
- ・テイク後、ティーカーにお礼を言うよう努め、聴学生と関わる機会を増やす

### ■大学側

- ・聴学生とろう学生の交流の場を提供

「意識を育てる」

聴覚障害学生と深くかかわる為には…

知識

+

経験

+

意識

が必要

意識

### ■聴学生

知識 + 経験

↓  
意識

を育てる

高い意識が  
ろう学生を  
孤独から救う

## ろう難聴学生同士

- ・ろう難聴学生で手話を思いっきり使って会話ができる。そこにいるのは、少数の仲間の前でこそ引き出せる本当の自分。そして、仲間の前でこそ言える愚痴や本音が、解決への道筋を作る。



## 難聴学生とろう学生

- ・同じ聴覚障害学生との出会いが、自分の障害観を変える

聞き辛さからくる  
仕方なさ、恥ずかしさ、隠したさ  
↓  
障害と向き合い、  
障害の先を見据えるようになる

聴学生への  
適切な働きかけが  
行える

「エンパワメントを育てる」

●お問い合わせ先 ■ 発表者代表 教育学部障害児教育専攻3年 山田茉侑  
E-Mail e13143016@gunma-u.ac.jp

■ 教育学部障害児教育講座 金澤貴之  
E-Mail kanazawa@gunma-u.ac.jp



# 千葉大学 ノートテイク会

	‘14 前期	‘14 後期	‘15 前期	‘15 後期
利用学生	4 年生 1 名	4 年生 1 名	1 年生 2 名	1 年生 2 名
派遣コマ数/週	2	2	<b>22</b>	<b>19</b>
登録支援学生	13	31	22→30	30→35

急激に派遣  
コマ数増加！



## 2人体制

1コマ当たりの  
負荷が大きく、  
テイクの質にも影響

## 3人体制

1コマ当たりの負荷を  
軽減し、継続的に  
テイクに入れる環境

## 新人育成

1人当たりの  
コマ数増を防ぐ

### 3人体制の利点

- テイカーの疲労を軽減できる
- 教員の話す速度に追いつける
- 機材トラブルへの対応がしやすい

### 授業形態に応じた多様な3人体制

- 3人交替連係入力体制（15分ローテーション）
- 3人同時連係入力体制：教員が早口のとき
- PC手書き併用体制（2人連係入力+手書き1人）
- 4人体制（PC 3人+手書き1人）：外国語の授業

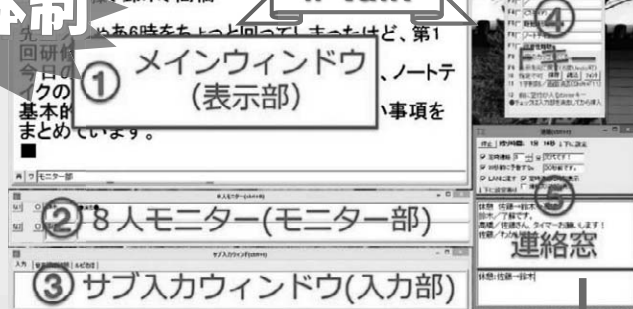
### 手書きテイク

- 数学、物理、化学、外国語などでは必須
- PCでは打ちづらい数式、図表、横文字への対応
- 教員がプリントや教科書などを読み上げる際は、読み上げ箇所を指し示す
- 補足説明をプリントに直接書き込む

## 3人体制

森、鈴木、高橋

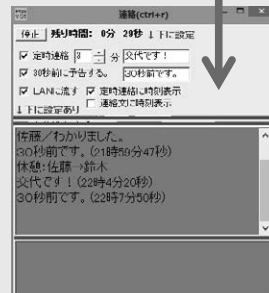
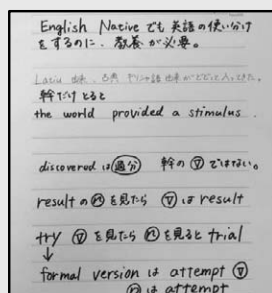
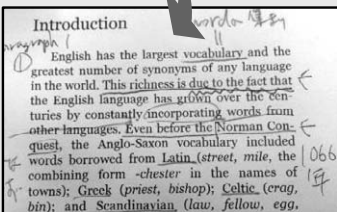
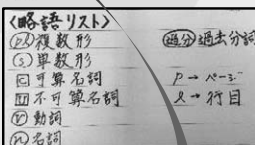
### IPtalk



利用者

PCテイカー

手書きテイカー



## 新人育成

**テイカー検定**：数値化しづらい連係入力のスキル確認のために実施。新入生は最短では2か月（従来は半年）でデビューが可能に。実際の支援に入るに当たり、実戦的テイクに挑戦し、合格すれば晴れてテイカー仲間入り！

**練習会**：学生が主体となって運営、授業に即した実戦的な練習会も開催する。

**研修会**：有線・無線接続の方法などを学ぶ技術研修会と聴覚障害について学ぶノートテイク研修会がある。

問い合わせ先

千葉大学ノートテイク会

代表：笈沼映見 副代表：桜田泰斗、倉林太郎

Mail : info@ntkai.skr.jp

HP : http://ntkai.skr.jp



## ゆにとは



代表 佐藤謙

“ゆに”とは、大学で (University) 誰もが (Universal) 同じように学べるようにするためのユニーク (Unique) な組織 (Unity) といった意味をこめた名前です。障害学生支援を専門とする NPO 法人です。代表の佐藤（筋ジストロフィ当事者）や周囲のサポーターの障害学生支援の経験から生まれました。大学間でのサポーターの共有やサポーター養成、大学からの相談、障害学生からの相談受付、自宅生活の支援などを行っています。大学生の支援からスタートした NPO ですが、今回は「高校での情報保障」に関する取り組みを発表します。

## 高校での情報保障

高校での情報保障は教室にスペースがなく通訳者が入れない、学生同士でのサポートができない、学校単位での支援機関がないなどの課題があります。これまで京都では補聴援助システムを先生に持ってもらうなどの「聴覚補償」の施策が中心でした。そんな中 '14 年に「情報保障」を求める京都聴障児親の会からの呼びかけで、教育委員会や学校、筑波技術大学の協力を得て、遠隔情報保障をいつでも利用できる体制を目指した動きが始まりました。ゆには情報保障の担い手として障害当事者、行政や学校などと相談を進め、'15 年 4 月からの本格的な導入をめざしています。



T-TAC Caption(筑波技術大学三好准教授開発)を利用した支援の様子

## ゆに (NPO・第三者) による情報保障のメリット

### 高校での情報保障実現

- ・情報保障スキルを持った学生や地域の要約筆記者の活用
- ・遠隔情報保障の活用
- ・これまで実現しなかった高校での情報保障が実現可能に

### 情報保障者のレベルアップ

- ・遊休状態の学生 PC テイカーの活用・スキルの維持
- ・現役テイカーのスキルアップ
- ・所属大学での情報保障の質向上

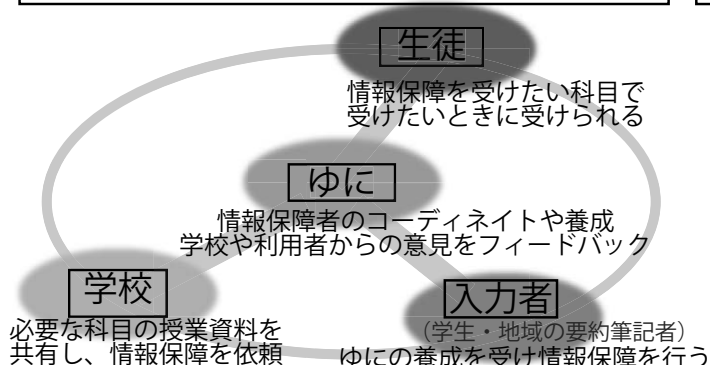
### 情報保障活用の裾野の拡大

- ・高校生のうちに情報保障を経験
- ・大学での情報保障をスムーズに受けられる
- ・情報保障活用になれることができる
- ・音声情報の多さに気づくことができる

### 情報保障者の専門性の確保

- ・養成やスキルアップ・健康維持などのために定期的に講習会を開催
- ・コーディネイト・バックアップ体制の確保
- ・専門の組織によるコーディネイト

## ゆにの情報保障のしくみ



## 利用者の声

- ・わかりやすすぎて心の中で笑ってしまった
- ・マイク（補聴援助システム）だけでは 70～80% しかわからない
- ・板書を写している間は（口が見えずに）聞き漏らすことが多い
- ・これを機に大学受験も頑張りたい
- ・普段聞き漏らしていることがこんなにあるんだと気付いた
- ・暗い授業に花が咲いたようにわかりやすい

問い合わせ先 〒603-8354 京都府京都市北区等持院西町 60-10  
 特定非営利活動法人ゆに 事務局 障がい学生支援担当 TEL: 075-468-1633 FAX: 075-468-1666  
 Mail: info@unikyoto.com Web: http://www.unikyoto.com/ Twitter: @unikyoto fb: unikyoto

2015年発足!

# つながぎ隊



情報保障支援学生団体  
もっと積極的に「てくてく」のために活動したい利用学生と支援学生で結成!!

～今後の活動～

## 内部の向上

### 支援技術練習会

テイク(PC、ノート)スキルや連携能力の向上とてくてくメンバーの交流を図るため



平日での定期開催  
実践的なテーマで練習  
相談室のフィードバック

利用学生

授業

### 支援データの収集・活

用



初回の授業から授業形態を把握し、十分な支援を行うため

### 困ったときの相談室

よりよいてくてくを作り、てくてくメンバー全員が過ごしやすい環境にするため



てくてくメンバーからの相談受付  
てくてく新聞発行(2ヶ月に1回の発行)  
てくてくHP、SNS開設

利用学生

支援学生

### 支援学生の情報共有

支援をする前に相手の支援学生のことを知り、スムーズな支援を行うため



タイピング速度、所属学科  
学年、支援経験等を共有

## 外部への発信

### 理解啓発研修会の開催!

愛知教育大学の中でも、まだ「てくてく」の活動を知らない学生や教員がいるのが現状です。そこで、今年も私たちの活動を知ってもらうために、理解啓発研修会を開催します!



(昨年の様子 講演者: 今村氏)

今年度は1月に開催予定!

講師は現役の聾学校教師

	H24	H25	H26
利用学生	12	13	13
支援学生	140	168	175

利用学生・支援学生の人数が年々増加  
でも……学生同士の関わりは希薄化



そうだ！合宿をしよう！

コーディネーター・学生運営スタッフが中心となり、  
9/17～18の2日間で研修合宿を行いました。

知っていますか？ お互いの気持ち。

～相思相愛の関係を目指して～

## 事例紹介

講義中に、利用学生が「テイクいらないよ」と伝えた。  
支援学生Aはテイクをやめたが、支援学生Bは続けた。

書かなくていいって

テイクいらないよ



3人のそれぞれの気持ちは…？

## 分科会

利用学生・支援学生に分かれ、  
意見を出し合って事例の検討をしました。

支援A→わたしの気持ちを伝えてくれたのかな？

支援B→意地を張っているのかな？

自分の伝え方が曖昧だったのかな…？

続けている理由が分からなかったのかな？

支援学生

支援A：利用学生の意見を尊重した。  
支援B：書いておかないと不安…。

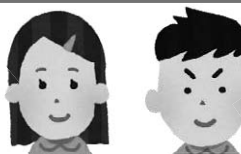


## 全体会

利用学生・支援学生で意見共有を行い、より良い関係づくりに必要なことを話し合いました。

時間をつくって相談しよう！

わだかまりのないテイクがしたい！



もっと具体的に気持ちを伝えよう！

意思疎通を図ろう！

～相思相愛の関係を目指すために～

お互いの気持ちを共有しよう！

積極的にコミュニケーションをとろう！

1人で悩まないで相談しよう！



## 第 11 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

発行日：2015 年 12 月 19 日

発 行：第 11 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム実行委員会

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）事務局

〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター

※本事業は、筑波技術大学「聴覚障害学生支援・大学間  
コラボレーションスキーム事業」の活動の一部です。



デザイン：中島理恵（筑波技術大学産業技術学部総合デザイン学科 学生）

藤本彩加（筑波技術大学産業技術学部総合デザイン学科 学生）



PEPNet-Japan